

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
137	明治27年	秋の部	初秋の鷹の高さよ安房の山	初秋	時候
138	明治27年	秋の部	浦人よ初秋の雑魚ありやなしや	初秋	時候
139	明治27年	秋の部	初秋の枕に近し海の音	初秋	時候
140	明治27年	秋の部	樓高し頭上をはしる天の川	天の川	天文
141	明治27年	秋の部	落潮の漁燈遥なり天の川	天の川	天文
142	明治27年	秋の部	秋風や彼も昔は二千石	秋の風	天文
143	明治27年	秋の部	秋風の砲台高し観音崎	秋の風	天文
144	明治27年	秋の部	海くれて安房の山々秋の風	秋の風	天文
145	明治27年	秋の部	秋風のいさり火消えつ海の闇	秋の風	天文
146	明治27年	秋の部	秋風の鱸肥えたる便りかな	秋の風	天文
147	明治27年	秋の部	縁に出でゝ手を組む人や秋の風	秋の風	天文
148	明治27年	秋の部	秋の風美人眼をやむ帳かな	秋の風	天文
149	明治27年	秋の部	虫の音のやむ時露の音すなり	蟲	動物
150	明治27年	秋の部	大船や霧はれて海の果もなし	霧	天文
151	明治27年	秋の部	秋風や家に白髪之母います	秋の風	天文
152	明治27年	秋の部	稻妻の竹の梢は戦ぐなり	稻妻	天文
153	明治27年	秋の部	朝顔や賣家の札に這ひかゝる	朝顔	植物
154	明治27年	秋の部	朝兒の庄屋が家や寄合衆	朝顔	植物
155	明治27年	秋の部	きり／＼す膳の縁這ふ苫屋かな	きりぎりす	動物
156	明治27年	秋の部	淋しくは爰に來て啼けきり／＼す	きりぎりす	動物
157	明治27年	秋の部	きり／＼す昔話のとぎれかな	きりぎりす	動物
158	明治27年	秋の部	促織の肩に飛びつく浴みかな	こおろぎ	動物
159	明治27年	秋の部	蜻蛉ちら／＼秋静かなる小村かな	蜻蛉	動物
160	明治27年	秋の部	海原や月更けて人樓にあり	月	天文
161	明治27年	秋の部	大原の月下をはしる鉄車かな	月	天文
162	明治27年	秋の部	大海原疊の如し星月夜	星月夜	天文
163	明治27年	秋の部	淺川の水の光りや星月夜	星月夜	天文
164	明治27年	秋の部	秋の雨旅の記をかくひとりかな	秋の雨	天文
165	明治27年	秋の部	荒海や龍王も泣く秋の雨	秋の雨	天文
166	明治27年	秋の部	大杉の梢尖れり秋の空	秋の空	天文
167	明治27年	秋の部	大海の秋静かに月あらはれぬ	秋	時候
168	明治27年	秋の部	行秋や水の底なる栗のいが	行秋	時候
169	明治27年	秋の部	茄子の花小さく咲いて秋暮れぬ	秋の暮	時候
170	明治27年	秋の部	人も見えず一犬吠えて秋くれぬ	秋の暮	時候
171	明治27年	秋の部	栗の種の我から動く夕月夜	栗	植物
172	明治27年	秋の部	水すみて雁影細き野川哉	雁	動物
173	明治27年	秋の部	雁一ツ月のあたりを飛ぶ夜哉	雁	動物
174	明治27年	秋の部	雁の声胡天に入て月落ちぬ	雁	動物
175	明治27年	秋の部	雁なくや扁舟去て水悠々	雁	動物
176	明治27年	秋の部	雁が音や月下をはしる汽車の窓	雁	動物
177	明治27年	秋の部	二三軒柿の紅葉のあはひかな	柿紅葉	植物
178	明治27年	秋の部	草紅葉一逕つきて小家かな	草錦	植物
179	明治27年	秋の部	秋高く海は白帆の往來かな	秋高し	天文
180	明治27年	秋の部	秋晴れたり船去て烟横はる	秋晴	天文
181	明治27年	秋の部	海暮れんとす秋の苫屋に烟起つ	秋	時候
182	明治27年	秋の部	里の秋うなるふみ讀む声すなり	秋	時候
342	明治28年	秋の部	さわやかに秋立つ村の草木かな	立秋	時候
343	明治28年	秋の部	曙の山近うして秋の立つ	立秋	時候

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
344	明治28年	秋の部	曙の雲に秋立つ峠かな	立秋	時候
345	明治28年	秋の部	初秋の蟬ひいと鳴いて飛びにけり	初秋	時候
346	明治28年	秋の部	初秋の人渡るなり瀬田の橋	初秋	時候
347	明治28年	秋の部	初秋の灯火并ぶ港町	初秋	時候
348	明治28年	秋の部	初秋の白河在を旅立ちぬ	初秋	時候
349	明治28年	秋の部	初秋の奥の大名登るなり	初秋	時候
351	明治28年	秋の部	初秋の君は彼方よ浪の音	初秋	時候
352	明治28年	秋の部	初秋の烟起つなり朝の村	初秋	時候
353	明治28年	秋の部	初秋の庭石ぬれて目さめたり	初秋	時候
354	明治28年	秋の部	初秋の手水に映る兒やせたり	初秋	時候
355	明治28年	秋の部	草揺れて灯火揺れて虫のなく	蟲	動物
356	明治28年	秋の部	灯青く秋の雨ふる伽藍かな	秋の雨	天文
357	明治28年	秋の部	辻堂に灯ともす人や秋の雨	秋の雨	天文
358	明治28年	秋の部	奥州の秋の并松雨暗し	秋	時候
359	明治28年	秋の部	何萬里を天の川の音もなし	天の川	天文
360	明治28年	秋の部	龕燈死し僧物いはず電光	稻妻	天文
361	明治28年	秋の部	美しくや小草の露の夕月夜	露	天文
362	明治28年	秋の部	朝露の小狐ぬれて帰るなり	露	天文
363	明治28年	秋の部	白露の我思千々に乱れける	露	天文
364	明治28年	秋の部	はら / \ と葎の露のこぼれける	露	天文
365	明治28年	秋の部	驛路の露の有明面白や	露	天文
366	明治28年	秋の部	白露のこぼれて物を思ひける	露	天文
367	明治28年	秋の部	白露の古き関所をゆくはたれ	露	天文
368	明治28年	秋の部	古道の露踏みしだき / \	露	天文
369	明治28年	秋の部	夕暮の小草花咲く野は廣し	花野	地理
370	明治28年	秋の部	夕月や家を繞りて萩の花	萩	植物
371	明治28年	秋の部	萩咲いてほの三日月の小家かな	萩	植物
372	明治28年	秋の部	雨の萩赤い女の通りけり	萩	植物
373	明治28年	秋の部	草長く灯火細し初嵐	初嵐	天文
374	明治28年	秋の部	文月の太刀佩くは誰が家の子ぞ	文月	時候
375	明治28年	秋の部	更くる夜を椽の実落る山家かな	椽の実	植物
377	明治28年	秋の部	秋風や汝と我と三千里	秋の風	天文
378	明治28年	秋の部	秋の風手はなつ蔓の哀れなり	秋の風	天文
379	明治28年	秋の部	一村は晒月夜となりにけり	月	天文
380	明治28年	秋の部	明月の瀛車路長し那須の原	名月	天文
381	明治28年	秋の部	秋の夕鳥は埜に帰るなり	秋の暮	時候
382	明治28年	秋の部	里の秋このみ草のみこぼれけり	秋	時候
383	明治28年	秋の部	菅笠や秋の峠をゆくはたれ	秋	時候
384	明治28年	秋の部	この曉洗ひあげたる秋なるか	秋	時候
385	明治28年	秋の部	秋晴や鎮守の森の赤い旗	秋晴	天文
386	明治28年	秋の部	山寺の秋の灯火幽かなり	秋	時候
387	明治28年	秋の部	桐一葉此夜山僧帰来ず	桐一葉	植物
388	明治28年	秋の部	東雲や幽かに稻のそよぐ音	稻	植物
389	明治28年	秋の部	早稻の香の千疊敷を吹廻ける	稻	植物
390	明治28年	秋の部	女郎花そとば仆れて文字もなし	女郎花	植物
391	明治28年	秋の部	行秋を何國へ越ゆる順礼ぞ	行秋	時候
392	明治28年	秋の部	行く秋を誰が家の子のかしましや	行秋	時候
393	明治28年	秋の部	秋の暮鳥のつゝく何の骨	秋の暮	時候

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
395	明治28年	秋の部	行秋を恙なかりけり君も我も	行秋	時候
396	明治28年	秋の部	藁葺の屋根はら / \ と秋の風	秋の風	天文
397	明治28年	秋の部	谷川に霧吹下ろし / \	霧	天文
398	明治28年	秋の部	ほろ / \ と柳散りけりほろ / \ と	柳散る	植物
514	明治29年	秋の部	瘦犬のくぐり出でたり萩の垣	萩	植物
515	明治29年	秋の部	初秋の松杉高し城の跡	初秋	時候
516	明治29年	秋の部	城跡の草吹きまくる野分かな	野分	天文
518	明治29年	秋の部	酒壺を野分に仆すこと勿れ	野分	天文
520	明治29年	秋の部	誰が家の子ぞと呼ばれん秋の風	秋の風	天文
521	明治29年	秋の部	泣かぬ子の後ろつき見よ秋の風	秋の風	天文
522	明治29年	秋の部	行秋を宋江壁に題しける	行秋	時候
523	明治29年	秋の部	小傾城にこやかに行秋を知らず	行秋	時候
524	明治29年	秋の部	徒らに我髭伸びつ秋のゆく	行秋	時候
526	明治29年	秋の部	帰るべく帰らば新酒熟すべく	新酒	人事
527	明治29年	秋の部	いざ罷らん栗飯の腹ふくれける	栗飯	人事
528	明治29年	秋の部	菊咲いて雨風多き他國かな	菊	植物
529	明治29年	秋の部	長安に滞ること三月菊の花	菊	植物
530	明治29年	秋の部	行秋の心地死ぬべく覚えたり	行秋	時候
531	明治29年	秋の部	玉川の鮎三寸にしてさびたりな	鯖鮎	動物
532	明治29年	秋の部	宿酔や三尺の窓に富士の秋	秋	時候
533	明治29年	秋の部	國境や北を望めバ秋のゆく	行秋	時候
534	明治29年	秋の部	紅葉せり出羽奥州の峯つゞき	紅葉	植物
535	明治29年	秋の部	北國の山々見えつ未枯るゝ	未枯	植物
536	明治29年	秋の部	邯鄲の市は新酒の匂ひかな	新酒	人事
537	明治29年	秋の部	秋のふじ塔三寸の裾野かな	秋	時候
538	明治29年	秋の部	此の恨ほろりとこぼれし露の玉	露	天文
539	明治29年	秋の部	堆く小皿に盛りぬこほれ萩	萩	植物
540	明治29年	秋の部	女郎花くねりたるをばちご折れり	女郎花	植物
541	明治29年	秋の部	鬼灯の豆の如きを三ツばかり	鬼灯	植物
542	明治29年	秋の部	薄き濃き紅葉三ツ四ツ手水鉢	紅葉	植物
543	明治29年	秋の部	啼かず飛ばず鴉がぬれて秋の雨	秋の雨	天文
544	明治29年	秋の部	一人居れば丑満頃の虫が鳴く	蟲	動物
545	明治29年	秋の部	朝兒の小さな屋根に這ひのぼる	朝顔	植物
546	明治29年	秋の部	姫君は朝兒の蒼つませ給ふ	朝顔	植物
547	明治29年	秋の部	妹死んで終に此秋老いにける	暮の秋	時候
548	明治29年	秋の部	鳶飛んで天に戻るか里の秋	秋	時候
549	明治29年	秋の部	よき人の登第したり菊の花	菊	植物
550	明治29年	秋の部	瀬をはやみあはれ / \ 鮎落んとす	鯖鮎	動物
551	明治29年	秋の部	名月の船に琵琶ひく昔思ほゆ	名月	天文
552	明治29年	秋の部	僧死んで月片われぬ峯の上	月	天文
553	明治29年	秋の部	垣をあらみ朝兒の蔓ばかりなり	朝顔	植物
554	明治29年	秋の部	谷間の月に砧の笥かな	砧	人事
555	明治29年	秋の部	三日月の彼方に鹿の声すなり	鹿	動物
556	明治29年	秋の部	船頭の子はみめよくて月夜かな	月	天文
557	明治29年	秋の部	鹿笛のあはれ聞えずならんとす	鹿	動物
558	明治29年	秋の部	渋柿や三郎實語教をよむ	柿	植物
559	明治29年	秋の部	我等二人松茸を煮て句作せん	松茸	植物
560	明治29年	秋の部	塗縁に南天の実のこぼれける	南天の実	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
561	明治29年	秋の部	歌なんど嶋立澤の秋の暮	秋の暮	時候
562	明治29年	秋の部	鹿どもが葉採らんと行けば啼く	鹿	動物
563	明治29年	秋の部	急げ馬鶉もなかず日は暮れぬ	鶉	動物
564	明治29年	秋の部	啄木鳥や宮様は下馬せさせ給ふ	啄木鳥	動物
565	明治29年	秋の部	百舌の声寺子の声や申の刻	鴝	動物
566	明治29年	秋の部	小坊主が最上峯の砧かな	砧	人事
567	明治29年	秋の部	夕暮を下第の人と雁と行く	雁	動物
568	明治29年	秋の部	乗合の寝静まる時雁わたる	雁	動物
569	明治29年	秋の部	苦船の夜の雨音雁の音	雁	動物
570	明治29年	秋の部	雁をきく夜船の底の進士かな	雁	動物
571	明治29年	秋の部	江の村や夕嵐して鳥渡る	渡鳥	動物
572	明治29年	秋の部	畔をゆけば蠡三ツ四ツ飛つきぬ	蠡	動物
573	明治29年	秋の部	螿螂の戈を枕に眠るかな	螿螂	動物
574	明治29年	秋の部	白虹日を貫いて螿螂起つ	螿螂	動物
575	明治29年	秋の部	蟬は小さき黒き虫にぞありける	こおろぎ	動物
576	明治29年	秋の部	蜻蛉の三十六湾日は斜	蜻蛉	動物
577	明治29年	秋の部	蜻蛉一ツ鞍をはなれぬ野道かな	蜻蛉	動物
578	明治29年	秋の部	蜻蛉や斜に長き塔の影	蜻蛉	動物
579	明治29年	秋の部	残る蚊の侮りがたき力かな	秋の蚊	動物
580	明治29年	秋の部	秋の蚊の泣く / \ 雨に出でゝ行く	秋の蚊	動物
581	明治29年	秋の部	秋の蠅承塵光りて恐ろしき	秋の蠅	動物
582	明治29年	秋の部	秋の蠅二ツ三ツ寄合ふ鞍の上	秋の蠅	動物
583	明治29年	秋の部	二ツツ秋の螢の消えてゆく	秋の螢	動物
584	明治29年	秋の部	飛びもやらず秋の螢の一ツかな	秋の螢	動物
585	明治29年	秋の部	秋の蝶つれな芒にはぢかれぬ	秋の蝶	動物
586	明治29年	秋の部	恨かな小町が塚の秋の蝶	秋の蝶	動物
587	明治29年	秋の部	虫どもの夜更けて何を語るのか	蟲	動物
588	明治29年	秋の部	虫の音の草をくゞりて行方かな	蟲	動物
589	明治29年	秋の部	何虫ぞ或は一時に鳴き立つる	蟲	動物
590	明治29年	秋の部	雪洞や虫さがすちごの美しき	蟲	動物
591	明治29年	秋の部	行けど / \ 野路は虫の音ばかり	蟲	動物
592	明治29年	秋の部	蠟燭に紅葉をかざす内侍かな	紅葉	植物
593	明治29年	秋の部	欄干に白衣の客の月夜哉	月	天文
594	明治29年	秋の部	紅葉さげて中將の君立たせ給ふ	紅葉	植物
595	明治29年	秋の部	紅葉狩横川の僧都見えたるよ	紅葉狩	人事
596	明治29年	秋の部	神殿に蠟燭を傳ふ夜寒かな	夜寒	時候
597	明治29年	秋の部	渋柿や丈け小さき寺男	柿	植物
598	明治29年	秋の部	柴胡掘て見知らぬ翁帰りける	薬掘	人事
599	明治29年	秋の部	もみぢ葉の簾を撲てひるがへる	紅葉	植物
600	明治29年	秋の部	栗はねて山賊の頭領あらはれぬ	栗	植物
601	明治29年	秋の部	栗を焼く山賊の妻美なるかな	栗	植物
602	明治29年	秋の部	茸狩りて天狗を見たる噂かな	茸狩	人事
603	明治29年	秋の部	空寺や胤三疋栗一ツ	栗	植物
604	明治29年	秋の部	いが栗をころがして来る童哉	栗	植物
605	明治29年	秋の部	栗はねて大入道と化けても見よ	栗	植物
606	明治29年	秋の部	いが栗をつかまんものとあせりける	栗	植物
607	明治29年	秋の部	乱を避けてくさびらなど狩り暮らす	茸	植物
608	明治29年	秋の部	茸狩に吾松茸を得んとぞ思ふ	茸狩	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
609	明治29年	秋の部	白馬馬に非ずと云へば栗はねる	栗	植物
610	明治29年	秋の部	夢に木犀の下美人立てりき	木犀	植物
611	明治29年	秋の部	紅葉散る高麗縁の疊哉	紅葉	植物
612	明治29年	秋の部	明星や神前の紅葉巫女の袖	紅葉	植物
613	明治29年	秋の部	芋ひきや偶々宿る旅の僧	芋	植物
614	明治29年	秋の部	百尺の蔦這上る巖かな	蔦	植物
615	明治29年	秋の部	十文字に蔦とぞしたる空家かな	蔦	植物
616	明治29年	秋の部	末枯や暮雲平かに奥州路	末枯	植物
617	明治29年	秋の部	菊咲いて朝鮮人が詩を作る	菊	植物
618	明治29年	秋の部	椎の実の八升ばかりこぼれける	椎の実	植物
619	明治29年	秋の部	亡國の志士寄合ふや菊の花	菊	植物
620	明治29年	秋の部	尾花ぼう / \ 驚破漁陽の鼙鼓起る	芒	植物
621	明治29年	秋の部	子を負て昼餉持行く芦の花	蘆の花	植物
622	明治29年	秋の部	何鳥か飛起つ芦の花月夜	蘆の花	植物
623	明治29年	秋の部	二三本鶏頭の丈の高さかな	鶏頭	植物
624	明治29年	秋の部	鶏頭の共に仆るゝ卒塔婆かな	鶏頭	植物
625	明治29年	秋の部	花もなき蓼ぼう / \ と藏やしき	蓼の花	植物
626	明治29年	秋の部	死馬の紅葉かぶりて流れける	紅葉	植物
627	明治29年	秋の部	旭出るや紅葉よりつく橋の杭	紅葉	植物
628	明治29年	秋の部	稲こきの其家の舂もと浪人	稲こき	人事
629	明治29年	秋の部	花もなき鶏頭散りぬ地藏堂	鶏頭	植物
630	明治29年	秋の部	里の子の切りさいなむや鶏頭花	鶏頭	植物
631	明治29年	秋の部	犬殺は武士の果なり稲の花	稲の花	植物
632	明治29年	秋の部	稲刈や兄弟二人睦しき	稲刈	人事
633	明治29年	秋の部	鳳仙花を人形姫に奉る	鳳仙花	植物
634	明治29年	秋の部	笑ましげに鬼灯ならず女の子	鬼灯	植物
635	明治29年	秋の部	野菊なんをかききものにはありける	野菊	植物
636	明治29年	秋の部	盗人のいさかひすなり芒原	芒	植物
637	明治29年	秋の部	大株の芒刈られてしまひけり	芒	植物
638	明治29年	秋の部	黒い牛赤い牛居る花野哉	花野	地理
639	明治29年	秋の部	やう / \ に谷を出れば花野かな	花野	地理
640	明治29年	秋の部	ひとり来て何やら思ふ花野かな	花野	地理
641	明治29年	秋の部	芭蕉十八尺欄に上る影婆娑たり	芭蕉	植物
642	明治29年	秋の部	ふくべツいつまでも / \ さがりける	瓢	植物
643	明治29年	秋の部	笑て答へずひさごを叩く童子かな	瓢	植物
644	明治29年	秋の部	かくの如きふくべに似たるものありや	瓢	植物
645	明治29年	秋の部	がむしやむと唐辛子かむ男かな	唐辛子	植物
646	明治29年	秋の部	あれに見ゆる紅葉の山は何山か	紅葉	植物
647	明治29年	秋の部	庵せましふくべころがる二ツまで	瓢	植物
648	明治29年	秋の部	僧喝す柳は緑り唐辛子	唐辛子	植物
649	明治29年	秋の部	紅葉した漆畑を風が吹く	紅葉	植物
650	明治29年	秋の部	二三十紅葉の山の夕鴉	紅葉	植物
651	明治29年	秋の部	家古く柿の大木紅葉せり	柿	植物
652	明治29年	秋の部	伸上り紅葉折らまくほしき女	紅葉	植物
653	明治29年	秋の部	橋朽ちて兩岸の紅葉半散る	紅葉	植物
654	明治29年	秋の部	小屋の前の櫺紅葉せり水車	櫺紅葉	植物
655	明治29年	秋の部	飯や焚く村南の紅葉畑起つ	紅葉	植物
656	明治29年	秋の部	紅葉午にして木こりが娘戀を歌ふ	紅葉	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
657	明治29年	秋の部	少年詩を吟じて紅葉山下を過ぐ	紅葉	植物
658	明治29年	秋の部	夕虹の紅葉につゞく峠かな	紅葉	植物
659	明治29年	秋の部	縁に散る紅葉を掃ふ若き尼	散紅葉	植物
660	明治29年	秋の部	散紅葉真白き手して拾ひける	散紅葉	植物
661	明治29年	秋の部	一片の紅葉を千々にさく女	紅葉	植物
662	明治29年	秋の部	一漢酒を被て紅葉をゆする	紅葉	植物
663	明治29年	秋の部	岩角を打てば裂けぬべき紅葉かな	紅葉	植物
664	明治29年	秋の部	断岸を紅葉すべること数ふべからず	紅葉	植物
665	明治29年	秋の部	そばふれば紅葉さゝやく音すなり	紅葉	植物
666	明治29年	秋の部	そばぬれて紅葉をくゞる樵夫かな	紅葉	植物
667	明治29年	秋の部	暁や紅葉もこぼれ露もこぼれ	紅葉	植物
668	明治29年	秋の部	幾秋の紅葉は朽ちて何になる	紅葉	植物
669	明治29年	秋の部	大木の紅葉の下や毬の唄	紅葉	植物
670	明治29年	秋の部	童子云へらく紅葉した山に師はありと	紅葉	植物
671	明治29年	秋の部	里近し紅葉の奥の唄の声	紅葉	植物
672	明治29年	秋の部	紅葉して門長へに鎖したり	紅葉	植物
673	明治29年	秋の部	漁人帰る丹楓江上夕照す	楓	植物
674	明治29年	秋の部	見送りや紅葉の村の外れまで	紅葉	植物
675	明治29年	秋の部	一村は徴兵帰る紅葉する	紅葉	植物
676	明治29年	秋の部	紙燭して見れば紅葉がこぼれぬる	紅葉	植物
677	明治29年	秋の部	深潭や風死して紅葉散りこぼれ	紅葉	植物
678	明治29年	秋の部	大澤に紅葉飄る嵐かな	紅葉	植物
679	明治29年	秋の部	岩角にへばりつゐたる紅葉哉	紅葉	植物
680	明治29年	秋の部	乞食ども紅葉のかげにやすらへり	紅葉	植物
681	明治29年	秋の部	見て居ればボキと紅葉折る男哉	紅葉	植物
682	明治29年	秋の部	くる / \ と犬ころはしる紅葉かな	紅葉	植物
683	明治29年	秋の部	村の子が紅葉釣り寄す小川哉	紅葉	植物
684	明治29年	秋の部	据風呂や紅葉こぼるゝ蓋の上	紅葉	植物
685	明治29年	秋の部	紅葉葉のひらり / \ と舞落ちぬ	紅葉	植物
686	明治29年	秋の部	飯鍋に紅葉ちり込む山家かな	紅葉	植物
687	明治29年	秋の部	据風呂を出れば紅葉飛つきぬ	紅葉	植物
688	明治29年	秋の部	子は紅葉さげ母は野茶屋に病めりける	紅葉	植物
689	明治29年	秋の部	紅葉焼いて爛すべく酒を賣る女	紅葉	植物
690	明治29年	秋の部	鉄漿くろ / \ 紅葉が茶屋の女笑ふ	紅葉	植物
692	明治29年	秋の部	両三軒紅葉の中の日の御旗	紅葉	植物
693	明治29年	秋の部	ところ / \ 運動會や紅葉山	紅葉	植物
694	明治29年	秋の部	夕晴や紅葉振り / \ 馬士唄ふ	紅葉	植物
695	明治29年	秋の部	何茸か紅葉かぶりて居たりける	紅葉	植物
696	明治29年	秋の部	山段々紅葉しぬべく見えにける	紅葉	植物
697	明治29年	秋の部	ところ / \ 紅葉しぬべく病める蔦	紅葉	植物
698	明治29年	秋の部	蔦の葉の黄なるもあり紅なるもあり	蔦紅葉	植物
699	明治29年	秋の部	川中の岩に何の木か紅葉す	紅葉	植物
700	明治29年	秋の部	大樹せず小樹尽く紅葉す	紅葉	植物
701	明治29年	秋の部	手を拍て笑へば紅葉こぼれける	紅葉	植物
703	明治29年	秋の部	此の別れ紅葉拵て微笑すべく	紅葉	植物
704	明治29年	秋の部	覚束な剋に臨める蔦紅葉	蔦紅葉	植物
705	明治29年	秋の部	戀なるべく紅葉の蔭に二人ゐる	紅葉	植物
706	明治29年	秋の部	屋根見えつ紅葉の村に犬吠ゆる	紅葉	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
707	明治29年	秋の部	日は照りつ紅葉の山に雨がふる	紅葉	植物
708	明治29年	秋の部	炭に焼かんと紅葉伐仆す谷間哉	紅葉	植物
709	明治29年	秋の部	蔦の葉の薄紅に恥らへり	蔦紅葉	植物
710	明治29年	秋の部	紅葉の茶屋覗けバ女病みてあり	紅葉	植物
711	明治29年	秋の部	一樹の紅葉爰に甘酒ありと有り	紅葉	植物
712	明治29年	秋の部	炭焼の娘紅葉と申す艶なり	紅葉	植物
713	明治29年	秋の部	我宿は俎板も鍋も紅葉哉	紅葉	植物
714	明治29年	秋の部	さら / \ と紅葉すべり落つ鬼瓦	紅葉	植物
716	明治29年	秋の部	我戀は渋柿の渋の渋からず	柿	植物
717	明治29年	秋の部	柳散る / \ 驛馬繫がれて物をくふ	柳散る	植物
718	明治29年	秋の部	渋柿の二ツ三ツ残る梢かな	柿	植物
719	明治29年	秋の部	渋柿の枝裂けなんとしたるを支へてあり	柿	植物
720	明治29年	秋の部	古家の柳散り / \ 日が暮れる	柳散る	植物
721	明治29年	秋の部	仙台の城下の外づれ末枯れぬ	末枯	植物
722	明治29年	秋の部	穢多村の渋柿見ゆる野中哉	柿	植物
723	明治29年	秋の部	旅人宿の灯火暗く散る柳	柳散る	植物
724	明治29年	秋の部	旗立てゝ徴兵迎ふ村の秋	秋	時候
725	明治29年	秋の部	渋柿に階子かけたる小家かな	柿	植物
727	明治29年	秋の部	草鞋買ふべく腰に錢あり暮の秋	暮の秋	時候
728	明治29年	秋の部	出水して粟の穂先を小舟漕ぐ	粟	植物
730	明治29年	秋の部	いざ起てよ萩の中道二人行かむ	萩	植物
731	明治29年	秋の部	別れても地として渋柿なからんや	柿	植物
732	明治29年	秋の部	宮城野の萩ある處まで送れ	萩	植物
733	明治29年	秋の部	一ツ宛渋柿喰ふて別れうぞ	柿	植物
735	明治29年	秋の部	初秋の乾坤朗らかに軒せよ	初秋	時候
736	明治29年	秋の部	此秋は三千の発句物すべし	秋	時候
738	明治29年	秋の部	つく / \ と踊見て居る男かな	踊	人事
740	明治29年	秋の部	秋風の大地震ふて已まざりき	秋の風	天文
741	明治29年	秋の部	がっくりと大地裂けたり秋の風	秋の風	天文
742	明治29年	秋の部	早稲の香や出羽街道は鶏の声	稲	植物
743	明治29年	秋の部	地震やむで日暮れて秋の雨がふる	秋の雨	天文
744	明治29年	秋の部	秋の雨親なき子らの泣いて行く	秋の雨	天文
745	明治29年	秋の部	二三人家失ひて秋の雨	秋の雨	天文
746	明治29年	秋の部	鶏も鳴かず地震の跡の秋の雨	秋の雨	天文
747	明治29年	秋の部	秋なれば雨なれば病みぬればこそ	秋	時候
748	明治29年	秋の部	秋雨のいつこに濡れておはすらん	秋の雨	天文
749	明治29年	秋の部	据風呂に秋の風もる庇かな	秋の風	天文
750	明治29年	秋の部	夜は長しらんぶの笠に物をかく	夜長	時候
751	明治29年	秋の部	秋の夜の夫婦いさかふ木賃かな	秋の夜	時候
752	明治29年	秋の部	芒わけて女出てたり雨の中	芒	植物
753	明治29年	秋の部	荒瀧の霧を裂くこと五百尺	霧	天文
754	明治29年	秋の部	嘯けば大澤の霧渦きぬ	霧	天文
755	明治29年	秋の部	女郎花踏みにじられて哀れなり	女郎花	植物
756	明治29年	秋の部	雨に行けばもたれんとすなり女郎花	女郎花	植物
757	明治29年	秋の部	そばふるや秋の蝶々戀もなし	秋の蝶	動物
758	明治29年	秋の部	山裂けて大木震ふ秋の風	秋の風	天文
759	明治29年	秋の部	日は西へ詮方もなし秋の蝶	秋の蝶	動物
760	明治29年	秋の部	名月や妻を娶らば正に今宵	名月	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
761	明治29年	秋の部	風やむで秋の奥州日は暮れぬ	秋	時候
762	明治29年	秋の部	ひや / \ と洪水の跡月が照る	月	天文
763	明治29年	秋の部	西の方安達太郎山霧を抜く	霧	天文
764	明治29年	秋の部	利根の濁流大霧割いて奔到す	霧	天文
766	明治29年	秋の部	夜は寒し水を隔てゝ異人唄ふ	夜寒	時候
767	明治29年	秋の部	狂人の頻りに鳴子鳴らしけり	鳴子	人事
768	明治29年	秋の部	戯れに鳴子を鳴らす異人かな	鳴子	人事
769	明治29年	秋の部	萩の花少しこぼれて三日の月	萩	植物
770	明治29年	秋の部	夜を寒み薫物くゆる廣間哉	夜寒	時候
772	明治29年	秋の部	一盆の芋皆喰ふてしまひけり	芋	植物
773	明治29年	秋の部	君見よや此水切て落さんず	落し水	地理
774	明治29年	秋の部	虫鳴くや少将戀の細道を	蟲	動物
775	明治29年	秋の部	門前を宗祇が通る芋がある	芋	植物
777	明治29年	秋の部	丹を煉る鍋かけてあり桐一葉	桐一葉	植物
778	明治29年	秋の部	小坊主が名月の鐘つかんとゆく	名月	天文
780	明治29年	秋の部	力なや地を這ふ蔦の薄紅葉	薄紅葉	植物
781	明治29年	秋の部	一面に小草の花の夕月夜	夕月夜	天文
782	明治29年	秋の部	江北へ鴉が飛んで秋暮るゝ	暮の秋	時候
783	明治29年	秋の部	秋風の猪病んで死なんとす	秋の風	天文
785	明治29年	秋の部	右左十歩ばかりの花野かな	花野	地理
786	明治29年	秋の部	鐵燈籠朽ちて虫なく夜毎かな	蟲	動物
787	明治29年	秋の部	三夜網す偶々得たる鱸かな	鱸	動物
788	明治29年	秋の部	重陽の酒壺仆す何奴ぞ	重陽	人事
789	明治29年	秋の部	稻妻や金掘る山の恐ろしき	稻妻	天文
791	明治29年	秋の部	一山の月明かに鐘黒く	月	天文
792	明治29年	秋の部	深淵にひら / \ と秋の蝶黄なり	秋の蝶	動物
793	明治29年	秋の部	未枯や黒う固まる馬の糞	未枯	植物
794	明治29年	秋の部	頬白き人の寒がるあしたかな	朝寒	時候
795	明治29年	秋の部	明星や白菊細く丈け高く	菊	植物
796	明治29年	秋の部	白露の草皆二寸ばかりなる	露	天文
797	明治29年	秋の部	白い旗赤い旗なんど里の秋	秋	時候
798	明治29年	秋の部	葉ちいさく紅る薄く哀れなり	薄紅葉	植物
799	明治29年	秋の部	白雲鶏犬秋長へに老いずもあれ	秋	時候
800	明治29年	秋の部	岩鼻や秋風白き九十九里	秋の風	天文
802	明治29年	秋の部	普請濟むで雨となりけり鶏頭花	鶏頭	植物
803	明治29年	秋の部	鶏頭のこけつ仆れつ藏普請	鶏頭	植物
804	明治29年	秋の部	塵塚や月に鶏頭丈け八尺	鶏頭	植物
805	明治29年	秋の部	塵塚や鶏頭やせてなほ赤し	鶏頭	植物
806	明治29年	秋の部	月暈あり鶏頭の影化けぬべく	鶏頭	植物
807	明治29年	秋の部	門口や左何やら右鶏頭	鶏頭	植物
808	明治29年	秋の部	ぱっさりと窓にもものうし葉鶏頭	雁來紅	植物
809	明治29年	秋の部	鶏頭を逆さまに吊す小店かな	鶏頭	植物
810	明治29年	秋の部	淺ましや鶏頭の葉のむしられて	鶏頭	植物
811	明治29年	秋の部	雨つれ / \ 鶏頭十句成らんとす	鶏頭	植物
813	明治29年	秋の部	村会や台湾の稻二夕作す	稻	植物
814	明治29年	秋の部	村会の門口に菊なんどあり	菊	植物
815	明治29年	秋の部	村会や古学校のやゝ寒き	やや寒	時候
816	明治29年	秋の部	村会や渋柿落る窓の外	柿	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
817	明治29年	秋の部	野分して村会議場仆れつべく	野分	天文
818	明治29年	秋の部	芋引の村会覗く時計かな	芋	植物
819	明治29年	秋の部	村会のがらす窓破れて稲の花	稲の花	植物
820	明治29年	秋の部	村会や役人にすゝむ芋一盆	芋	植物
821	明治29年	秋の部	村会や二三人よりて秋のあめ	秋の雨	天文
822	明治29年	秋の部	末枯や村会議員皆袴	末枯	植物
823	明治29年	秋の部	重陽や偶村会して終に酒	重陽	人事
825	明治29年	秋の部	調練の輻重つゞきぬ秋の村	秋	時候
826	明治29年	秋の部	野茶屋あり吊したる柿の尻黒み	柿	植物
827	明治29年	秋の部	びいどろ欠け散らばりつ末枯るゝ	末枯	植物
828	明治29年	秋の部	柿を隣り空瓶の棚傾きつ	柿	植物
829	明治29年	秋の部	店先や空瓶ころがり秋の蠅	秋の蠅	動物
830	明治29年	秋の部	渋柿や屋根葺換ふる煤くろく	柿	植物
831	明治29年	秋の部	いたいけに紅葉しかゝる轍かな	紅葉	植物
832	明治29年	秋の部	百舌鳥なくや草の実むしる乞食の子	鴟	動物
833	明治29年	秋の部	蓮の実飛んで大に笑ふ男あり	蓮實飛ぶ	植物
834	明治29年	秋の部	刈稻の中に飯喰ふ男かな	稻刈	人事
835	明治29年	秋の部	紅葉せよ我妻酒をかもすべく	紅葉	植物
836	明治29年	秋の部	七八人赤裸々なるが鬮引く	鬮引	人事
837	明治29年	秋の部	雁が音や燕王賢を招くときく	雁	動物
838	明治29年	秋の部	帯にはさむ栗こぼしたる娘かな	栗	植物
839	明治29年	秋の部	水とん / \ 鶺鴒の尾たらし / \	鶺鴒	動物
840	明治29年	秋の部	花白く莖赤き之をなんそば	蕎麥花	植物
841	明治29年	秋の部	鯉も出でつゐもりも出でつ秋の虹	秋の虹	天文
842	明治29年	秋の部	句集あみて栗飯と題せんはいかに	栗飯	人事
843	明治29年	秋の部	奉納の手拭吊るす紅葉かな	紅葉	植物
844	明治29年	秋の部	末枯や赤く彫りたる不動尊	末枯	植物
845	明治29年	秋の部	末枯の藪も畑も夕日かな	末枯	植物
846	明治29年	秋の部	薄暗し知らず木の実か草の実か	雑	雑
847	明治29年	秋の部	石壇や登りも果てず木の実落つ	木の實	植物
848	明治29年	秋の部	畫棟さびて老樹更に紅葉せず	紅葉	植物
849	明治29年	秋の部	地にあれば末枯るゝなり比翼塚	末枯	植物
850	明治29年	秋の部	百舌鳥なくや女大勢不動に詣づ	鴟	動物
851	明治29年	秋の部	末枯れて不動の臍の細る思ひ	末枯	植物
853	明治29年	秋の部	願はくは新酒の酔の三十里	新酒	人事
854	明治29年	秋の部	毒茸は喰はず遙かに酒許せ	茸	植物
855	明治29年	秋の部	其芒なければ淋しかるべきか	芒	植物
856	明治29年	秋の部	其芒なければ淋しかるべきか	芒	植物
857	明治29年	秋の部	少年の紅葉に狂すときかば我	紅葉	植物
858	明治29年	秋の部	少年の紅葉に狂すときかば我	紅葉	植物
859	明治29年	秋の部	渋柿を喰ふてしまへば帰るなり	柿	植物
860	明治29年	秋の部	渋柿を喰ふてしまへば帰るなり	柿	植物
861	明治29年	秋の部	君来らず栗飯少し残りける	栗飯	人事
863	明治29年	秋の部	去って栗留って酒いづれ秋	秋	時候
865	明治29年	秋の部	路ばたの紅葉ゆすらば出でゝ見よ	紅葉	植物
866	明治29年	秋の部	もみぢはの二片三片枝にあり	紅葉	植物
867	明治29年	秋の部	洪水や月を浸して押寄する	月	天文
868	明治29年	秋の部	二三人頬冠りして月に行く	月	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
869	明治29年	秋の部	明月や檜棒廻はず法師原	名月	天文
10614	明治29年	秋の部	野分吹く矢留の城の草長し	野分	天文
10615	明治29年	秋の部	稲の香の吹き廻はるなり大広間	稲の香	植物
10616	明治29年	秋の部	澄む山や月地震の後の腥	月	天文
10617	明治29年	秋の部	風ひや / \ 大地裂けたるあはひ哉	冷ゆ	時候
10618	明治29年	秋の部	谷暗し昼の稲妻割りて入る	稲妻	天文
10619	明治29年	秋の部	稲妻や地震の跡の仮屋々々	稲妻	天文
10620	明治29年	秋の部	稲妻の顔見合はする人もなし	稲妻	天文
10621	明治29年	秋の部	秋さめの何処を濡れて辿るらむ	秋雨	天文
10622	明治29年	秋の部	稲妻や大きな家の仆れてある	稲妻	天文
10623	明治29年	秋の部	稲妻の中夜哭声四方に起る	稲妻	天文
10624	明治29年	秋の部	秋雨や中夜哭声四野に満つ	秋雨	天文
10625	明治29年	秋の部	稲妻の奥州山河五十四郡	稲妻	天文
10626	明治29年	秋の部	やむ人の枕並べて秋の風	秋の風	天文
10627	明治29年	秋の部	仮小屋の秋さめに病む女の子	秋雨	天文
10628	明治29年	秋の部	朝寒の松原通るひとりかな	朝寒	時候
10629	明治29年	秋の部	隧道をくぐれば蕎麦の花三(寸)カ	蕎麦の花	植物
10630	明治29年	秋の部	西の方蕎麦の花咲く里一つ	蕎麦の花	植物
10631	明治29年	秋の部	そこのけよあゝら長安一片の月	月	天文
10632	明治29年	秋の部	名月や背戸の畑に風呂たい(たり)カ	名月	天文
10633	明治29年	秋の部	朝顔の蔓細く花小さなる	朝顔	植物
10634	明治29年	秋の部	名月や土蔵の蔭は薄暗く	名月	天文
10635	明治29年	秋の部	名月や五升樽提げて其角く(る)カ	名月	天文
10636	明治29年	秋の部	名月の焼芋かぢり / \ ゆく	名月	天文
10637	明治29年	秋の部	二三人名月の門を出でゝゆく	名月	天文
10639	明治29年	秋の部	三日月の西方十万憶土哉	三日月	天文
10640	明治29年	秋の部	名月や傾城たんねんと薫物(す)カ	名月	天文
10641	明治29年	秋の部	蚯蚓の尾を切るなよと申しける	蚯蚓	動物
10642	明治29年	秋の部	踊子の戻ればもとの禪の寺	踊り子	人事
10643	明治29年	秋の部	秋風や草鞋買ふべき腰の銭	秋風	天文
10644	明治29年	秋の部	紅葉手にして村女頻りに恋を歌ふ	紅葉	植物
10645	明治29年	秋の部	人なども紅葉の陰にやすらへり	紅葉	植物
10646	明治29年	秋の部	嵐して紅葉散り込む谷の水	紅葉	植物
10647	明治29年	秋の部	何と云ふか城下のはづれ末枯れし	末枯	植物
10648	明治29年	秋の部	谷間や紅葉舞上る夕あらし	紅葉	植物
10649	明治29年	秋の部	君が代は渋柿ならぬ里もなし	渋柿	植物
10651	明治29年	秋の部	笹原を稲妻切てまはりける	稲妻	天文
10652	明治29年	秋の部	茸狩を御息所のいなみ玉ふ	茸狩	人事
10654	明治29年	秋の部	夜に入れば蠟燭立てゝ菊見哉	菊見	人事
10655	明治29年	秋の部	橋杭に紅葉の枝の流れよる	紅葉	植物
10612	明治29年	秋の部	子規おらがとぶろく呑みに来よ	どぶろく	人事
10638	明治29年	秋の部	舟歌は聞えずなりて夜さむし	夜さむし	天文
10653	明治29年	秋の部	馬を馳す八州の野は末枯れぬ	末枯	植物
1373	明治30年	秋の部	癩病の小屋を出て薬煮る月夜かな	月	天文
1374	明治30年	秋の部	病むちごの月にも芋にもむづかりぬ	雑	雑
1375	明治30年	秋の部	病みやせてひとり灯籠の下に立つ	燈籠	人事
1376	明治30年	秋の部	客にして病み再び秋に逢へる悲し	秋	時候
1377	明治30年	秋の部	鱸さげて漁師が娘医師を訪ふ	鱸	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1378	明治30年	秋の部	病やゝ怠りつ氣秋に入る	秋	時候
1379	明治30年	秋の部	立秋を東隣の病者詩を吟ず	立秋	時候
1380	明治30年	秋の部	七夕に病んで物かく女かな	七夕	人事
1381	明治30年	秋の部	病を力め魂祭るべく灯ともしつ	魂祭	人事
1382	明治30年	秋の部	創をつゝむで稻妻に立つ男かな	稻妻	天文
1383	明治30年	秋の部	稻妻に病兵多き野陣かな	稻妻	天文
1384	明治30年	秋の部	落武者のちんばひとりゆく野分かな	野分	天文
1385	明治30年	秋の部	小角力の薬煮てゐる旅籠かな	角力	人事
1386	明治30年	秋の部	朝顔に薬を煮る男鰥にして迂	朝顔	植物
1387	明治30年	秋の部	夕暮を病める角力の馬で来る	角力	人事
1388	明治30年	秋の部	病院の庭に虫なく寐覚かな	蟲	動物
1389	明治30年	秋の部	いとゞ病める身にしむや起て内に入る	身に入む	時候
1390	明治30年	秋の部	医者 of 奥木槿咲いたる門に入る	木槿	植物
1391	明治30年	秋の部	縁側に薬鍋を持出でつ月を見る	月	天文
1392	明治30年	秋の部	雁が音の去年は越路に病みたりし	雁	動物
1393	明治30年	秋の部	門前を医者 of 輿いそぐ秋の暮	秋の暮	時候
1394	明治30年	秋の部	病めるにかあらん案山子が倒れゐる	案山子	人事
1395	明治30年	秋の部	医者 of 門に順礼の子や秋の暮	秋の暮	時候
1396	明治30年	秋の部	君が病に鱸鮮けきなどがよし	鱸	動物
1397	明治30年	秋の部	只ひとり鳴立澤の湯治かな	鳴	動物
1398	明治30年	秋の部	枕上の薬瓶を引寄す夜半の秋	秋の夜	時候
1399	明治30年	秋の部	疫をやむ村に砧の音もなし	砧	人事
1400	明治30年	秋の部	明月の土手をいざりの車行く	名月	天文
1401	明治30年	秋の部	病む人の菊に目さむる廣間かな	菊	植物
1402	明治30年	秋の部	腫物の顔仰向けて月見かな	月見	人事
1403	明治30年	秋の部	眼を病みつ童して白菊手折らしむ	菊	植物
1404	明治30年	秋の部	白髪にして古法を講ず菊の花	菊	植物
1405	明治30年	秋の部	醫者の庭に殊に菊咲く赤き菊	菊	植物
1406	明治30年	秋の部	菊の露に丹を煉るべく菊畑	菊	植物
1407	明治30年	秋の部	薬掘の月夜に帰る梁甫吟	薬掘	人事
1408	明治30年	秋の部	看病やひとり夜寒の枕元	夜寒	時候
1409	明治30年	秋の部	長き夜を暁方に誕生す	夜長	時候
1410	明治30年	秋の部	貧道士の病を呪ふ夜寒かな	夜寒	時候
1411	明治30年	秋の部	病む乳児の銀杏に笑むぞ嬉しき	銀杏	植物
1412	明治30年	秋の部	病める汝に唐辛を與へんか	唐辛子	植物
1413	明治30年	秋の部	貧なる医の松茸を狩りに出でし	松茸	植物
1414	明治30年	秋の部	足駄穿いて月夜に帰る按摩かな	月	天文
1415	明治30年	秋の部	疝氣ある人の先づ吟じ帰る月見かな	月見	人事
1416	明治30年	秋の部	病を忘れ汝と酌み合ふ新酒かな	新酒	人事
1417	明治30年	秋の部	縁端に松茸を干す医者が妻	松茸	植物
1418	明治30年	秋の部	薬掘て里に出でたる道士かな	薬掘	人事
1419	明治30年	秋の部	多病にして白菊多く作りにし	菊	植物
1420	明治30年	秋の部	村に住んで松茸の友に医者を得つ	松茸	植物
1421	明治30年	秋の部	或時は松露或時は茯苓を突く	雜	雜
1422	明治30年	秋の部	安産や秋の夜中をどよめきぬ	秋の夜	時候
1423	明治30年	秋の部	秦淮の残月夢に似たるかな	有明月	天文
1425	明治30年	秋の部	滝涸れつ天の川の斜なり	天の川	天文
1426	明治30年	秋の部	黒雲の天の川を絶つ夜半かな	天の川	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1427	明治30年	秋の部	谷底に仰いで天の川を見る	天の川	天文
1428	明治30年	秋の部	遠の灯や暁方の天の川	天の川	天文
1429	明治30年	秋の部	壇上や銀河に對し香を炷く	天の川	天文
1430	明治30年	秋の部	逢はぬ戀鶏鳴きあけの露深み	露	天文
1431	明治30年	秋の部	長き夜を動かざる佛師が影法師	夜長	時候
1432	明治30年	秋の部	艸むらや偶々きちかうの白き咲く	桔梗	植物
1433	明治30年	秋の部	異人館に夜な / \ 踊る音すなり	踊	人事
1434	明治30年	秋の部	朝兒に半月白き戸口かな	朝顔	植物
1435	明治30年	秋の部	冷かや汀に立てば星が飛ぶ	流星	天文
1436	明治30年	秋の部	和蘭の波止場で秋の風に逢ふ	秋の風	天文
1438	明治30年	秋の部	行く / \ や松虫吟じ鈴虫和す	雑	雑
1439	明治30年	秋の部	藥掘て日暮に帰る人あやし	藥掘	人事
1440	明治30年	秋の部	虫賣と連立て終に市に入る	蟲賣	人事
1441	明治30年	秋の部	重箱の埃掃ひつ今朝の秋	今朝の秋	時候
1442	明治30年	秋の部	店を過ぎり南瓜の不具なるを憎む	南瓜	植物
1443	明治30年	秋の部	明窓淨几朝兒の巻をかゝむかな	朝顔	植物
1445	明治30年	秋の部	妾宅に小さき灯籠つるしたり	燈籠	人事
1446	明治30年	秋の部	灯籠に芒かぶさる小家かな	燈籠	人事
1447	明治30年	秋の部	川を隔て暁方の高灯籠	燈籠	人事
1448	明治30年	秋の部	日くれて灯籠の町に入りぬ	燈籠	人事
1449	明治30年	秋の部	兩岸の灯籠を見て下りけり	燈籠	人事
1450	明治30年	秋の部	家毎に赤き灯籠吊したり	燈籠	人事
1451	明治30年	秋の部	沈香亭に灯籠つるしひとりある	燈籠	人事
1452	明治30年	秋の部	草家二軒中に灯籠の高き立つ	燈籠	人事
1453	明治30年	秋の部	川風に灯籠消えてしまひけり	燈籠	人事
1454	明治30年	秋の部	清人の亭に灯籠つるしたり	燈籠	人事
1455	明治30年	秋の部	いくさあり灯籠つるす家もなし	燈籠	人事
1456	明治30年	秋の部	揚屋町の灯籠見れば美しくしき	燈籠	人事
1457	明治30年	秋の部	斥候の高灯籠を打見やる	燈籠	人事
1459	明治30年	秋の部	くさいろ / \ 秋いろ / \ の花咲きぬ	秋	時候
1461	明治30年	秋の部	一人ゆけば小萩が野辺を雨がふる	萩	植物
1462	明治30年	秋の部	暮に出でゝ萩咲けるあたり人戀し	萩	植物
1463	明治30年	秋の部	男萩丈高く暁に露けしや	萩	植物
1464	明治30年	秋の部	女萩とかや細やかにして花咲ける	萩	植物
1465	明治30年	秋の部	萩寺の萩盛りなり二三日	萩	植物
1466	明治30年	秋の部	馬に喰はれ少し花咲く萩の株	萩	植物
1467	明治30年	秋の部	萩長くして灯籠に達すべく	萩	植物
1468	明治30年	秋の部	寺に寐て五更に萩の露の音	萩	植物
1469	明治30年	秋の部	雨の中を一荷尽く萩の花	萩	植物
1470	明治30年	秋の部	花まばらに丈徒らに長き萩	萩	植物
1472	明治30年	秋の部	兄弟が一斗の粟を搗て居る	粟	植物
1473	明治30年	秋の部	雲高み山畑の粟黄に熟す	粟	植物
1474	明治30年	秋の部	川に沿ひ夕日が岡の粟黄なり	粟	植物
1475	明治30年	秋の部	はら / \ と露こぼす穂や粟月夜	粟	植物
1476	明治30年	秋の部	粟の中に抜け出でし稗を風が吹く	粟	植物
1478	明治30年	秋の部	道にして大霧に咽び上り得ず	霧	天文
1479	明治30年	秋の部	どう / \ と狭霧の中の水車	霧	天文
1480	明治30年	秋の部	浦風の狭霧を吹くや沖の方	霧	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1481	明治30年	秋の部	暁や霧が小嶋に灯の残る	霧	天文
1482	明治30年	秋の部	龍蟄す窟を霧の渦きぬ	霧	天文
1483	明治30年	秋の部	とある村に帰り後れし燕とぶ	秋燕	動物
1484	明治30年	秋の部	初汐の房州遠み船かゞり	初汐	地理
1485	明治30年	秋の部	日もすがらつく / \ ほうしつくほうし	つくつく法師	動物
1486	明治30年	秋の部	都より残る暑さの便りかな	残暑	時候
1488	明治30年	秋の部	狡兎死して汝は萩を枕かな	萩	植物
1489	明治30年	秋の部	鶏の子の野分に少し飛ばされし	野分	天文
1490	明治30年	秋の部	白い萩と細い芒の株とあり	雑	雑
1491	明治30年	秋の部	風雲や唐もろこしの丈高く	唐黍	植物
1492	明治30年	秋の部	瘡をやみ居れば頻りに稲妻す	稲妻	天文
1493	明治30年	秋の部	瘡落ちて縁より月をさし入れぬ	月	天文
1494	明治30年	秋の部	今朝はしも秋海棠に歌よみし	秋海棠	植物
1495	明治30年	秋の部	晴れし夜を西の方屢々稲妻す	稲妻	天文
1496	明治30年	秋の部	野の中に角力場立てし小村哉	角力	人事
1497	明治30年	秋の部	裏町を角力の太鼓通りける	角力	人事
1498	明治30年	秋の部	夕暮を角力大勢町に入る	角力	人事
1499	明治30年	秋の部	虫どもの小萩が下に戀すかな	萩	植物
1500	明治30年	秋の部	女郎花折るべくとして物思ふ	女郎花	植物
1501	明治30年	秋の部	芒わけて小高き処に出でたり	芒	植物
1502	明治30年	秋の部	稲妻の馬上八幡を遙拜す	稲妻	天文
1503	明治30年	秋の部	小提灯に野分しば / \ 吹きつける	野分	天文
1504	明治30年	秋の部	海岸や野分の雲を吹飛ばす	野分	天文
1505	明治30年	秋の部	秋風の小夜にさら / \ と音すなり	秋の風	天文
1506	明治30年	秋の部	風にひゞく玉川の里の砧かな	砧	人事
1507	明治30年	秋の部	砧やみて玉川に浴ふ村月夜	砧	人事
1508	明治30年	秋の部	とある村の砧ひとしく打出しぬ	砧	人事
1509	明治30年	秋の部	夜道して砧の里を打過ぎぬ	砧	人事
1510	明治30年	秋の部	沙魚釣の沙魚釣上る頻りなり	鯊釣	人事
1511	明治30年	秋の部	妻の留守に鱸を得たる詩人かな	鱸	動物
1512	明治30年	秋の部	あるが中に巨口細鱗なる鱸	鱸	動物
1513	明治30年	秋の部	無住寺や後ろは蓼の花盛り	蓼の花	植物
1514	明治30年	秋の部	綿摘や夕日の畑を散らばりつ	綿取	人事
1515	明治30年	秋の部	暮を急ぎ野菊のさかり捨てがたき	野菊	植物
1516	明治30年	秋の部	月夜な / \ 背戸の畑の蕎麦の花	蕎麦花	植物
1517	明治30年	秋の部	淋しうて出れば案山子が立てある	案山子	人事
1518	明治30年	秋の部	五六人根岸に會す野分の日	野分	天文
1520	明治30年	秋の部	萩芒うなづき合ふて別れかな	雑	雑
1521	明治30年	秋の部	君が立つ午の刻より野分かな	野分	天文
1522	明治30年	秋の部	秋風を吾子下るなり最上川	秋の風	天文
1523	明治30年	秋の部	薄暗くふくべ三ツ四ツさがりける	瓢	植物
1524	明治30年	秋の部	虫が鳴く神泉苑の月夜かな	月	天文
1525	明治30年	秋の部	垣つゞき根岸の里の木槿かな	木槿	植物
1526	明治30年	秋の部	殊更に木槿の一木栽ゑてあり	木槿	植物
1527	明治30年	秋の部	葛の葉の端山に起る野分かな	野分	天文
1528	明治30年	秋の部	門に出でつしばしゑむ村花火	花火	人事
1529	明治30年	秋の部	二階より花火眺めやる旅人かな	花火	人事
1530	明治30年	秋の部	中島に花火あげたる岸暗み	花火	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1531	明治30年	秋の部	池の中に小舟物して花火かな	花火	人事
1532	明治30年	秋の部	人の子や我子に椎の實を手向け	椎の實	植物
1533	明治30年	秋の部	鶏の尾の野分に逆立事しばし	野分	天文
1534	明治30年	秋の部	犬吹かれ鶏鳴き出す秋の風	秋の風	天文
1535	明治30年	秋の部	葛の葉の日午にして風白き	葛	植物
1536	明治30年	秋の部	會散じひとり詩作る夜の長き	夜長	時候
1537	明治30年	秋の部	新酒賣る家の女の見も馴れず	新酒	人事
1538	明治30年	秋の部	野の店に新酒の杉葉青きかな	新酒	人事
1539	明治30年	秋の部	新酒の鬼殺しと名づくかんばしき	新酒	人事
1540	明治30年	秋の部	野の店に残る暑さの蠅群れつ	残暑	時候
1541	明治30年	秋の部	蟬どもの残る暑さを啼き出しぬ	残暑	時候
1542	明治30年	秋の部	草原や残る暑さの蛇を見る	残暑	時候
1543	明治30年	秋の部	溜水の涸れなんとする残暑かな	残暑	時候
1544	明治30年	秋の部	物狂はしうあるは芒の中に立つ	芒	植物
1545	明治30年	秋の部	岩多く短き芒ばかりかな	芒	植物
1546	明治30年	秋の部	芒喰ひ尽して牧場に馬もなし	芒	植物
1547	明治30年	秋の部	短くてから芒と申す鉢にあり	芒	植物
1548	明治30年	秋の部	川中の岩に夕日す花すゝき	芒	植物
1549	明治30年	秋の部	路傍に芒刈るなり姉妹	萱刈	人事
1550	明治30年	秋の部	野社の右も左も芒かな	芒	植物
1551	明治30年	秋の部	方三尺芒が岡の祠かな	芒	植物
1552	明治30年	秋の部	萩に泣き芒に怨じ日たゝ戀	雑	雑
1553	明治30年	秋の部	洪水を一家避難す粟畑	粟	植物
1554	明治30年	秋の部	洪水を月円なるがあらはれぬ	月	天文
1555	明治30年	秋の部	避病院に秋のてふ / \ 青きとぶ	秋の蝶	動物
1556	明治30年	秋の部	巽より野分起り乾に去る	野分	天文
1557	明治30年	秋の部	名月や何やら欲しき我が思	名月	天文
1558	明治30年	秋の部	芋の葉に灯火うつる戸口かな	芋	植物
1559	明治30年	秋の部	秋風の帝闕さかんなるを見る	秋の風	天文
1560	明治30年	秋の部	南殿や制に應じて月を賦す	月	天文
1561	明治30年	秋の部	油も買はずしばらく月と相對す	月	天文
1562	明治30年	秋の部	妹黄菊姉白菊をかざしかな	菊	植物
1563	明治30年	秋の部	一輪の白菊咲きぬ貞女塚	菊	植物
1564	明治30年	秋の部	蛤を屑しとせざる雀かな	雀蛤となる	動物
1565	明治30年	秋の部	或夜案山子夢に入つて怨ずらく	案山子	人事
1566	明治30年	秋の部	田の案山子畑の案山子を呼ばんとす	案山子	人事
1567	明治30年	秋の部	風さはがしく案山子割據す山畑	案山子	人事
1568	明治30年	秋の部	狂かあらぬか案山子を脇はさんで奔る	案山子	人事
1569	明治30年	秋の部	志蛤にあるらしき雀かな	雀蛤となる	動物
1570	明治30年	秋の部	白菊の一枝を與へ去らしめつ	菊	植物
1571	明治30年	秋の部	謁見やたま / \ 菊の間に置酒す	菊	植物
1572	明治30年	秋の部	山路深く菊の扉を見得たり	菊	植物
1573	明治30年	秋の部	道に立て異人指す案山子かな	案山子	人事
1574	明治30年	秋の部	蛤を思ひとまりし雀かな	雀蛤となる	動物
1575	明治30年	秋の部	三ツ栗を一つ / \ の別かな	栗	植物
1576	明治30年	秋の部	栗のいが仰向いて笑ふ梢かな	栗	植物
1577	明治30年	秋の部	二ツ栗や一つを送るいがの中	栗	植物
1578	明治30年	秋の部	錦心繡腸にして柘榴子と号す	柘榴	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1579	明治30年	秋の部	落水の一處に落合ふ濁りかな	落水	地理
1580	明治30年	秋の部	三ツ栗の只一ツ残る思ひかな	栗	植物
1581	明治30年	秋の部	古の箕子の國行けば鷓鴣の啼く	鷓鴣	動物
1582	明治30年	秋の部	車遠く撰みに洩れし虫の鳴く	蟲	動物
1583	明治30年	秋の部	夕風やさいかちの實を吹き鳴らす	皂角	植物
1584	明治30年	秋の部	佛刻み菊に親む一間かな	菊	植物
1585	明治30年	秋の部	雨の如く露おつるなり森の中	露	天文
1586	明治30年	秋の部	露乾かず野に雲低れて草長く	露	天文
1587	明治30年	秋の部	大礮の露にぬれたる横はる	露	天文
1588	明治30年	秋の部	虫の音の露とやなりし夜明方	露	天文
1589	明治30年	秋の部	庭前に露氣紛々と下るなり	露	天文
1590	明治30年	秋の部	鶏の子の晨に出でゝ露をふむ	露	天文
1591	明治30年	秋の部	前栽や紫の露あけの露	露	天文
1592	明治30年	秋の部	朝露の乾くべくもあらぬ社頭哉	露	天文
1593	明治30年	秋の部	大旗の露打拂ふ嵐かな	露	天文
1594	明治30年	秋の部	鉢植に露置きたるを取入れつ	露	天文
1595	明治30年	秋の部	砂原の露にぬれしを裸足かな	露	天文
1596	明治30年	秋の部	落鮎の築にも入らぬ行くへかな	鯖鮎	動物
1598	明治30年	秋の部	美しき菊の御苑の朝日かな	菊	植物
1599	明治30年	秋の部	かしこしや袞龍の御袖菊の花	菊	植物
1600	明治30年	秋の部	菊の間に萬國の諸侯賀をまをす	菊	植物
1601	明治30年	秋の部	君が代は東籬の菊の雨露多し	菊	植物
1602	明治30年	秋の部	卓上や菊の杯菊の酒	菊	植物
1603	明治30年	秋の部	頌に曰く聖代只今菊の花	菊	植物
1604	明治30年	秋の部	夙に起きて菊を東籬の露に採る	菊	植物
1605	明治30年	秋の部	菊挿すべく古瓶を得つ埃多き	菊	植物
1606	明治30年	秋の部	白き瘦せぬ小鍛冶が庭の菊の花	菊	植物
1607	明治30年	秋の部	東海に旭出でつ城の紅葉かな	紅葉	植物
1608	明治30年	秋の部	木の實黄に草の實紅く野に旭出づ	雑	雑
1609	明治30年	秋の部	君が代の菊の花びら大いなり	菊	植物
1610	明治30年	秋の部	菊の御門をさす朝賀の馬車	菊	植物
1611	明治30年	秋の部	行秋を天に怪しき雲起る	行秋	時候
1612	明治30年	秋の部	江樓やいつくともなく秋のゆく	行秋	時候
1613	明治30年	秋の部	長き夜をあやしき禽の声すなり	夜長	時候
1615	明治30年	秋の部	松茸の老いて山を出づる物うかり	松茸	植物
1616	明治30年	秋の部	木幣や秋風動く熊祭	秋の風	天文
1617	明治30年	秋の部	色かへぬ松をと母の宣ひぬ	色変えぬ松	植物
1618	明治30年	秋の部	こぼれ沈む南天の實や手水鉢	南天の実	植物
1619	明治30年	秋の部	旅籠屋に冬を待つまもあらぬ哉	冬を待つ	時候
1620	明治30年	秋の部	さび鮎を賣残しけり家中町	鯖鮎	動物
1621	明治30年	秋の部	啄木鳥のつゝきもあへず飛去りぬ	啄木鳥	動物
1623	明治30年	秋の部	病あるかすこし後れし鴛鴦の妻	鴛鴦	動物
1624	明治30年	秋の部	瘡落ちて飽まで喰ふ河豚かな	河豚	動物
1625	明治30年	秋の部	炭ついで再び煮出す薬かな	炭	人事
2337	明治31年	秋の部	高樓に人のけはひや星今宵	星月夜	天文
2338	明治31年	秋の部	七夕や夜更けて騒ぐ竹の風	七夕	人事
2339	明治31年	秋の部	欄干に星の契りを見る夜哉	星合い	人事
2340	明治31年	秋の部	傾城の星数へけり星今宵	星月夜	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2341	明治31年	秋の部	文月やをり / \ 通る女づれ	文月	時候
2342	明治31年	秋の部	秋立つやお城の松の朝あらし	立秋	時候
2343	明治31年	秋の部	山の井の水湧きあふれ初あらし	初嵐	天文
2344	明治31年	秋の部	初秋の枕に近し水の音	初秋	時候
2345	明治31年	秋の部	秋暑し出水のあとの泥まみれ	残暑	時候
2346	明治31年	秋の部	稲妻の水をはしるやつゞけさま	稲妻	天文
2347	明治31年	秋の部	初月を草葉の風が吹て行く	初月	天文
2348	明治31年	秋の部	よき頃にはっと開きし火花哉	火花	人事
2349	明治31年	秋の部	磯十里松風の音天の川	天の川	天文
2350	明治31年	秋の部	よき人の硯洗へる汀かな	硯洗	人事
2351	明治31年	秋の部	人の娘踊の場より盗まれぬ	踊	人事
2352	明治31年	秋の部	灯籠や輿を出てゆく仲の町	燈籠	人事
2353	明治31年	秋の部	骸骨を画く揚屋の灯籠か那	燈籠	人事
2355	明治31年	秋の部	雨の中を曾良と翁と萩芒	雑	雑
2356	明治31年	秋の部	萩芒奥の細道雨がふる	雑	雑
2357	明治31年	秋の部	大粒の雨が落来るきみ畑	唐黍	植物
2358	明治31年	秋の部	芭蕉葉のはら / \ 雨に目さめたり	芭蕉	植物
2359	明治31年	秋の部	はたごやに秋の雨きく七部集	秋の雨	天文
2360	明治31年	秋の部	庭前の雨夜もすがら虫も鳴かず	蟲	動物
2361	明治31年	秋の部	兩岸の秋雨秋風最上川	雑	雑
2362	明治31年	秋の部	雨ふらんとして踊の太鼓打ちやまず	踊	人事
2363	明治31年	秋の部	酣にして雨がふる踊か那	踊	人事
2364	明治31年	秋の部	秋の蚊の雨の夕暮鳴いて来る	秋の蚊	動物
2365	明治31年	秋の部	縁先に梨の皮剥く月夜か那	月	天文
2366	明治31年	秋の部	この道は萩の里へと通ふなり	萩	植物
2367	明治31年	秋の部	故里に母と飯喰ふ角力か那	角力	人事
2368	明治31年	秋の部	草花の露に爪先ぬらしけり	露	天文
2369	明治31年	秋の部	霧さめや顔白き人の宮詣で	霧	天文
2370	明治31年	秋の部	引越して虫聞出しぬ縁の下	蟲	動物
2371	明治31年	秋の部	鍬の土こぼれし月の戸口哉	月	天文
2372	明治31年	秋の部	國元の角力召されぬお庭先	角力	人事
2374	明治31年	秋の部	駕を出て萩に泣き伏す山路哉	萩	植物
2375	明治31年	秋の部	しのび駕萩の裏門三日の月	萩	植物
2376	明治31年	秋の部	灯籠や駕を出て行く仲の町	燈籠	人事
2377	明治31年	秋の部	木犀や駕召し給ふお庭先	木犀	植物
2378	明治31年	秋の部	霧さめや駕出給ふ宮詣で	霧	天文
2379	明治31年	秋の部	よき駕や芙蓉咲いたる庭の前	芙蓉	植物
2380	明治31年	秋の部	草いろ / \ 花たばつくる駕の内	草花	植物
2381	明治31年	秋の部	代官の駕送り出す稲の花	稲の花	植物
2382	明治31年	秋の部	たそがれや医者 of 駕ゆく木槿垣	木槿	植物
2383	明治31年	秋の部	空駕や渡し吹かるゝ秋の暮	秋の暮	時候
2384	明治31年	秋の部	駕で越す峠八里や花芒	芒	植物
2385	明治31年	秋の部	取巻の女房の駕や花野ゆく	花野	地理
2387	明治31年	秋の部	名月に木蘭の舩浮べたり	名月	天文
2388	明治31年	秋の部	舩の人に花すすき振る夕日か那	芒	植物
2389	明治31年	秋の部	漣や月の笹舟くつがへる	月	天文
2390	明治31年	秋の部	人を送る管絃の舩や秋の虹	秋の虹	天文
2391	明治31年	秋の部	網打ちし舩や月下の水烟	網打	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2392	明治31年	秋の部	船をつなぎ岸に上りつ秋の風	秋の風	天文
2393	明治31年	秋の部	夜な / \ の戀の船路や芦の花	蘆の花	植物
2394	明治31年	秋の部	逢戀や舟漕入るゝ芦の花	蘆の花	植物
2395	明治31年	秋の部	帰るべく船に先立つ燕哉	秋燕	動物
2396	明治31年	秋の部	舷に露吹き散らす芒か那	芒	植物
2398	明治31年	秋の部	絵巻物あるは花野を牛車	花野	地理
2399	明治31年	秋の部	がたひしと夜さむの車路次に入る	夜寒	時候
2400	明治31年	秋の部	俗にして車を賃す菌狩	茸狩	人事
2401	明治31年	秋の部	案内や車を下りて草の花	草花	植物
2402	明治31年	秋の部	りん / \ と車はしるや橋月夜	月	天文
2403	明治31年	秋の部	名月の門に乗入るよき車	名月	天文
2404	明治31年	秋の部	いさゝかの萩など咲いて車寄	萩	植物
2405	明治31年	秋の部	鴟鳴くや車を下りて異人ゆく	鴟	動物
2406	明治31年	秋の部	朝寒の車下りたり宮の前	朝寒	時候
2407	明治31年	秋の部	待合の柳散るなりほろ車	柳散る	植物
2408	明治31年	秋の部	荷車の馬に喰はせる芒か那	芒	植物
2409	明治31年	秋の部	顔に散る棹の雫や船の月	月	天文
2411	明治31年	秋の部	我を追ふ朝兒の蔓から / \ に	朝顔	植物
2412	明治31年	秋の部	俳諧や寺の紅葉の焼豆腐	紅葉	植物
2414	明治31年	秋の部	窓あけて雁を見送る女か那	雁	動物
2415	明治31年	秋の部	いわしひく村の惣出や濱日和	鰯引	人事
2416	明治31年	秋の部	木の実など取りつゝゆかば日がくれむ	木の實	植物
2417	明治31年	秋の部	真先に宮の大木紅葉せり	紅葉	植物
2418	明治31年	秋の部	刈残す芒の株や寺の畑	芒	植物
2419	明治31年	秋の部	行秋をこよひも人に別れけ里	行秋	時候
2420	明治31年	秋の部	材木や米代川の秋の風	秋の風	天文
2421	明治31年	秋の部	夕暮を戀の細道草紅葉	草錦	植物
2423	明治31年	秋の部	菊さけて翁夫婦や渡りそめ	菊	植物
2424	明治31年	秋の部	芋の子を洗上げたる小川哉	芋	植物
2426	明治31年	秋の部	寺に住む詩人訪ひよる鳶の門	鳶	植物
2427	明治31年	秋の部	秋の蝶黄なるが多し寺の松	秋の蝶	動物
2428	明治31年	秋の部	方丈や朝日にうとき白芙蓉	芙蓉	植物
2429	明治31年	秋の部	末枯のせざる水田の蓮もあ里	末枯	植物
2430	明治31年	秋の部	蔓ひけば青きが出でぬ烏瓜	烏瓜	植物
2431	明治31年	秋の部	山門に車下りたり鴟の声	鴟	動物
2432	明治31年	秋の部	出水に蓼丈高く花咲きぬ	雑	雑
2433	明治31年	秋の部	路傍や写生してゐる秋日和	秋日和	天文
2434	明治31年	秋の部	石大にして石菫の荅の開かざる	雑	雑
2435	明治31年	秋の部	草花の中に黄なるが拔出でし	草花	植物
2437	明治31年	秋の部	木犀やお経を写す朝机	木犀	植物
2438	明治31年	秋の部	山駕のお肌寒くぞ覚ほすらん	肌寒	時候
2439	明治31年	秋の部	湖近く竹の嵐や星月夜	星月夜	天文
2440	明治31年	秋の部	秋雨や浮世を語る小商人	秋の雨	天文
2441	明治31年	秋の部	わが庭の月や朧する隣りあり	朧摺	人事
2442	明治31年	秋の部	鳴きさうな鹿見て通る夕か那	鹿	動物
2443	明治31年	秋の部	綿取のふくやかに肥えし女か那	綿取	人事
2445	明治31年	秋の部	囊虫の泣明したる甲斐もなし	囊虫	動物
2447	明治31年	秋の部	杯に菊の雫のたまりける	菊	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2448	明治31年	秋の部	床の間に菊の雫のこぼれける	菊	植物
2449	明治31年	秋の部	菊刈て瘦せたる菊の残りけり	残菊	植物
2450	明治31年	秋の部	とざしたる月の戸口や菊白し	菊	植物
2451	明治31年	秋の部	山路来て菊作る家を見つれたり	菊	植物
2452	明治31年	秋の部	残る菊瘦せて白きをいとほしみ	残菊	植物
2453	明治31年	秋の部	菊折れて人の心をいたましむ	菊	植物
2454	明治31年	秋の部	菊の間に酒もりしたる公卿哉	菊	植物
2455	明治31年	秋の部	團子喰ふ茶屋の人数や菊人形	菊人形	人事
2456	明治31年	秋の部	菊咲いて妻を娶りし詩人か那	菊	植物
2457	明治31年	秋の部	わが庭の白菊を愛す黄菊がち	菊	植物
2458	明治31年	秋の部	菊そへてまみらす菊の酒となん	菊の酒	人事
2459	明治31年	秋の部	圓き月尾花が末にあらはれぬ	芒	植物
2460	明治31年	秋の部	調練の旗ひらめかす花野哉	花野	地理
2461	明治31年	秋の部	白菊に香の烟や雨ほそし	菊	植物
3185	明治32年	秋の部	飯濟むや踊あるべき村旅籠	踊	人事
3186	明治32年	秋の部	初秋の草に風吹く寐覚哉	初秋	時候
3187	明治32年	秋の部	迎火のしめりがちなる哀れか那	迎火	人事
3188	明治32年	秋の部	七夕の歌を乞はれし旅籠かな	七夕	人事
3189	明治32年	秋の部	蝸や木の間に見ゆる赤き雲	蝸	動物
3190	明治32年	秋の部	七夕の紅きともしや京の町	七夕	人事
3191	明治32年	秋の部	雷の陣たのもしき弦かな	雷	天文
3192	明治32年	秋の部	蘭を愛す入唐の僧や山の雲	蘭	植物
3193	明治32年	秋の部	朝兒の蒼を見るや星明り	朝顔	植物
3194	明治32年	秋の部	蜻蛉の生れ出でたる草葉かな	蜻蛉	動物
3196	明治32年	秋の部	七夕を君にたよりす思ひやり	七夕	人事
3198	明治32年	秋の部	母乗せて彼岸詣や馬に萩	萩	植物
3199	明治32年	秋の部	打かつぐ太鼓うれしき踊かな	踊	人事
3200	明治32年	秋の部	裸子の泥に菱とる秋暑し	残暑	時候
3201	明治32年	秋の部	太鼓買ふて町を出るや稲の花	稲の花	植物
3202	明治32年	秋の部	海山や二百十日の空の色	二百十日	時候
3203	明治32年	秋の部	虫選びともし消えたる草の風	蟲	動物
3204	明治32年	秋の部	葉鶏頭南瓜畑は荒れにけり	雁來紅	植物
3205	明治32年	秋の部	碧梧は伐仆されつ庭の月	月	天文
3206	明治32年	秋の部	横雲や萩に夜明くる高台寺	萩	植物
3207	明治32年	秋の部	俳諧は蓮の実飛ぶが如きかな	蓮實飛ぶ	植物
3209	明治32年	秋の部	水にちる花火の色や目さましき	花火	人事
3210	明治32年	秋の部	くれなゐの或はみどりの花火哉	花火	人事
3211	明治32年	秋の部	よく揚る花火は天の川近し	花火	人事
3212	明治32年	秋の部	中流に舟を泛べて花火哉	花火	人事
3213	明治32年	秋の部	金龍の水をはしれる花火哉	花火	人事
3214	明治32年	秋の部	芦の洲に舟漕ぎよせし花火哉	花火	人事
3215	明治32年	秋の部	花火消えて稲妻光る目先哉	花火	人事
3216	明治32年	秋の部	兩國の橋は落ちたる花火哉	花火	人事
3217	明治32年	秋の部	月代や花火消えたる岡の上	花火	人事
3218	明治32年	秋の部	揚花火岸の柳に消えにけり	花火	人事
3219	明治32年	秋の部	大粒な雨降りいでし花火かな	花火	人事
3221	明治32年	秋の部	萩わけて橋の名を見る庭荒れし	萩	植物
3222	明治32年	秋の部	石に萩夜露こぼるゝばかりなり	萩	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3223	明治32年	秋の部	藤棚の荒れし軒端や萩の丈	萩	植物
3224	明治32年	秋の部	萩の人に茶盆を運ぶまはり道	萩	植物
3225	明治32年	秋の部	萩咲くや木の間に見ゆる人の影	萩	植物
3226	明治32年	秋の部	萩の園犬ころ多き芝生かな	萩	植物
3227	明治32年	秋の部	松の木を繞りて萩の逦かな	萩	植物
3228	明治32年	秋の部	寺俗に萩乱れ咲く人出かな	萩	植物
3229	明治32年	秋の部	商人の女房なりけり萩の花	萩	植物
3230	明治32年	秋の部	異草もまじりて萩の荅かな	萩	植物
3232	明治32年	秋の部	寐そべってひやづく壁を踏みにけり	冷か	時候
3233	明治32年	秋の部	冷や物打着せし腹の上	冷か	時候
3234	明治32年	秋の部	ひや/ \と浪打寄する木の根哉	冷か	時候
3235	明治32年	秋の部	つきにゆきし鐘冷かに大なり	冷か	時候
3236	明治32年	秋の部	幢幔やひや/ \として風が吹く	冷か	時候
3237	明治32年	秋の部	冷かに楸散るなり門の内	冷か	時候
3238	明治32年	秋の部	冷かな風に吹かれてかしま立	冷か	時候
3239	明治32年	秋の部	雨一夜ひやづく空となりにけり	冷か	時候
3240	明治32年	秋の部	冷かや草を拂へば石に露	冷か	時候
3241	明治32年	秋の部	夙に起きて刻む佛や冷やかに	冷か	時候
3243	明治32年	秋の部	鶏の子は籠に戻りつ秋の雨	秋の雨	天文
3244	明治32年	秋の部	篝火を草に打振り牛祭	牛祭	人事
3245	明治32年	秋の部	松枯れて葡萄の月を賞しけり	葡萄	植物
3246	明治32年	秋の部	装ひや萩に連立つ三四人	萩	植物
3247	明治32年	秋の部	柳散り戸口に古き轍かな	柳散る	植物
3248	明治32年	秋の部	柿の葉と柿と盛りたる器かな	柿	植物
3249	明治32年	秋の部	椋鳥の木の実をこぼす坂の上	椋鳥	動物
3250	明治32年	秋の部	穂芒の馬の腹うつ野分かな	野分	天文
3251	明治32年	秋の部	老樂の鳴子も引いて見たりけり	鳴子	人事
3252	明治32年	秋の部	長き夜の雨ふり已まぬ旅籠哉	夜長	時候
3253	明治32年	秋の部	雨垂れのいさごを洗ひ鳳仙花	鳳仙花	植物
3254	明治32年	秋の部	末なりの鬼灯残る青みがち	鬼灯	植物
3256	明治32年	秋の部	奏聞の孝子もありて年豊か	豊年	人事
3257	明治32年	秋の部	豊年の村に入りけり奉幣使	豊年	人事
3258	明治32年	秋の部	豊年は津々浦々の踊かな	豊年	人事
3259	明治32年	秋の部	豊年の舞樂起るや行在所	豊年	人事
3260	明治32年	秋の部	實る秋千石舩に帆をあげて	秋	時候
3261	明治32年	秋の部	豊かなる瑞穂の國や秋日和	秋日和	天文
3262	明治32年	秋の部	入船の港賑はふ米の秋	秋	時候
3263	明治32年	秋の部	國々の五穀みのると奏しけり	豊年	人事
3264	明治32年	秋の部	瑞兆の雲も現れ実る秋	豊年	人事
3265	明治32年	秋の部	豊年の夫も帰りて嬉しけれ	豊年	人事
3267	明治32年	秋の部	洪水や黍に風吹く朝月夜	唐黍	植物
3268	明治32年	秋の部	江月や鶴飛去りし舟の上	月	天文
3269	明治32年	秋の部	小錢もちて酒買ひに行く村の月	月	天文
3270	明治32年	秋の部	明月の水は東に流れけり	名月	天文
3271	明治32年	秋の部	冷かな月夜なりけり雨上り	月	天文
3272	明治32年	秋の部	明月の庭には木々の雫かな	名月	天文
3273	明治32年	秋の部	明月の風颯々と吹いて来る	名月	天文
3274	明治32年	秋の部	明月の葉廣柏や暗き窓	名月	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3275	明治32年	秋の部	草庵の灯も見えて嵯峨の月	月	天文
3276	明治32年	秋の部	いくさやんで月に暈見る野末哉	月	天文
3278	明治32年	秋の部	打やまぬ踊太鼓や雨になり	踊	人事
3279	明治32年	秋の部	笛吹の美男なりける踊かな	踊	人事
3280	明治32年	秋の部	踊ありとふれまはりけり稲の花	踊	人事
3281	明治32年	秋の部	宿を出て踊見にゆく他国かな	踊	人事
3282	明治32年	秋の部	京の人をとめて踊を習ひけり	踊	人事
3283	明治32年	秋の部	時の疫の踊もなくて村さびし	踊	人事
3284	明治32年	秋の部	篝火の草木にうつり踊かな	踊	人事
3285	明治32年	秋の部	道心のさそひ出されし踊かな	踊	人事
3286	明治32年	秋の部	下加茂の踊召されし御庭哉	踊	人事
3287	明治32年	秋の部	月に雲踊も散ってしまひけり	踊	人事
3288	明治32年	秋の部	古の神泉苑や秋の水	秋の水	地理
3289	明治32年	秋の部	花芒小石がちなる山路哉	芒	植物
3290	明治32年	秋の部	草花に水流れ入る小橋哉	草花	植物
3291	明治32年	秋の部	山越の暮に悲しき案山子哉	案山子	人事
3292	明治32年	秋の部	つはくらも帰りて門の穂蓼哉	蓼の花	植物
3293	明治32年	秋の部	末枯の茄子畑や水が退く	末枯	植物
3294	明治32年	秋の部	いが栗の青きが落ちぬ谷の水	栗	植物
3295	明治32年	秋の部	後の月は菊に灯す夜なりけり	後の月	天文
3296	明治32年	秋の部	此頃の夜寒の空や星が見え	夜寒	時候
3297	明治32年	秋の部	小謡の夕山越や薬掘	薬掘	人事
3299	明治32年	秋の部	豆引いて鶏頭残る畑かな	豆引	人事
3300	明治32年	秋の部	豆引いてかけし軒端に照る日哉	豆引	人事
3301	明治32年	秋の部	畑の豆畦豆も引いてしまひけり	豆引	人事
3302	明治32年	秋の部	引残す豆に鶏遊びけり	豆引	人事
3303	明治32年	秋の部	荒畑や草の中より豆を引く	豆引	人事
3304	明治32年	秋の部	豆引や小豆畑はまだ青し	豆引	人事
3305	明治32年	秋の部	雨晴れて豆引かばやと思ひけり	豆引	人事
3306	明治32年	秋の部	草荒れて豆引くべくもあらぬかな	豆引	人事
3307	明治32年	秋の部	畔豆を引くや門口に鶏を追ふ	豆引	人事
3308	明治32年	秋の部	豆引いて荷ひ来りし労れかな	豆引	人事
3310	明治32年	秋の部	山路来て男に逢ひぬ木賊刈	木賊刈	人事
3311	明治32年	秋の部	木賊刈る雨もさびしやハツ下り	木賊刈	人事
3312	明治32年	秋の部	木賊刈る男は村の鰥夫かな	木賊刈	人事
3313	明治32年	秋の部	木賊刈寺に寄りけり石に鎌	木賊刈	人事
3314	明治32年	秋の部	三日月や風さら / \ と木賊刈	木賊刈	人事
3315	明治32年	秋の部	木賊刈る男に道を問ひにけり	木賊刈	人事
3316	明治32年	秋の部	木賊刈木賊の中の昼餉哉	木賊刈	人事
3317	明治32年	秋の部	小盗人出づる山路や木賊刈	木賊刈	人事
3318	明治32年	秋の部	道の辺に木賊刈干す小石哉	木賊刈	人事
3319	明治32年	秋の部	領内を忍びの狩や木賊刈	木賊刈	人事
3321	明治32年	秋の部	起き出でゝ葉姜を掘るひじり哉	生姜	植物
3322	明治32年	秋の部	葉姜を荷ひ来りぬ市の雨	生姜	植物
3323	明治32年	秋の部	朝の雨姜の若葉ぬるゝ程	生姜	植物
3324	明治32年	秋の部	葉姜やしめりがちなる畑の土	生姜	植物
3325	明治32年	秋の部	葉姜の葉ながらにして卓の上	生姜	植物
3326	明治32年	秋の部	葉姜の草にまじりて伸びにけり	生姜	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3327	明治32年	秋の部	葉姜を洗へば白き根なりけり	生姜	植物
3328	明治32年	秋の部	霧雨や葉姜を掘る山の畑	生姜	植物
3329	明治32年	秋の部	よき酒に葉姜ひたし贈りけり	生姜	植物
3330	明治32年	秋の部	葉姜の掘残されて更くる秋	秋深し	時候
3331	明治32年	秋の部	葉姜の葉は緑なる梅酢哉	生姜	植物
3332	明治32年	秋の部	葉姜を朝に嗜む老儒哉	生姜	植物
3334	明治32年	秋の部	叔母の子をさそふ鬼灯畑哉	鬼灯	植物
3335	明治32年	秋の部	男の子にも鬼灯分つ大人ぶり	鬼灯	植物
3336	明治32年	秋の部	鬼灯も賣れぬ小店や日短かし	鬼灯	植物
3337	明治32年	秋の部	鬼灯も鶏頭も皆泥まみれ	雑	雑
3338	明治32年	秋の部	鬼灯の青きもまじり多くなる	鬼灯	植物
3339	明治32年	秋の部	鬼灯を貰ひに来るや隣の子	鬼灯	植物
3340	明治32年	秋の部	鬼灯も枯れ勝にして蒜の畑	鬼灯	植物
3341	明治32年	秋の部	鬼灯に蝶も見えけり日をうけて	鬼灯	植物
3342	明治32年	秋の部	草わけて鬼灯さがす屋敷跡	鬼灯	植物
3343	明治32年	秋の部	鬼灯を賣りに来りぬ例の媪	鬼灯	植物
3344	明治32年	秋の部	飴賣の鬼灯も賣る物日哉	鬼灯	植物
3345	明治32年	秋の部	鬼灯は刈尽されぬ昼の虫	鬼灯	植物
3346	明治32年	秋の部	鬼灯の殻引裂いて憂かな	鬼灯	植物
3347	明治32年	秋の部	鬼灯の切捨てられてしなびけり	鬼灯	植物
3349	明治32年	秋の部	見知らざる翁もまじり菌狩	茸狩	人事
3350	明治32年	秋の部	茸狩の茸を煮るべき用意哉	茸狩	人事
3351	明治32年	秋の部	茸狩に仙を羨む心あり	茸狩	人事
3352	明治32年	秋の部	茸狩や鶏鳴く村を見下ろして	茸狩	人事
3353	明治32年	秋の部	炭焼に訪寄る昼や菌狩	茸狩	人事
3354	明治32年	秋の部	茸狩の寺に集ひし戻りかな	茸狩	人事
3355	明治32年	秋の部	炭焼の娘をなぶり菌狩	茸狩	人事
3356	明治32年	秋の部	菌狩薬も掘りて戻りけり	茸狩	人事
3357	明治32年	秋の部	茸狩や襟に落ちたる松の露	茸狩	人事
3358	明治32年	秋の部	茸狩や溪に下りし人の声	茸狩	人事
3359	明治32年	秋の部	名も知らぬ菌を取ってすてにけり	茸狩	人事
3360	明治32年	秋の部	山僧やさそひ出されて菌狩	茸狩	人事
3361	明治32年	秋の部	茸狩の連にはぐれし下山かな	茸狩	人事
3362	明治32年	秋の部	茸狩の松茸を撰る籠の中	茸狩	人事
3363	明治32年	秋の部	かり得たる菌に草をかぶせけり	茸狩	人事
3365	明治32年	秋の部	初汐や鐘つき出す磯の寺	初汐	地理
3366	明治32年	秋の部	初汐に二十日の月も出でにけり	初汐	地理
3367	明治32年	秋の部	初汐に風吹く磯の木立哉	初汐	地理
3368	明治32年	秋の部	初汐や淡路の山に昼の月	初汐	地理
3369	明治32年	秋の部	初汐の漫々として星光る	初汐	地理
3370	明治32年	秋の部	初汐や鳶の草木の日の光り	初汐	地理
3371	明治32年	秋の部	初汐や鳴から帰る朝の舟	初汐	地理
3372	明治32年	秋の部	初汐の武さしの國や朝畑	初汐	地理
3373	明治32年	秋の部	初汐や磯は雨ふる小家がち	初汐	地理
3374	明治32年	秋の部	初汐に夜明るる村や舟の窓	初汐	地理
3375	明治32年	秋の部	舟人の初汐はかり更けにけり	初汐	地理
3376	明治32年	秋の部	初汐や高きに立てる磯の寺	初汐	地理
3378	明治32年	秋の部	嬉しくも萩につれ立つ三人かな	萩	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3380	明治32年	秋の部	露しぐれ笠傾くる風もあり	露しぐれ	天文
3381	明治32年	秋の部	もろともに萩を見にきと傳へてよ	萩	植物
3383	明治32年	秋の部	曲物に柚の葉もそへて柚味噌哉	柚味噌	人事
3384	明治32年	秋の部	方外のゆみそをわかつ笹葉哉	柚味噌	人事
3385	明治32年	秋の部	老禪に柚味噌乞ひ得て戻りけり	柚味噌	人事
3386	明治32年	秋の部	この頃のゆみそもありて小酒哉	柚味噌	人事
3387	明治32年	秋の部	柚味噌の残少き愚庵かな	柚味噌	人事
3388	明治32年	秋の部	酒のまぬ人ばかりなり新柚みそ	柚味噌	人事
3389	明治32年	秋の部	わびしくも芭蕉を泊めしゆみそ哉	柚味噌	人事
3390	明治32年	秋の部	ゆみそつくる朝の厨のうそ寒し	柚味噌	人事
3391	明治32年	秋の部	山里は豆腐に遠き柚みそ哉	柚味噌	人事
3392	明治32年	秋の部	芋の子を呉れてゆみそを貰ひけり	柚味噌	人事
3394	明治32年	秋の部	入船の新酒もありて祭かな	新酒	人事
3395	明治32年	秋の部	店先に新酒の樽や鶏頭花	新酒	人事
3396	明治32年	秋の部	村中に新酒をくばり祝儀哉	新酒	人事
3397	明治32年	秋の部	野の店の新酒の酔や草の花	新酒	人事
3398	明治32年	秋の部	新酒のむで夜道をゆくやさめ心地	新酒	人事
3399	明治32年	秋の部	賣出しの草花かざる新酒など	新酒	人事
3400	明治32年	秋の部	樽入は新酒なりけりよい嫁御	新酒	人事
3401	明治32年	秋の部	酔顔の下司もうれしき新酒哉	新酒	人事
3402	明治32年	秋の部	新酒積んで川を下るや花芭	新酒	人事
3403	明治32年	秋の部	雨がちの新酒も遅き村さびし	新酒	人事
3404	明治32年	秋の部	菊咲いて君来ましたり此夕	菊	植物
3405	明治32年	秋の部	なか/＼に花野を遠み牛車	花野	地理
3406	明治32年	秋の部	夕月の戸口にあたりひさご哉	瓢	植物
3407	明治32年	秋の部	曉の星も消えけり白桔梗	桔梗	植物
3408	明治32年	秋の部	新そばは弥亘もまじりて発句哉	新蕎麥	人事
3409	明治32年	秋の部	古の月夜に似たる砧かな	砧	人事
3410	明治32年	秋の部	満目の蓮破れぬ風曇り	破蓮	植物
3411	明治32年	秋の部	引きそめし豆の畑や雁わたる	雁	動物
3412	明治32年	秋の部	大名の白河を立つあけの雁	雁	動物
3413	明治32年	秋の部	酒買ふて舟に戻るや暮の雁	雁	動物
3414	明治32年	秋の部	積奠の襟を正しくうそ寒き	やや寒	時候
3415	明治32年	秋の部	雁金や雨ふり出でし舟の窓	雁	動物
3416	明治32年	秋の部	初雁やまだ鶏頭の瘦せながら	雁	動物
3417	明治32年	秋の部	鶏の子の落穂拾ふや畦の草	落穂	植物
3418	明治32年	秋の部	夕晴の菊鮮かや土ぬれし	菊	植物
3419	明治32年	秋の部	紅葉散る縁に雨垂しぶきけり	紅葉	植物
3420	明治32年	秋の部	柳ちり/＼日もくれんとす	柳散る	植物
3421	明治32年	秋の部	赤菊の咲き乱れたり勝手口	菊	植物
3422	明治32年	秋の部	鱒引大雨風となりにけり	鱒引	人事
3423	明治32年	秋の部	ぐみの木の葉も落尽す濱の風	茱萸	植物
3424	明治32年	秋の部	飛んで来る鳥にしぐれけり	時雨	天文
3425	明治32年	秋の部	しぐれ来て少しかゝりぬ利休窓	時雨	天文
3426	明治32年	秋の部	大雨に砂洗はれし黄菊かな	菊	植物
3427	明治32年	秋の部	料理屋を出てしぐれけりもみの裏	時雨	天文
3428	明治32年	秋の部	赤々と瀬にうつる雲や鮎のさび	鯖鮎	動物
3429	明治32年	秋の部	谷川の尖りし石や鮎落る	鯖鮎	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3430	明治32年	秋の部	さびあゆの貫かれけり草の骨	鯖鮎	動物
3431	明治32年	秋の部	さびあゆの岩に便らん思哉	鯖鮎	動物
3432	明治32年	秋の部	さびあゆの膳に上りぬ山はたご	鯖鮎	動物
3433	明治32年	秋の部	さびあゆの身をかくすべきすべをなみ	鯖鮎	動物
3434	明治32年	秋の部	しばらくは日向に寄りぬ下りあゆ	鯖鮎	動物
3435	明治32年	秋の部	此頃の鮎もさびたり鰯すし	鯖鮎	動物
3436	明治32年	秋の部	落鮎の身も黄みけり網の中	鯖鮎	動物
3437	明治32年	秋の部	あゆも落ち尾花もちりてしまひけり	雑	雑
3438	明治32年	秋の部	秋風や岩に干からびし海の草	秋の風	天文
3439	明治32年	秋の部	自茲去ていつくに君は花芒	芒	植物
3440	明治32年	秋の部	思ひあまり暮秋の山を下りけり	暮の秋	時候
3441	明治32年	秋の部	秋も末になりける顔や君も亦	暮の秋	時候
3442	明治32年	秋の部	旅もはや茲に九月の酒中り	九月	時候
3443	明治32年	秋の部	掃はざる銀杏落葉や能樂堂	銀杏散る	植物
3444	明治32年	秋の部	眼中の秋に海あり吾老矣	秋	時候
3445	明治32年	秋の部	此頃の日和つゝきや茶の蒼	茶の花	植物
3446	明治32年	秋の部	茶の花の垣も低しや馬に乗り	茶の花	植物
3447	明治32年	秋の部	茶の花の木幡あたりや雨さびし	茶の花	植物
3448	明治32年	秋の部	茶の花や霜早くふる山の寺	茶の花	植物
3449	明治32年	秋の部	茶の花も咲きぬ異木の帰花	茶の花	植物
3450	明治32年	秋の部	朝起の去来は柿を眺めけり	柿	植物
3452	明治32年	秋の部	茸狩や木の間に見ゆる京の町	茸狩	人事
3453	明治32年	秋の部	茸狩や草につらぬく茸の数	茸狩	人事
3455	明治32年	秋の部	鳥も来ず紅葉に早き金閣寺	紅葉	植物
3456	明治32年	秋の部	達磨の画秋風吹くが如きかな	秋の風	天文
3458	明治32年	秋の部	境内は名のある桜もみじかな	桜紅葉	植物
3460	明治32年	秋の部	渋柿はみんな鴉に喰はれうぞ	柿	植物
3462	明治32年	秋の部	染物に赤蜻蛉や京の川	赤蜻蛉	動物
3464	明治32年	秋の部	風吹くや木津の川辺の棉畑	棉	植物
3466	明治32年	秋の部	よき人の墓も荒れたり鶏頭花	鶏頭	植物
3468	明治32年	秋の部	雨の中に朝戸を開けて蕎麦の花	蕎麦花	植物
3470	明治32年	秋の部	秋雨や鶏の米賣る媪が店	秋の雨	天文
3472	明治32年	秋の部	しん / \ と霧に雨ふる神の山	霧	天文
3473	明治32年	秋の部	上流の紅葉も見えつ五十鈴川	紅葉	植物
3475	明治32年	秋の部	神樂殿の雨に人なきそぞろ寒	そぞろ寒	時候
3476	明治32年	秋の部	朝寒や宮作るべき木の匂ひ	朝寒	時候
3477	明治32年	秋の部	やゝ寒き雨や見上ぐる神の杉	やや寒	時候
3478	明治32年	秋の部	神木のひやゝかにして雫かな	冷か	時候
3479	明治32年	秋の部	秋にして雨にして神の残シの灯	秋	時候
3481	明治32年	秋の部	山風の霧吹きおろす畏さよ	霧	天文
3483	明治32年	秋の部	幾秋の千木高うして宮の雨	秋	時候
3485	明治32年	秋の部	やや久しき汽車の遅れや夜の寒き	夜寒	時候
3487	明治32年	秋の部	海岸に宿れる夜半や秋の雨	秋の雨	天文
3489	明治32年	秋の部	草花も吾もぬれけり雨三日	草花	植物
3491	明治32年	秋の部	大佛の口影を踏むや肌寒う	肌寒	時候
3492	明治32年	秋の部	大佛のうしろは山や秋の風	秋の風	天文
3494	明治32年	秋の部	月の夜は達磨の眼光りけり	月	天文
3496	明治32年	秋の部	鎌倉を見たり満地の秋の風	秋の風	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3499	明治32年	秋の部	北国の山の紅葉や雪早し	紅葉	植物
3500	明治32年	秋の部	帰省して今年の粟を炊きけり	粟	植物
3501	明治32年	秋の部	茶の花に遊ぶ小鳥も見馴れたり	茶の花	植物
3502	明治32年	秋の部	茶の花や引残されし烏瓜	茶の花	植物
3503	明治32年	秋の部	茶の花や俗も閑なる寺の會	茶の花	植物
3504	明治32年	秋の部	茶畑の荒れて久しや花咲きぬ	茶の花	植物
3505	明治32年	秋の部	草枯の畑や茶の木の荅がち	茶の花	植物
3506	明治32年	秋の部	海中の巖を吹くや秋の風	秋の風	天文
3507	明治32年	秋の部	此頃の燕も帰り干蓑	秋燕	動物
3508	明治32年	秋の部	三四の菌を草に包みけり	茸	植物
3509	明治32年	秋の部	神嘗の祭の月となりけり	神嘗祭	人事
3510	明治32年	秋の部	渋柿や袴つけたる氏子ども	柿	植物
3511	明治32年	秋の部	まはり道の足もよごさず草紅葉	草錦	植物
3512	明治32年	秋の部	草紅葉運動会は果てにけり	草錦	植物
3513	明治32年	秋の部	秋晴の道に物干す筵哉	秋晴	天文
3514	明治32年	秋の部	月に歩す偶々九月十三夜	九月	時候
3515	明治32年	秋の部	百舌鳥鳴いて目黒に近き木立かな	鴟	動物
3516	明治32年	秋の部	十町もありと云ふ道や花芒	芒	植物
3517	明治32年	秋の部	酒ものまづ夜を寒がりて寐たりけり	夜寒	時候
3518	明治32年	秋の部	冷やかに神の扉を閉るなり	冷か	時候
3519	明治32年	秋の部	岩木山の雪を見上る刈田哉	刈田	地理
3520	明治32年	秋の部	雨寒く刈田を雁の低う飛ぶ	刈田	地理
3521	明治32年	秋の部	老一人田も刈終へてしまひけり	刈田	地理
3522	明治32年	秋の部	秋もはや里は刈田の雨つゞき	刈田	地理
3523	明治32年	秋の部	刈跡の水も落さぬ櫓哉	櫓	植物
3524	明治32年	秋の部	山里や田を刈りてより小淋しき	刈田	地理
3525	明治32年	秋の部	岡の畑のそばも実となる刈田哉	刈田	地理
3526	明治32年	秋の部	豆引の刈田を眺め戻りけり	刈田	地理
3527	明治32年	秋の部	この頃の秋の霜ふる刈田哉	刈田	地理
3528	明治32年	秋の部	鶏追へば刈田に遠く遊びけり	刈田	地理
3529	明治32年	秋の部	山の田は刈られて久し散尾花	芒	植物
3530	明治32年	秋の部	少し明かき刈田の果や雲のきれ	刈田	地理
3531	明治32年	秋の部	薄明き月の戸口や葉鶏頭	雁來紅	植物
3532	明治32年	秋の部	よき酒を買にやりけり鯉漬	鯉漬	人事
3533	明治32年	秋の部	松茸の土こぼれけり台どころ	松茸	植物
3534	明治32年	秋の部	松茸に草ちらばりぬ台處	松茸	植物
3535	明治32年	秋の部	神の木の盤桓として野分かな	野分	天文
3536	明治32年	秋の部	秋の山に上りて見たり雲の色	秋の山	地理
3537	明治32年	秋の部	鶺鴒や川原に咲ける黄なる花	鶺鴒	動物
3538	明治32年	秋の部	清水の愚庵を訪ひぬ蘭の歌	蘭	植物
3539	明治32年	秋の部	入唐の僧帰りけり蘭の花	蘭	植物
3540	明治32年	秋の部	幽谷に人もすみけり蘭の花	蘭	植物
3541	明治32年	秋の部	岩を負ひて咲かざる蘭の茂りけり	蘭	植物
3542	明治32年	秋の部	菊の花且の物と思ふかな	菊	植物
3543	明治32年	秋の部	蕙と蘭と共に吹かるゝ且かな	蘭	植物
3544	明治32年	秋の部	蘭咲くや岩にこぼれし日の光	蘭	植物
3545	明治32年	秋の部	蘭の香や愚なる子の僧となり	蘭	植物
3546	明治32年	秋の部	蘭の鉢貴人の前に据ゑにけり	蘭	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3547	明治32年	秋の部	よき水も流れて蘭の多き谷	蘭	植物
3548	明治32年	秋の部	蘭の苞いやしき人の通りけり	蘭	植物
3549	明治32年	秋の部	蘭の花桂の露や星明り	蘭	植物
3550	明治32年	秋の部	蘭の花野分も知らぬ岩により	蘭	植物
3551	明治32年	秋の部	盆石と花なき蘭を愛しけり	蘭	植物
3552	明治32年	秋の部	襖あけて書院に蘭を運びけり	蘭	植物
3554	明治32年	秋の部	渋柿や流行り出したる大黒天	柿	植物
3555	明治32年	秋の部	實もならぬよしある柿の一木哉	柿	植物
3556	明治32年	秋の部	小一里を枝柿もちて帰りけり	柿	植物
3557	明治32年	秋の部	小淋しき山里路や柿落葉	柿落葉	植物
3558	明治32年	秋の部	渋柿の葉も青々と秋暑し	柿	植物
3559	明治32年	秋の部	渋柿は枝に残れり干菓	柿	植物
3560	明治32年	秋の部	渋柿の村も見えけり花芒	柿	植物
3561	明治32年	秋の部	門に入る医者的車や柿落葉	柿落葉	植物
3562	明治32年	秋の部	渋柿の扁たきを名の在所哉	柿	植物
3563	明治32年	秋の部	渋柿に到る逕も荒れにけり	柿	植物
3565	明治32年	秋の部	俳諧は酒温むるすべもなし	温め酒	人事
3566	明治32年	秋の部	雨となりし運動会や草紅葉	草錦	植物
3567	明治32年	秋の部	低き木の紅葉もまじり花芒	芒	植物
3568	明治32年	秋の部	俳諧の別は似たり柿の蒂	柿	植物
3569	明治32年	秋の部	柚の皮の味噌も残りて別哉	柚味噌	人事
3570	明治32年	秋の部	五六人高きに登る菊の花	菊	植物
3571	明治32年	秋の部	あたたためて柚味噌なめけりさしむかひ	柚味噌	人事
3572	明治32年	秋の部	莽として愁ふ芒や君は去る	芒	植物
3573	明治32年	秋の部	風に臨んで暮秋の人を送りけり	暮の秋	時候
3574	明治32年	秋の部	よき人の袍衣うめし木はもみじけり	紅葉	植物
3575	明治32年	秋の部	皆曰く是より遠し秋の風	秋の風	天文
3576	明治32年	秋の部	足らざりし柚味噌に惜き別哉	柚味噌	人事
3578	明治32年	秋の部	木の間から海は見えけり露しぐれ	露しぐれ	天文
3579	明治32年	秋の部	露しぐれ袖にかこひし小提灯	露しぐれ	天文
3580	明治32年	秋の部	山駕に露しぐれきく小淋しき	露しぐれ	天文
3581	明治32年	秋の部	露しぐれ鳥も啼かざる木立哉	露しぐれ	天文
3582	明治32年	秋の部	露しぐれ人出て給ふ車寄	露しぐれ	天文
3583	明治32年	秋の部	露しぐれ森を出てたる日の光	露しぐれ	天文
3584	明治32年	秋の部	内宮の神の灯残り露しぐれ	露しぐれ	天文
3585	明治32年	秋の部	しばし憩ふ一木の松や露しぐれ	露しぐれ	天文
3586	明治32年	秋の部	露しぐれ水に散込む夜明哉	露しぐれ	天文
3587	明治32年	秋の部	露しぐれ既に乾いて草の花	露しぐれ	天文
3588	明治32年	秋の部	夕ふじや垣の茶の木も咲きそめて	茶の花	植物
3589	明治32年	秋の部	黍からを踏んで逕のやゝ寒き	唐黍	植物
3590	明治32年	秋の部	大國の刈田の上やくもり勝	刈田	地理
3591	明治32年	秋の部	山越之狭き刈田や蕎麦の花	蕎麦花	植物
3592	明治32年	秋の部	税輕し糶すり唄も昔ぶり	糶摺	人事
3593	明治32年	秋の部	此頃の雁もまれなり尾花散る	芒散る	植物
3594	明治32年	秋の部	登臨の城高うして雲の秋	秋の雲	天文
3595	明治32年	秋の部	草の実もこぼれて久し古き墓	草の実	植物
3596	明治32年	秋の部	八月の鱸をさくや舟の客	八月	時候
3597	明治32年	秋の部	笠の中に木実を取りし山路哉	木の實	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3598	明治32年	秋の部	紅葉見て滝の裏へもまはりけり	紅葉	植物
3599	明治32年	秋の部	朝寒の菊一ツ咲く戸口哉	雑	雑
3600	明治32年	秋の部	掃かざなりし藤棚の下や冬近し	冬近し	時候
3601	明治32年	秋の部	別るゝに物の悲しや草の花	草花	植物
3602	明治32年	秋の部	心細く北向く兒や秋の風	秋の風	天文
3603	明治32年	秋の部	秋風や道にちらばる草の骨	秋の風	天文
3604	明治32年	秋の部	岩多き國に入りけり秋の風	秋の風	天文
3605	明治32年	秋の部	秋風や桑の畑の泥乾き	秋の風	天文
3606	明治32年	秋の部	洪水や日くれて秋の風が吹く	秋の風	天文
3607	明治32年	秋の部	朝寒や眉の上なる吾妻山	朝寒	時候
3608	明治32年	秋の部	古の奥州路なり秋の風	秋の風	天文
3609	明治32年	秋の部	秋の雲藏王岳を奔りけり	秋の雲	天文
3610	明治32年	秋の部	もろともに新酒の酔や國訛	新酒	人事
3611	明治32年	秋の部	萩芒芒は穂にも出でずして	雑	雑
3612	明治32年	秋の部	十境の外に菊咲く蘭若かな	菊	植物
3613	明治32年	秋の部	芋の子をとりて芋の葉捨てにけり	芋	植物
3614	明治32年	秋の部	茸もなく松の下草花さびし	茸	植物
3615	明治32年	秋の部	衰へし蜻蛉を見る落穂哉	雑	雑
3616	明治32年	秋の部	みとり子の其子美し菊の綿	菊	植物
3617	明治32年	秋の部	穴に入る頃を野ら蛇うとましき	蛇穴に入る	動物
3618	明治32年	秋の部	いさゝかの萁を干して戸さし勝	萁干	人事
3619	明治32年	秋の部	東海に臨む旅籠や星月夜	星月夜	天文
3620	明治32年	秋の部	美しき木の葉の色や鮭の肌	鮭	動物
3621	明治32年	秋の部	末枯れし萩や芒はさびしかり	雑	雑
3622	明治32年	秋の部	よく歌ふ蚯蚓や姫の恋ならん	蚯蚓鳴く	動物
3623	明治32年	秋の部	紫の花は小さし草の秋	秋の草	植物
3624	明治32年	秋の部	末枯れし野や白日を風の吹く	末枯	植物
3625	明治32年	秋の部	巢にもよらで燕さびしき別かな	秋燕	動物
3626	明治32年	秋の部	鳥を射る蝦夷の男や秋の海	秋の海	地理
3627	明治32年	秋の部	傘をさして出てけり雨月夜	月	天文
3628	明治32年	秋の部	椎の実や神恐しき森の風	椎の実	植物
3629	明治32年	秋の部	鳴立て月は東にあらはれぬ	鳴	動物
3630	明治32年	秋の部	腸を洗はれてみる糸瓜哉	糸瓜	植物
3631	明治32年	秋の部	女郎花折らんともせで通りけり	女郎花	植物
3632	明治32年	秋の部	山盛の栗商や後の月	後の月	天文
3633	明治32年	秋の部	長き夜の星や軒端に迫りたる	夜長	時候
3634	明治32年	秋の部	肌さむき松の鱗の雫かな	肌寒	時候
3635	明治32年	秋の部	白菊の蒼尊し天津星	菊	植物
3636	明治32年	秋の部	俳諧師秋の茄子をめでにけり	秋茄子	植物
3637	明治32年	秋の部	綿干すや路にほこりも立たぬ風	綿	植物
3638	明治32年	秋の部	鶏頭に吹溜りけり柿落葉	雑	雑
3639	明治32年	秋の部	行秋や渺茫として海の色	行秋	時候
3640	明治32年	秋の部	二ツ栗別るゝ戀もありぬべし	栗	植物
3641	明治32年	秋の部	雨の中にひとり山田の稲を刈る	稲刈	人事
3642	明治32年	秋の部	稲妻やくれて家に入るひとり者	稲妻	天文
3643	明治32年	秋の部	炭を焼く男に逢ひぬ紅葉狩	紅葉狩	人事
3644	明治32年	秋の部	白菊や夜は星辰二十八	菊	植物
3645	明治32年	秋の部	鱗閣の人誰々ぞ菊の花	菊	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3646	明治32年	秋の部	鳴子引老いては物に氣短き	鳴子	人事
3647	明治32年	秋の部	鳴子引楚の項王を怨みけり	鳴子	人事
3648	明治32年	秋の部	鳴子引秦時の民や法三章	鳴子	人事
3649	明治32年	秋の部	朝寒や白朝兒の花一ツ	朝顔	植物
3650	明治32年	秋の部	鯊釣や尾花に當る西入日	鯊釣	人事
3651	明治32年	秋の部	鶏頭も穂蓼も焦げてしまひけり	雑	雑
3652	明治32年	秋の部	枝豆や月南面の忠義堂	枝豆	植物
3653	明治32年	秋の部	落し水月は屋後に傾きぬ	落し水	地理
3654	明治32年	秋の部	物思へば夢定らず遠砧	砧	人事
3655	明治32年	秋の部	雨風や二百十日の家淋し	二百十日	時候
3656	明治32年	秋の部	思ふ事云はで桔梗の蒼哉	桔梗	植物
3657	明治32年	秋の部	長き夜の若宮を思ふ里居哉	夜長	時候
3658	明治32年	秋の部	草市や手にあまりたる物の数	草市	人事
3659	明治32年	秋の部	あざやかな願の糸や笹の露	露	天文
3660	明治32年	秋の部	少しつゝ焼米貰ふ寺子かな	焼米	人事
3661	明治32年	秋の部	油畫や玉川の里草の花	草花	植物
10587	明治32年	秋の部	裏街の踊もまじる踊かな	踊	人事
3866	明治33年	秋の部	朝貌のもの悲しくも咲き残り	朝顔	植物
3867	明治33年	秋の部	朝顔の一輪さきや濃紫	朝顔	植物
3868	明治33年	秋の部	朝顔の思ひや鉢の置所	朝顔	植物
3869	明治33年	秋の部	朝貌ののびるがまゝや花の数	朝顔	植物
3870	明治33年	秋の部	こて / \ と朝貌の鉢や俗和尚	朝顔	植物
3871	明治33年	秋の部	朝顔や水明かに星映り	朝顔	植物
3872	明治33年	秋の部	朝顔の花を描くや葉の緑	朝顔	植物
3873	明治33年	秋の部	朝顔や早起きをする胃の病	朝顔	植物
3874	明治33年	秋の部	朝顔の鉢碎けたり花の末	朝顔	植物
3875	明治33年	秋の部	朝顔を見て心よしかしまだち	朝顔	植物
3876	明治33年	秋の部	既にして秋暑からず水の家	残暑	時候
3877	明治33年	秋の部	秋暑し河伯を呪ふ川の壇	残暑	時候
3878	明治33年	秋の部	秋あつき此頃青き蝶出でぬ	残暑	時候
3879	明治33年	秋の部	秋あつく薬草實ること遅し	残暑	時候
3880	明治33年	秋の部	秋あつく御悩重らせ給ひけり	残暑	時候
3881	明治33年	秋の部	名月や伽羅たきすてゝ人もなし	名月	天文
3882	明治33年	秋の部	雨寒し刈残したる青き稻	稻	植物
3883	明治33年	秋の部	秋雨や人を弔ふ文をかく	秋の雨	天文
3884	明治33年	秋の部	しらげたる新米五升草の庵	新米	人事
3885	明治33年	秋の部	雁金も尾花も風に吹かれけり	雑	雑
3886	明治33年	秋の部	枝豆の殻ばかり憂きものはなし	枝豆	植物
3887	明治33年	秋の部	御題を賜ふ社頭の紅葉かな	紅葉	植物
3888	明治33年	秋の部	誰やらによう似た顔や相撲取	角力	人事
3889	明治33年	秋の部	相撲場に露したゝりぬ神の杉	角力	人事
3890	明治33年	秋の部	小相撲のだまされている揚屋哉	角力	人事
3891	明治33年	秋の部	乗込んだ東八ヶ國の角力哉	角力	人事
3892	明治33年	秋の部	先年の角力の跡や草の花	草花	植物
3893	明治33年	秋の部	妹にめぐり遇ひたる相撲かな	角力	人事
3894	明治33年	秋の部	小相撲や師匠の墓にすゝり泣	角力	人事
3895	明治33年	秋の部	酒飲めぬ相撲はさびし小杯	角力	人事
3896	明治33年	秋の部	相撲取の子を養へり男伊達	角力	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3897	明治33年	秋の部	食あたりして小相撲の残りけり	角力	人事
3898	明治33年	秋の部	温めもせず磊塊に澆ぐ酒	温め酒	人事
3899	明治33年	秋の部	晨々の霜ふる秋に驚きぬ	秋	時候
3900	明治33年	秋の部	また青き神の銀杏や九月尽	九月尽	時候
3901	明治33年	秋の部	紅茸に云ひ寄る菌もありぬべし	茸	植物
3902	明治33年	秋の部	毒茸の毒とも見えぬ憎み哉	茸	植物
3903	明治33年	秋の部	松茸の老いて朽ちなん憤り	松茸	植物
3904	明治33年	秋の部	鎌倉は畑ばかりや星月夜	星月夜	天文
10516	明治33年	秋の部	葦一過の雨に吹かれけり	葦	植物
10517	明治33年	秋の部	湾々の芦の花風日の夕	芦の花	植物
10518	明治33年	秋の部	蘭を得て花をいやしむひしり哉	蘭	植物
10519	明治33年	秋の部	蛸や魯智院既に山を去る	蛸	動物
10520	明治33年	秋の部	いさゝかの橋銭を守る秋の雨	秋の雨	天文
10522	明治33年	秋の部	衰残の菊に友を得つ九月尽	九月尽	時候
10523	明治33年	秋の部	月正によるし軒端の通草棚	通草	植物
10524	明治33年	秋の部	六朝の碑を読む野菊かな	野菊	植物
10525	明治33年	秋の部	風流の旅路なるかな女郎花	女郎花	植物
10526	明治33年	秋の部	風雲の影ひやゝけき木末かな	木末	天文
10527	明治33年	秋の部	石趺の踏みにじりかり女郎花	女郎花	植物
10528	明治33年	秋の部	牛頭馬頭も踊り出したる一夜哉	踊	人事
10529	明治33年	秋の部	下草の青きを見るや櫨紅葉	櫨紅葉	植物
10530	明治33年	秋の部	戀中の渋柿をおくるか思無邪	渋柿	植物
10532	明治33年	秋の部	旅籠屋や芋の名月芋団子	芋団子	人事
10533	明治33年	秋の部	魂棚鼠尾草の花哀れなり	鼠尾草	植物
10534	明治33年	秋の部	稲の花すこし風吹くならひかな	稲の花	植物
10542	明治33年	秋の部	掛稲に日は當りけり蓼の花	蓼の花	植物
10543	明治33年	秋の部	鶏の子や露の草花或るは潜り	露	天文
10544	明治33年	秋の部	豆引いて鶏頭淋し瘦せながら	鶏頭	植物
10546	明治33年	秋の部	鄙に来て踊の唄や昔ぶり	踊	人事
10550	明治33年	秋の部	鬼灯の壳を捨てたり池の上	鬼灯	植物
10551	明治33年	秋の部	驚きし夜寒の里や山あらし	夜寒	時候
10552	明治33年	秋の部	蕎麥咲や晴れたる川の照反し	蕎麥	植物
10562	明治33年	秋の部	甘酒を飲んで旦の暇乞	甘酒	人事
10565	明治33年	秋の部	朝顔や朝戸あけたる典座敷	朝顔	植物
10566	明治33年	秋の部	小淋しく雨降る宵や高燈籠	燈籠	人事
10567	明治33年	秋の部	虫鳴くや落窪の君人を待つ	虫鳴く	動物
10568	明治33年	秋の部	名月や馬上ゆゝしき金覆輪	名月	天文
10570	明治33年	秋の部	新渋の瓶に日あたる戸口なか	新渋	人事
10571	明治33年	秋の部	南山の秋に対して澹如たり	秋	時候
10572	明治33年	秋の部	逞しき渋柿の木や古き家	渋柿	植物
10573	明治33年	秋の部	芍薬の根を分けて或は薬とす	芍薬の根	植物
10574	明治33年	秋の部	菊咲いて酒の琥珀の光あり	菊	植物
10575	明治33年	秋の部	稻刈りに積蓼に夕日當りけり	稻刈	人事
10535	明治33年	秋の部	ひやゝかに覚えてさめし宵寝哉	冷か	時候
10536	明治33年	秋の部	鹿笛に依々たる鹿の想ひかな	鹿笛	動物
10537	明治33年	秋の部	鳴子引く郡の太守を見送りぬ	鳴子引く	人事
10538	明治33年	秋の部	冷やしたる梨の皮むく刃哉	梨	植物
10541	明治33年	秋の部	妻なくて砧の盤の夜露かな	砧	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10545	明治33年	秋の部	老いて猶砧うつなる母悲し	砧	人事
10549	明治33年	秋の部	小鳥狩愚に生れたる家老の子	小鳥狩	人事
10576	明治33年	秋の部	臨終の物たまはぬ夜寒かな	夜寒	時候
10539	明治33年	秋の部	靱磨や奥に泊めたる俳諧師	靱磨	人事
10540	明治33年	秋の部	靱磨の歌も歌はぬか夫婦哉	靱磨	人事
4085	明治34年	秋の部	草花も悲しとや見む親にして	草花	植物
4086	明治34年	秋の部	虫の音にあこがるゝ身も恋にこそ	蟲	動物
4087	明治34年	秋の部	思ひつゝ寐よとや虫の鳴くならん	蟲	動物
4088	明治34年	秋の部	草に鳴く虫や月夜のたまり水	蟲	動物
4089	明治34年	秋の部	鳴く虫の其父をよび母をよび	蟲	動物
4090	明治34年	秋の部	踊夜の西する月ややるせなき	踊	人事
4091	明治34年	秋の部	故郷に一ト夜は踊るなつかしみ	踊	人事
4092	明治34年	秋の部	樂みは昔ながらの踊かな	踊	人事
4093	明治34年	秋の部	踊見に出たいと思ふ夕餉哉	踊	人事
4094	明治34年	秋の部	蛇の身の斑に光り秋暑し	残暑	時候
4095	明治34年	秋の部	関白の様な兒して瓢かな	瓢	植物
4096	明治34年	秋の部	かき買と去来と見上く梢かな	柿	植物
4097	明治34年	秋の部	渋かるとなぶられ去ぬ柿をなご	柿	植物
4098	明治34年	秋の部	柿食へばどこか渋いかなどゝ禪	柿	植物
4099	明治34年	秋の部	しぶかきや載ち奔る陶淵明	柿	植物
4100	明治34年	秋の部	新藁に且ちる柿の紅葉哉	柿紅葉	植物
4101	明治34年	秋の部	落人に歌を讀みけり木賊刈	木賊刈	人事
4102	明治34年	秋の部	濁酒に赤菊の宿も小うれしき	菊	植物
4103	明治34年	秋の部	落鮎の網に入りけり暮の雨	鯖鮎	動物
4104	明治34年	秋の部	庭鳥に紫菀の露や吹きつける	紫菀	植物
4105	明治34年	秋の部	峯入は皆柿道心とや申す	柿	植物
4106	明治34年	秋の部	落雷の杉の一ト木や草紅葉	草錦	植物
4107	明治34年	秋の部	日に當る岩の裸や蔦紅葉	蔦紅葉	植物
4108	明治34年	秋の部	何虫の身にしみどゝと鳴音かな	蟲	動物
4109	明治34年	秋の部	鰯引あすは雨ちやと申しけり	鰯引	人事
4110	明治34年	秋の部	登臨の客鯉魚風に嘆ずらく	秋の風	天文
4111	明治34年	秋の部	一尺の布を縫ひある夜寒かな	夜寒	時候
4112	明治34年	秋の部	二氣未だ合はず恁麼の瓢かな	瓢	植物
4113	明治34年	秋の部	三逕や秋の氣を吐く松の老	秋	時候
4114	明治34年	秋の部	四方皆嶽恐ろしき月夜かな	月	天文
4115	明治34年	秋の部	五音和す月夜の鐘や水の上	月	天文
4116	明治34年	秋の部	清瀨の上を且ちる日の夕	且散る	植物
4117	明治34年	秋の部	虫鳴いて物のあはれと覚えけり	蟲	動物
4118	明治34年	秋の部	虫の音の露に消入る思ひかな	蟲	動物
4119	明治34年	秋の部	鳴虫の玉をころがす美音哉	蟲	動物
4120	明治34年	秋の部	虫鳴くや憂さに堪へざる小夜衣	蟲	動物
4121	明治34年	秋の部	魑魅去て木に住む虫の鳴くさびし	蟲	動物
4122	明治34年	秋の部	宿貧し虫の来て鳴く古壘	蟲	動物
4123	明治34年	秋の部	客泊めて浮世話や踊の夜	踊	人事
4124	明治34年	秋の部	月に打つ踊太鼓や人少な	踊	人事
4125	明治34年	秋の部	寺の樹をとよもす踊太鼓かな	踊	人事
4126	明治34年	秋の部	漢宮の踊秦時の名月に	踊	人事
4127	明治34年	秋の部	雨雲を恐れ心の踊かな	踊	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4128	明治34年	秋の部	三人の娘踊のたくみ哉	踊	人事
4129	明治34年	秋の部	疫ありて小村につどふ踊かな	踊	人事
4130	明治34年	秋の部	ありたけの水を吐いたる糸瓜哉	糸瓜	植物
4131	明治34年	秋の部	養老の賜もあり稲の花	稲の花	植物
4132	明治34年	秋の部	松の実を踏んで境内ありきけり	新松子	植物
4133	明治34年	秋の部	唐きびの影も月夜の眺かな	唐黍	植物
4134	明治34年	秋の部	つと入を待まうけたる主哉	衝突入	人事
4135	明治34年	秋の部	犬殺梨の木老いて実らざり	梨	植物
4136	明治34年	秋の部	ながらへて何の糸瓜のぶら下り	糸瓜	植物
4137	明治34年	秋の部	蠹ふるやうはばみ穴に入る夕	蛇穴に入る	動物
4138	明治34年	秋の部	蛇穴に入りてしまひしけはひ哉	蛇穴に入る	動物
4139	明治34年	秋の部	戀蛇の穴に入るべき別かな	蛇穴に入る	動物
4140	明治34年	秋の部	蛇穴に入るや彼岸の日は西へ	蛇穴に入る	動物
4141	明治34年	秋の部	蛇穴に入る頃草のにしきかな	蛇穴に入る	動物
4142	明治34年	秋の部	蛇穴に入らんと思ふ覚悟かな	蛇穴に入る	動物
4143	明治34年	秋の部	人の世はこんなものとて蛇穴へ	蛇穴に入る	動物
4144	明治34年	秋の部	草を打ち蛇をして穴に入らしめぬ	蛇穴に入る	動物
4145	明治34年	秋の部	蛇穴に入れば松風蘿月哉	蛇穴に入る	動物
4146	明治34年	秋の部	蛇穴に入りてみゝづの唄ひかな	蛇穴に入る	動物
4147	明治34年	秋の部	宮様の茲に御成や草錦	草錦	植物
4148	明治34年	秋の部	畏しや武徳は秋の氣の如し	秋	時候
4149	明治34年	秋の部	風を切てそれ矢の行くへ秋の空	秋の空	天文
4150	明治34年	秋の部	秋風を斬て太刀鳴る壯ん也	秋の風	天文
4151	明治34年	秋の部	蓮の実の飛ぶよと見れば柔ら哉	蓮實飛ぶ	植物
4152	明治34年	秋の部	秋駒の勝ほこりたる足搔哉	馬肥ゆる	動物
4153	明治34年	秋の部	自転車を下りて紫苑に歩みよる	紫苑	植物
4154	明治34年	秋の部	唐にしき大和にしきや花草	草花	植物
4155	明治34年	秋の部	音楽の空に聞ゆる月夜哉	月	天文
4156	明治34年	秋の部	麦酒のんでそぞろ寒兒してゐたり	そぞろ寒	時候
4157	明治34年	秋の部	蓮の実の飛とも知らで達磨哉	蓮實飛ぶ	植物
4158	明治34年	秋の部	蓮の実の飛とは見えてうつゝ哉	蓮實飛ぶ	植物
4159	明治34年	秋の部	菊は皆蒼なりけり後の雛	後の雛	人事
4160	明治34年	秋の部	朝戸出のみかん畑や秋の霜	秋の霜	天文
4161	明治34年	秋の部	水をふいて大きな梨や二ツわり	梨	植物
4162	明治34年	秋の部	徒らに物の悲しき花野哉	花野	地理
4163	明治34年	秋の部	沙魚釣の沙魚やく店や新走	新酒	人事
4164	明治34年	秋の部	秋風の藪も鳥もぬかご哉	秋の風	天文
4165	明治34年	秋の部	よき虫の選にもれし美音哉	蟲	動物
4166	明治34年	秋の部	新蕎麦に芭蕉の噂したりけり	新蕎麥	人事
4167	明治34年	秋の部	豆引に誘はる朝の日和かな	豆引	人事
10554	明治34年	秋の部	紅葉狩白衣の人に逢へりけり	紅葉狩	人事
10555	明治34年	秋の部	君見ずや松露は松の露と書く	露	天文
4567	明治35年	秋の部	秋の水仙家の鍋を閑却す	秋の水	地理
4568	明治35年	秋の部	釣人の夕腹へりぬ荻の風	荻	植物
4569	明治35年	秋の部	朝顔に日あたる頃や暇乞	朝顔	植物
4570	明治35年	秋の部	初嵐夜天文を覗ひぬ	初嵐	天文
4571	明治35年	秋の部	月明の清きに耐へす桐一葉	桐一葉	植物
4573	明治35年	秋の部	なく虫の今宵もなきぬ然れども	蟲	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4575	明治35年	秋の部	別れんとすれば一劔秋に鳴る	秋	時候
4576	明治35年	秋の部	僧よりも瘦せたる蘭の緑かな	蘭	植物
4577	明治35年	秋の部	蘭を獲て氣傲る人や去にけり	蘭	植物
4578	明治35年	秋の部	幽谷に蘭あり美ナル哉之ノ子	蘭	植物
4579	明治35年	秋の部	風蘭の姿や轉夕君を思ふ	蘭	植物
4580	明治35年	秋の部	蘭に鳴く虫に紙燭や兒の顔	蘭	植物
4581	明治35年	秋の部	西瓜きれば故人偶々過ぎりけり	西瓜	植物
4582	明治35年	秋の部	戀歌の秋の部よみぬ小夜枕	秋	時候
4583	明治35年	秋の部	西瓜喰ふ宵の剪燈新話哉	西瓜	植物
4584	明治35年	秋の部	庭上の爽氣や粥をすゝりけり	爽か	時候
4585	明治35年	秋の部	秋寒し雨にうたるゝ紅芙蓉	芙蓉	植物
4586	明治35年	秋の部	目さむれば蚊帳の萌黄も九月哉	九月	時候
4587	明治35年	秋の部	枝豆や月明らかに人の兒	枝豆	植物
4588	明治35年	秋の部	蝶の翼秋海棠に力なし	秋海棠	植物
4589	明治35年	秋の部	捨扇さながら人の戀しけれ	秋扇	人事
4590	明治35年	秋の部	寂として蘭に水わく山の中	蘭	植物
4591	明治35年	秋の部	旭巳にとんぼ飛ぶなり花芙蓉	芙蓉	植物
4592	明治35年	秋の部	白きものに愛着もなき木槿哉	木槿	植物
4593	明治35年	秋の部	長吉が出世取巻く角力かな	角力	人事
4594	明治35年	秋の部	目指されて踊出でたり男振	踊	人事
4595	明治35年	秋の部	踊から呼戻されし一人哉	踊	人事
4596	明治35年	秋の部	薬園の花こぼれけり秋の水	秋の水	地理
4597	明治35年	秋の部	唐黍に月落かゝる野分哉	野分	天文
4598	明治35年	秋の部	唐黍にかくるゝ戀や尻の冷え	唐黍	植物
4599	明治35年	秋の部	釣竿も見えず萩吹く風ばかり	萩	植物
4600	明治35年	秋の部	岩上の松影をふむ氣爽か	爽か	時候
4601	明治35年	秋の部	朝兒の主はわかし文章生	朝顔	植物
4602	明治35年	秋の部	早稲の香や病もいえてかしま立	稲	植物
4603	明治35年	秋の部	早稲咲いて水こゝろよき旦哉	稲	植物
4604	明治35年	秋の部	臨濟の口の廣さよ蓮の実が	蓮實飛ぶ	植物
4605	明治35年	秋の部	白萩を佛の花と手折りけり	萩	植物
4606	明治35年	秋の部	無東西只秋風の声をきく	秋の風	天文
10583	明治35年	秋の部	秋涼し人の眼に立つ大構ひ	秋涼し	天文
10591	明治35年	秋の部	草花をよしとよく見て描かれし	草花	植物
5034	明治36年	秋の部	秋立や參合はして朝茶の湯	立秋	時候
5035	明治36年	秋の部	衰や粥の香匂ふけさの秋	今朝の秋	時候
5036	明治36年	秋の部	墓參途に故人と邂逅す	墓參	人事
5037	明治36年	秋の部	墓參竹馬の友の墓荒れたり	墓參	人事
5038	明治36年	秋の部	一錢のみそはき買へり墓參	墓參	人事
5039	明治36年	秋の部	墓參狂女に道をゆつりけり	墓參	人事
5040	明治36年	秋の部	芙蓉黄也家相見てゐる知らぬ老	芙蓉	植物
5041	明治36年	秋の部	宮愁や露にたへたる白芙蓉	芙蓉	植物
5042	明治36年	秋の部	秋の螢石山寺の石の上	秋の螢	動物
5043	明治36年	秋の部	なかなか月にあかき夜や扇置く	秋扇	人事
5044	明治36年	秋の部	朝兒や粥煮こぼるゝ獨すみ	朝顔	植物
5045	明治36年	秋の部	朝兒や垣をへだてゝ川千鳥	朝顔	植物
5046	明治36年	秋の部	秋の螢女は夜を淋しがる	秋の螢	動物
5047	明治36年	秋の部	攝待や関羽威名華夏に震ふ	攝待	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5048	明治36年	秋の部	分限者の榎も古き門茶哉	攝待	人事
5049	明治36年	秋の部	撰待もはや夕風となりけり	攝待	人事
5050	明治36年	秋の部	木槿白し一朝雨忽ち晴る	木槿	植物
5051	明治36年	秋の部	とんぼの目蓼の花などうつりけり	蜻蛉	動物
5052	明治36年	秋の部	稲妻は知らず踊のかぶり哉	踊	人事
5053	明治36年	秋の部	七夕や子供は餅をうれしがり	七夕	人事
5054	明治36年	秋の部	蓼の花稲にあいたる雀かな	蓼の花	植物
5055	明治36年	秋の部	人魂や消えて芒の五六尺	芒	植物
5056	明治36年	秋の部	少年の旅の首途や初嵐	初嵐	天文
5057	明治36年	秋の部	新涼に謠ひいでたる美音哉	新涼	時候
5058	明治36年	秋の部	星月夜そばの花咲く関ヶ原	蕎麥花	植物
5059	明治36年	秋の部	虫合はしめに合す雑の虫	虫合	人事
5060	明治36年	秋の部	花芒井手の山吹末かれぬ	芒	植物
5061	明治36年	秋の部	はぜつりの岸の芒を束ねけり	鯊釣	人事
5062	明治36年	秋の部	粳すりや芭蕉は月を見ておはず	粳摺	人事
5063	明治36年	秋の部	梨の皮黍の殻月は傾きぬ	雑	雑
5064	明治36年	秋の部	玉川の鮎さびたりな草紅葉	草錦	植物
5065	明治36年	秋の部	昼のきり四十八滝渡りけり	霧	天文
5066	明治36年	秋の部	秋の人晴れたる山に上りけり	秋	時候
5067	明治36年	秋の部	案山子の手かゝしの足の冷かさ	案山子	人事
5068	明治36年	秋の部	芋くうて即ち梁の國を去る	芋	植物
5069	明治36年	秋の部	京角力江戸の角力と對しけり	角力	人事
5070	明治36年	秋の部	末枯や北風つよく当る山	末枯	植物
5071	明治36年	秋の部	秋晴の夕空さむくなりゆきぬ	秋晴	天文
5072	明治36年	秋の部	花野つきて芒に人のかくれけり	花野	地理
5073	明治36年	秋の部	秋のもの小庵に鱸鮮か也	鱸	動物
5074	明治36年	秋の部	著述家の小閒を得て鳴子引	鳴子	人事
5075	明治36年	秋の部	白きもの衣桁の衣も夜寒哉	夜寒	時候
5076	明治36年	秋の部	毛見の衆の芋を貪りくらひけり	毛見	人事
5077	明治36年	秋の部	鳴く虫のみゝじも秋の恋歌かな	蟲	動物
5078	明治36年	秋の部	鶏頭に桐の廣葉の落尽す	鶏頭	植物
5079	明治36年	秋の部	鶏頭に弓引く遊びしたりけり	鶏頭	植物
5080	明治36年	秋の部	門口に野分の後の木の葉かな	野分	天文
5081	明治36年	秋の部	月蝕の草木尽く秋也	秋	時候
5082	明治36年	秋の部	月今宵芙蓉の如き女かな	月	天文
5083	明治36年	秋の部	月むかし鳥鵲南に飛ぶを見る	月	天文
5084	明治36年	秋の部	名月や風吹送る子夜の歌	名月	天文
5085	明治36年	秋の部	名月の吾志海の如し	名月	天文
5086	明治36年	秋の部	名月や古人山高きを厭はず	名月	天文
5087	明治36年	秋の部	月今宵ひさごの米もあふれけり	月	天文
5088	明治36年	秋の部	商人は商人兒の月見哉	月見	人事
5089	明治36年	秋の部	鉄笛や月下征人三十萬	月	天文
5090	明治36年	秋の部	月蝕の午前一時やそぞろ寒	そぞろ寒	時候
5091	明治36年	秋の部	秋風や三千年の坐禪石	秋の風	天文
5092	明治36年	秋の部	山買ひて山見めくれバ渡鳥	渡鳥	動物
5093	明治36年	秋の部	新道を馬車の往來やそばの花	蕎麥花	植物
5094	明治36年	秋の部	毛見衆に後るゝ人や囁きぬ	毛見	人事
5095	明治36年	秋の部	寺のちご間に棗を拾ひけり	棗	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5096	明治36年	秋の部	市に買ふ夜寒の魚や生きてあり	夜寒	時候
5097	明治36年	秋の部	新走世は草花の好時節	新酒	人事
5098	明治36年	秋の部	さびしさに紅葉を焚いて遊びけり	紅葉	植物
5099	明治36年	秋の部	名月や机の上の梨の影	名月	天文
5100	明治36年	秋の部	紅葉散て巖角いよゝ現はれぬ	散紅葉	植物
5101	明治36年	秋の部	水とれば佛もへちまもなかりけり	糸瓜	植物
5102	明治36年	秋の部	大方の菊きり尽す十三夜	後の月	天文
5103	明治36年	秋の部	行秋の我が病膏肓に入る	行秋	時候
5104	明治36年	秋の部	歡をなすよく幾日ぞ扇置く	秋扇	人事
5105	明治36年	秋の部	扇置いて且作りけり子夜の歌	秋扇	人事
5106	明治36年	秋の部	婆娑と落つ物の葉や蛇穴に入る	蛇穴に入る	動物
5107	明治36年	秋の部	蛇は穴に風落々と鳴りにけり	蛇穴に入る	動物
5108	明治36年	秋の部	穴に入る蛇のまぼろしまんじゅさけ	蛇穴に入る	動物
5109	明治36年	秋の部	蛇穴に入るが如しとトしけり	蛇穴に入る	動物
5110	明治36年	秋の部	其糞奇也蛇穴に入らんとす	蛇穴に入る	動物
5111	明治36年	秋の部	風前の玉樹日の秋人立てり	秋の日	天文
5112	明治36年	秋の部	紅葉深くよき水絶えず流れけり	紅葉	植物
5113	明治36年	秋の部	昔火を噴きし山也むら紅葉	紅葉	植物
5114	明治36年	秋の部	絶頂にめづらしき紅葉一木かな	紅葉	植物
5115	明治36年	秋の部	日の光白き野分の雲間哉	野分	天文
5116	明治36年	秋の部	秋風の刀段々と折れにけり	秋の風	天文
5117	明治36年	秋の部	蓬萊や木実遊ぶ童男女	木の實	植物
5118	明治36年	秋の部	虫いろ / \戀なればこそみゝづ鳴け	蟲	動物
5119	明治36年	秋の部	恋無常秋の夕となりけり	秋の暮	時候
5121	明治36年	秋の部	秋の山此国豆の如くなり	秋の山	地理
5123	明治36年	秋の部	草の実も木の実も俳諧秋の季ぞ	雑	雑
5125	明治36年	秋の部	猶存す芭蕉葉上古時の花	芭蕉	植物
5126	明治36年	秋の部	芭蕉花あり又碧巖を把て讀む	芭蕉の花	植物
5127	明治36年	秋の部	松間に寺あり芭蕉花ひらく	芭蕉の花	植物
5128	明治36年	秋の部	花をつけし芭蕉や小鳥親まず	芭蕉の花	植物
5129	明治36年	秋の部	時ならぬ霞芭蕉の花黄なり	芭蕉の花	植物
5130	明治36年	秋の部	月明らかに芭蕉の花を照らしけり	芭蕉の花	植物
5131	明治36年	秋の部	芭蕉の花出羽の小春を咲きにけり	芭蕉の花	植物
5132	明治36年	秋の部	さゝげ來る芭蕉の花や人僧也	芭蕉の花	植物
5133	明治36年	秋の部	裂盡す芭蕉に花の大なり	芭蕉の花	植物
5134	明治36年	秋の部	剪落す芭蕉の花や秋の風	芭蕉の花	植物
5433	明治37年	秋の部	踏み迷ふ山女郎花稀にさく	女郎花	植物
5434	明治37年	秋の部	荻蒨りて漁家の趣秋老いぬ	荻	植物
5435	明治37年	秋の部	釀し得て恰もよし濁酒	濁酒	人事
5436	明治37年	秋の部	蛇穴に入ると喩へて帰省哉	蛇穴に入る	動物
5437	明治37年	秋の部	蝦夷菊の花や糲する家貧し	蝦夷菊	植物
5438	明治37年	秋の部	山僧や木槿白きに嗽ぎ	木槿	植物
5439	明治37年	秋の部	山寺や月見てあれば栗鼠のなく	月	天文
5440	明治37年	秋の部	新蕎麥や俳諧も亦華かに	新蕎麥	人事
5441	明治37年	秋の部	秋寒に驚く儒者の葛衣哉	秋寒	時候
5442	明治37年	秋の部	寒山の胡座さびしや蔦紅葉	蔦紅葉	植物
5444	明治37年	秋の部	秋の日の帰心いらだつ船路かな	秋の日	天文
5445	明治37年	秋の部	山門秋日粉蝶を藏しけり	秋の日	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5446	明治37年	秋の部	日の秋の燕子に傷む心か南	秋の日	天文
5447	明治37年	秋の部	秋の日の没して魚竜黙しけり	秋の日	天文
5448	明治37年	秋の部	秋の日の既にして射る承露盤	秋の日	天文
5449	明治37年	秋の部	秋の日の芙蓉に薄き辺土かな	秋の日	天文
5450	明治37年	秋の部	秋の日の江湖に落ちて一漁翁	秋の日	天文
5451	明治37年	秋の部	日の秋や鸚鵡驚く木實の香	秋の日	天文
5452	明治37年	秋の部	紅葉さむし剣を仗き荊軻行く	紅葉	植物
5453	明治37年	秋の部	鎌倉の山めぐりすや花芒	芒	植物
5454	明治37年	秋の部	初鮭の吉例神に捧ぐなり	鮭	動物
5455	明治37年	秋の部	秋晴の水の鏡やかちわたり	秋晴	天文
5456	明治37年	秋の部	さび鮎や疝氣を語る樵者漁者	鯖鮎	動物
5457	明治37年	秋の部	落し水早く日陰の山田哉	落し水	地理
5458	明治37年	秋の部	よべの虫蚊帳をたゞめば飛にけり	蟲	動物
5459	明治37年	秋の部	虫なくや夜は兵書に目をさらす	蟲	動物
5460	明治37年	秋の部	長が宿虫さく荒レと成にけり	蟲	動物
5461	明治37年	秋の部	唐黍の葉末に虫の高音哉	蟲	動物
5462	明治37年	秋の部	掛物に虫が来てなく獨坐哉	蟲	動物
5463	明治37年	秋の部	秋涼し葛の葉裏を見る程に	新涼	時候
5464	明治37年	秋の部	新涼に猶愛す蛸の翠哉	新涼	時候
5465	明治37年	秋の部	新涼に生れて鳴きぬ朝の蟬	新涼	時候
5466	明治37年	秋の部	秋涼し坐に盆石の潤ヒ	新涼	時候
5467	明治37年	秋の部	秋涼し宮女牽牛花を詠ず	新涼	時候
5468	明治37年	秋の部	虫枯の山田の毛見も終りけり	毛見	人事
5469	明治37年	秋の部	毛見済で社日の酒の旨き哉	毛見	人事
5470	明治37年	秋の部	毛見の衆に三戸の村の恐れけり	毛見	人事
5471	明治37年	秋の部	毛見の衆のにく / \ しさよ長羽織	毛見	人事
5472	明治37年	秋の部	大庭をとよもす風や駒迎	駒迎	人事
5473	明治37年	秋の部	小鳥狩川の中洲へ渡りけり	小鳥狩	人事
5474	明治37年	秋の部	立たぬ鳴西上人が歌の屑	鳴	動物
5475	明治37年	秋の部	葉葡萄の月にましらを逸しけり	月	天文
5476	明治37年	秋の部	戸を叩く狸来ずなり夜寒哉	夜寒	時候
5477	明治37年	秋の部	枕上の白湯冷かに夜明けたり	冷か	時候
5478	明治37年	秋の部	秋の霜木末の蜜柑色づきぬ	秋の霜	天文
5479	明治37年	秋の部	酒尽きて鯢漬猶少しあり	鯢漬	人事
5480	明治37年	秋の部	鳴く蚯蚓東に在れば東華坊	蚯蚓鳴く	動物
5481	明治37年	秋の部	猿酒や葛藟之を掩ひけり	猿酒	人事
5482	明治37年	秋の部	足三たび宰相の門に入れば秋	秋	時候
5483	明治37年	秋の部	芦の花舟ありと見えて人語哉	蘆の花	植物
5484	明治37年	秋の部	芦の花水清うして魚住まず	蘆の花	植物
5485	明治37年	秋の部	末枯れて真菰は寒し芦の花	蘆の花	植物
5486	明治37年	秋の部	芦の花石碓村の月見か南	蘆の花	植物
5487	明治37年	秋の部	去來忌や心ゆく程秋の風	去來忌	人事
5488	明治37年	秋の部	去來忌の夜更けて門を叩く音	去來忌	人事
5489	明治37年	秋の部	去來忌の庵の客只一人か南	去來忌	人事
5490	明治37年	秋の部	名月やあたりは暗き杉林	名月	天文
5491	明治37年	秋の部	月前の雲に老杜の愁かな	月	天文
5492	明治37年	秋の部	山家集相聞の部は月にして	月	天文
5493	明治37年	秋の部	黍老いて此頃の月美なるかな	月	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5494	明治37年	秋の部	僧泊めて坐を与へけり月の縁	月	天文
5495	明治37年	秋の部	落尽す梧桐の下や月を見る	月	天文
5496	明治37年	秋の部	芦の花漁人の妻を見たりけり	蘆の花	植物
5497	明治37年	秋の部	去來忌やこゝにも一人粥の客	去來忌	人事
5498	明治37年	秋の部	毛見の衆に機を下らぬ寡哉	毛見	人事
5499	明治37年	秋の部	芋十句一顆をくへば一句か南	芋	植物
5500	明治37年	秋の部	去來忌や月はあれども古簾	去來忌	人事
5501	明治37年	秋の部	破蓮下第の人の寺ごもり	破蓮	植物
5502	明治37年	秋の部	攝待や人に紛れぬ打虎武松	攝待	人事
5503	明治37年	秋の部	月前の雲や谷風吹上ぐる	月	天文
5504	明治37年	秋の部	墓の月松柏既に摧けたり	月	天文
5505	明治37年	秋の部	片側は女人ばかりや月の宴	月	天文
5506	明治37年	秋の部	帳あげて月に面をかゞやかす	月	天文
5507	明治37年	秋の部	去來忌や昨日の雛の小盃	去來忌	人事
5508	明治37年	秋の部	去來忌や猶見る菊の雛達	去來忌	人事
5509	明治37年	秋の部	雁を射る人かくれけり芦の花	蘆の花	植物
5510	明治37年	秋の部	芦の花八月潮平かに	蘆の花	植物
5511	明治37年	秋の部	芦の花天明に見る蘇子が舟	蘆の花	植物
5512	明治37年	秋の部	芦の花蘇子に随ふ二客あり	蘆の花	植物
5513	明治37年	秋の部	去來忌や蝕み古き弓の弦	去來忌	人事
5514	明治37年	秋の部	去來忌や柿晋問答くりかへす	去來忌	人事
5515	明治37年	秋の部	一湾の芦花や玩家的の三兄弟	蘆の花	植物
5516	明治37年	秋の部	故人遠し傾くまでの月を見る	月	天文
5517	明治37年	秋の部	芦の花返照及ぶ水の隈	蘆の花	植物
5518	明治37年	秋の部	膾造る菊も十日の佛かな	菊膾	人事
5519	明治37年	秋の部	月に栗葉葡萄の露をゆりこぼす	月	天文
5520	明治37年	秋の部	鶏頭の根こぎと干しぬ烏瓜	烏瓜	植物
5521	明治37年	秋の部	烏瓜茶の木の老いて花多き	烏瓜	植物
5730	明治38年	秋の部	倚添うて角力美しくし宮柱	角力	人事
5731	明治38年	秋の部	角力取大内山を罷出けり	角力	人事
5732	明治38年	秋の部	小奇麗な女房とつれて角力哉	角力	人事
5733	明治38年	秋の部	河渉る馬の頭や野分吹く	野分	天文
5734	明治38年	秋の部	野分吹いて狭斜の巷乱れけり	野分	天文
5735	明治38年	秋の部	芭蕉裂けて腸を断つ野分哉	野分	天文
5736	明治38年	秋の部	芋畑に客引入れて語りけり	芋	植物
5737	明治38年	秋の部	糸瓜あるを知らず主人迂濶なり	糸瓜	植物
5738	明治38年	秋の部	歌の文字猶目に存す捨扇	秋扇	人事
5739	明治38年	秋の部	俳諧は一字を惜む捨扇	秋扇	人事
5740	明治38年	秋の部	御幸過ぎて久しくなりぬ置扇	秋扇	人事
5741	明治38年	秋の部	扇置くや秋海棠に親みて	秋扇	人事
5742	明治38年	秋の部	堂に上る虫や扇を納めけり	秋扇	人事
5743	明治38年	秋の部	振向くや皆初秋の男ぶり	初秋	時候
5744	明治38年	秋の部	舷に面起すや初あらし	初嵐	天文
5745	明治38年	秋の部	新涼の岸離れゆく船路哉	新涼	時候
5746	明治38年	秋の部	初嵐帆網は水に浸りけり	初嵐	天文
5747	明治38年	秋の部	稀に見る玫瑰の実や秋の風	秋の風	天文
5748	明治38年	秋の部	我笠の菅の白さよ秋の水	秋の水	地理
5749	明治38年	秋の部	貝殻や秋の日をふむ海燕	秋の日	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5750	明治38年	秋の部	海を見て一人立ちけり秋の峯	秋の山	地理
5751	明治38年	秋の部	わりなしや錨にとまる秋の蝶	秋の蝶	動物
5752	明治38年	秋の部	荒磯やつれなく棄てし野撫子	撫子	植物
5753	明治38年	秋の部	二三尺波を離れて秋の蝶	秋の蝶	動物
5754	明治38年	秋の部	秋の海人ひとり乗る丸木舟	秋の海	地理
5755	明治38年	秋の部	馬に乗る人鄙しさよ女郎花	女郎花	植物
5756	明治38年	秋の部	新涼の庭や桃の実喰棄てし	桃の實	植物
5757	明治38年	秋の部	吟情や鶉啼くべきこのあたり	鶉	動物
5758	明治38年	秋の部	これなん曼珠沙華のたぐひなりけり	曼珠沙華	植物
5759	明治38年	秋の部	君が喰ふ林檎甚だ渋からずや	林檎	植物
5760	明治38年	秋の部	涼しき花となん草の名を知らず	草花	植物
5761	明治38年	秋の部	わらんじを湯本の萩にすてにけり	萩	植物
5762	明治38年	秋の部	四五人に秋の旭や山かつら	秋の日	天文
5763	明治38年	秋の部	此萩に縋がれ / \ と教へけり	萩	植物
5764	明治38年	秋の部	秋風や海士が小庭の瘦すゝき	芒	植物
5765	明治38年	秋の部	紺深き朝顔を見る苦屋哉	朝顔	植物
5767	明治38年	秋の部	巖の心冷かなるを覚えけり	冷か	時候
5768	明治38年	秋の部	岩の窪古鼎に湛ふ秋の水	秋の水	地理
5769	明治38年	秋の部	手を揮うて蚩尤が霧を排しけり	霧	天文
5770	明治38年	秋の部	秋風や氤氳として魚鱸の氣	秋の風	天文
5771	明治38年	秋の部	群類の皆黙しけり秋の声	秋の声	天文
5772	明治38年	秋の部	龍の血の凝りて巖の秋の風	秋の風	天文
5773	明治38年	秋の部	地維缺けて鳴り込む秋の潮かな	秋の潮	地理
5774	明治38年	秋の部	白帝の岩に弓射る爽氣哉	秋	時候
5775	明治38年	秋の部	鷹の別一たび巖をつかみけり	鷹渡る	動物
5776	明治38年	秋の部	初汐に岩の棧猶高し	初汐	地理
5777	明治38年	秋の部	身に入むや舷を撃つ岩の露	露	天文
5778	明治38年	秋の部	蛇穴に日月の明を奪ふかな	蛇穴に入る	動物
5779	明治38年	秋の部	秋寒し女娼を巖の上に見る	秋寒	時候
5780	明治38年	秋の部	天晴て鶉に躍る鱸かな	鱸	動物
5781	明治38年	秋の部	初汐に鶉の糞を洗ひけり	初汐	地理
5782	明治38年	秋の部	岩に立つ鶉の首白し秋の風	秋の風	天文
5783	明治38年	秋の部	蛟龍の下腹見えつ秋の雲	秋の雲	天文
5784	明治38年	秋の部	岩橋や天傾いて秋の汐	秋の潮	地理
5785	明治38年	秋の部	岩に印す巨人の跡や露寒し	露寒	天文
5786	明治38年	秋の部	共工の頭を砕く秋の声	秋の声	天文
5787	明治38年	秋の部	岩に落つ鶉の影や秋の風	秋の風	天文
5788	明治38年	秋の部	秋風や日暮れて上る竜像巖	秋の風	天文
5789	明治38年	秋の部	新涼に堪へず魚飛ぶ頻なり	新涼	時候
5790	明治38年	秋の部	新涼の岩ひたぬるゝ潮かな	新涼	時候
5791	明治38年	秋の部	巖ぬれ巖乾きぬ秋の風	秋の風	天文
5792	明治38年	秋の部	秋涼し岩に寄來る藻汐草	新涼	時候
5793	明治38年	秋の部	岩に波秋を引裂く狂ひかな	秋	時候
5794	明治38年	秋の部	汐を裂く底津岩根や秋の声	秋の声	天文
5795	明治38年	秋の部	岩の骨に秋を刻める姿かな	秋	時候
5796	明治38年	秋の部	秋風の巖を透す響かな	秋の風	天文
5797	明治38年	秋の部	秋官に白竜を紀す古き世ぞ	雑	雑
5798	明治38年	秋の部	偉なる哉巖大なる哉秋の空	秋の空	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5799	明治38年	秋の部	秋高く口を開いて笑ひけり	秋高し	天文
5800	明治38年	秋の部	天の川寒風山にかゝりけり	天の川	天文
5801	明治38年	秋の部	來し方の夜は只黒し天の川	天の川	天文
5802	明治38年	秋の部	我宿はいづれの處天の川	天の川	天文
5803	明治38年	秋の部	林檎むいて蚊帳なる人と語りけり	林檎	植物
5804	明治38年	秋の部	林檎むく巧みや旅は語草	林檎	植物
5805	明治38年	秋の部	新涼の燈下や旅の覚えがき	新涼	時候
5807	明治38年	秋の部	着せ綿を襲ねて菊の齡かな	菊	植物
5808	明治38年	秋の部	新涼に吹放たれし胡蝶かな	新涼	時候
5809	明治38年	秋の部	松芒慙慙に茸を採り尽す	茸狩	人事
5810	明治38年	秋の部	晝顔のかたまり咲くや道普請	盆路	人事
5811	明治38年	秋の部	修験者のまなざし曼珠沙華赤し	曼珠沙華	植物
5812	明治38年	秋の部	古靱を磨りぬ宵はた踊るらん	踊	人事
5813	明治38年	秋の部	蘇武が言猶耳にあり秋の風	秋の風	天文
5815	明治38年	秋の部	秋風や蛇を封じて一千年	秋の風	天文
5817	明治38年	秋の部	官人の子等が見あるく燈籠哉	燈籠	人事
5818	明治38年	秋の部	迎火の自らまた燃えにけり	迎火	人事
5819	明治38年	秋の部	よき花に心づよしや墓參	墓參	人事
5820	明治38年	秋の部	葉鶏頭ゆりふせらるゝ嵐哉	雁來紅	植物
5821	明治38年	秋の部	この蘭に入唐の頃をしぬびけり	蘭	植物
5822	明治38年	秋の部	狼の祭や曉の稻妻す	稻妻	天文
5823	明治38年	秋の部	山姥の髪おどろなす草錦	草錦	植物
5824	明治38年	秋の部	河原ありく施餓鬼の僧や蕩の花	施餓鬼	人事
5825	明治38年	秋の部	人となり木槿白きを一枝哉	木槿	植物
5826	明治38年	秋の部	染らざる木槿の色や秋の風	木槿	植物
5827	明治38年	秋の部	去る法師むくげ白きを顧ず	木槿	植物
5828	明治38年	秋の部	山椒の実は只赤し花むくげ	木槿	植物
5829	明治38年	秋の部	白木槿花疎らなる茂かな	木槿	植物
5830	明治38年	秋の部	萬年の天子あらんや月に酔ふ	月	天文
5831	明治38年	秋の部	月前に折ふし梅の落葉哉	月	天文
5832	明治38年	秋の部	赤壁や月に漁人をそゝのかす	月	天文
5833	明治38年	秋の部	月明かに魏呉の分野を照しけり	月	天文
5834	明治38年	秋の部	幾人か回ると月の雲を見る	月	天文
5835	明治38年	秋の部	明月や人に喰はせぬ芋頭	名月	天文
5836	明治38年	秋の部	山人の猿を叱咤す谷の月	月	天文
5837	明治38年	秋の部	名月や呉王宮裡の人の眉	名月	天文
5838	明治38年	秋の部	月の雲斐然として章を成す	月	天文
5839	明治38年	秋の部	山の月ひとり越ゆらん君が面	月	天文
5840	明治38年	秋の部	喝々と秋風痰の佛かな	秋の風	天文
5841	明治38年	秋の部	秋の蚊の或は妬婦をさしにけり	秋の蚊	動物
5842	明治38年	秋の部	秋の季の己れ兒なり烏瓜	烏瓜	植物
5843	明治38年	秋の部	芭蕉裂けて百艸ひとしく悲む	破れ芭蕉	植物
5844	明治38年	秋の部	蓼の花酒は温むべくなりぬ	蓼の花	植物
5845	明治38年	秋の部	燕去って孤樓の簾古びけり	秋燕	動物
5846	明治38年	秋の部	易を見る九日の菊の光かな	菊	植物
5847	明治38年	秋の部	水見れば野菊に埋む簞かな	野菊	植物
5848	明治38年	秋の部	渋作り萆干す日短し	萆干	人事
5849	明治38年	秋の部	実を結ぶ草の裏戸や蝨焼く	蝨	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5850	明治38年	秋の部	河渡る人の声あり星月夜	星月夜	天文
5851	明治38年	秋の部	唐黍の風や秋社の戻り人	秋社	人事
5852	明治38年	秋の部	世をあげてふくべに似たる人もなし	瓢	植物
5853	明治38年	秋の部	寥々と冬近き日や野を照す	冬近し	時候
5854	明治38年	秋の部	山僧の指さす方や柿もみぢ	柿紅葉	植物
5855	明治38年	秋の部	蓮の骨智深の酔のさめにけり	破蓮	植物
5856	明治38年	秋の部	梅落葉疾く柳ちる徐るに	柳散る	植物
5857	明治38年	秋の部	神嘗の祭も知らずいわし引	鱒引	人事
5858	明治38年	秋の部	山の幸柿と易へたる鱒かな	鱒	動物
5859	明治38年	秋の部	鱒引く子等や濱辺の小學校	鱒引	人事
5860	明治38年	秋の部	題目の信者ばかりや鱒引	鱒引	人事
5861	明治38年	秋の部	小男の祖父が指図や鱒引	鱒引	人事
5862	明治38年	秋の部	草市に五文が花のあはれ哉	草市	人事
5863	明治38年	秋の部	稻妻や萬年青小暗き店の隅	稻妻	天文
5864	明治38年	秋の部	七夕のさびし柳の衰へ	七夕	人事
5866	明治38年	秋の部	葛の葉に人悲めり秋の風	秋の風	天文
5867	明治38年	秋の部	草花に汐垂衣しほりけり	草花	植物
5868	明治38年	秋の部	荒波の割れて碎けて裂けて秋	秋	時候
5869	明治38年	秋の部	女郎花角力の羽織ぬれにけり	女郎花	植物
5870	明治38年	秋の部	白扇に己物かきすてにけり	秋扇	人事
5871	明治38年	秋の部	思ひあまり扇の別れ泣にけり	秋扇	人事
5872	明治38年	秋の部	草の舎の母に蚊帳つる角力哉	角力	人事
5873	明治38年	秋の部	萬燈の一時に消ゆる野分哉	野分	天文
5874	明治38年	秋の部	野分して悲しき花となりけり	野分	天文
5875	明治38年	秋の部	上苑の水吹散らす野分哉	野分	天文
5876	明治38年	秋の部	天柱を碎いて秋の神立てり	竜田姫	天文
5877	明治38年	秋の部	電光の岩に碎けて海青し	稻妻	天文
5878	明治38年	秋の部	九頭の龍かと吾に秋寒し	秋寒	時候
5879	明治38年	秋の部	岩柱鰲の足を断って秋	秋	時候
5880	明治38年	秋の部	これ昔帝秋を鑄て成らざりき	秋	時候
5881	明治38年	秋の部	龍の血の凝りて秋風吹きたえず	秋の風	天文
5882	明治38年	秋の部	憤り去る酔人やみゝず鳴く	蚯蚓鳴く	動物
5883	明治38年	秋の部	秋風や天下に傳ふ百八句	秋の風	天文
5884	明治38年	秋の部	朱貴が箭の芦に没して渡鳥	渡鳥	動物
5885	明治38年	秋の部	蚊帳の別書巻の灯影あかき哉	秋の蚊帳	人事
5886	明治38年	秋の部	丈草と寝たりし蚊帳の別哉	秋の蚊帳	人事
5887	明治38年	秋の部	写すべき庭の小草や秋涼し	新涼	時候
5888	明治38年	秋の部	無用の長物と糸瓜に歎きけり	糸瓜	植物
5889	明治38年	秋の部	鬼灯を吊して酒もうりにけり	鬼灯	植物
5890	明治38年	秋の部	満園の日や欣々と鳳仙花	鳳仙花	植物
5891	明治38年	秋の部	去る燕女心に悲めり	秋燕	動物
5892	明治38年	秋の部	水の音の絶えざるをきく夜長哉	夜長	時候
5893	明治38年	秋の部	重陽の下僕に故事を教へけり	重陽	人事
5894	明治38年	秋の部	人まれに茱萸かざしけり寒き風	茱萸	植物
5895	明治38年	秋の部	折ふしの雲割れやすし後の月	後の月	天文
5896	明治38年	秋の部	思はずの芒が中や渡鳥	渡鳥	動物
5897	明治38年	秋の部	菊に灯のその趣や古人の句	菊	植物
5898	明治38年	秋の部	秋風やぬかごこぼるゝ路の上	零餘子	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5899	明治38年	秋の部	路傍のぬかごこぼれてたまりけり	零餘子	植物
5900	明治38年	秋の部	このふくべ何の誰かに似たりけり	瓢	植物
5901	明治38年	秋の部	今年米五器の古きもめでたけれ	新米	人事
5902	明治38年	秋の部	佛壇の単を逸す夜寒哉	夜寒	時候
5903	明治38年	秋の部	礪确の山路やぬかごこぼれたり	零餘子	植物
5904	明治38年	秋の部	あか / \ と夜寒の灯かゝげけり	夜寒	時候
5905	明治38年	秋の部	芋汁に社日の酔を作にけり	芋	植物
5906	明治38年	秋の部	最明寺殿とも知らず糲をする	糲摺	人事
6067	明治39年	秋の部	懐の銭冷かにかうがひかな	冷か	時候
6184	明治39年	秋の部	秋立や星は柳を遠ざかり	立秋	時候
6185	明治39年	秋の部	刈柴の関路の露を拂ひけり	露	天文
6186	明治39年	秋の部	朝顔や尚伸びまさる小柴垣	朝顔	植物
6187	明治39年	秋の部	朝顔に誰ぞや火を鑽る家の中	朝顔	植物
6188	明治39年	秋の部	朝顔の鉢や電鈴鳴るところ	朝顔	植物
6189	明治39年	秋の部	安じて動ずとする南瓜かな	南瓜	植物
6190	明治39年	秋の部	新涼の疊の上や紙魚を打つ	新涼	時候
6191	明治39年	秋の部	新涼の掌にめず小石かな	新涼	時候
6192	明治39年	秋の部	篋にたま / \ 螢秋涼し	新涼	時候
6193	明治39年	秋の部	ひた / \ と水に木末や初あらし	初嵐	天文
6194	明治39年	秋の部	家低し象潟荒れて天の川	天の川	天文
6195	明治39年	秋の部	花火あかし荒れまさりゆく水驛	花火	人事
6196	明治39年	秋の部	四五本の花火あがりて旅情かな	花火	人事
6197	明治39年	秋の部	萩に笠離愁甚だ濃かに	萩	植物
6198	明治39年	秋の部	古松の薪となりぬ墓まあり	墓參	人事
6199	明治39年	秋の部	山頂に杖を揮ふや旅の秋	秋	時候
6200	明治39年	秋の部	剛力の面も振らず女郎花	女郎花	植物
6202	明治39年	秋の部	水急に短き芒見て過ぐる	芒	植物
6203	明治39年	秋の部	森來り蟬時雨去る舟はやし	蟬	動物
6204	明治39年	秋の部	嶮悪の山の朽木や秋の風	秋の風	天文
6205	明治39年	秋の部	滝の辺の百合に道なき嶮しさよ	百合	植物
6206	明治39年	秋の部	山迫るところ山飛ぶ蜻蛉哉	蜻蛉	動物
6207	明治39年	秋の部	夕陽の秋明かに山の峽	秋	時候
6208	明治39年	秋の部	蝸に船路せまりぬ最上川	蝸	動物
6209	明治39年	秋の部	蝸や宿坊見えて木下道	蝸	動物
6210	明治39年	秋の部	蝸の啼きやめば家に灯かな	蝸	動物
6211	明治39年	秋の部	蝸の樹に混堂の煙哉	蝸	動物
6212	明治39年	秋の部	蝸や九十九森に夕の汐	蝸	動物
6214	明治39年	秋の部	檜笠秋の蠅見る柱かな	秋の蠅	動物
6215	明治39年	秋の部	君が代は秋を用ゐず蠅叩	秋	時候
6216	明治39年	秋の部	菊に飛べば九日の蠅と興じけり	菊	植物
6217	明治39年	秋の部	草皆の穂に出る色や秋の蠅	秋の蠅	動物
6218	明治39年	秋の部	涼しさに尚打ちて棄つ秋の蠅	秋の蠅	動物
6219	明治39年	秋の部	片われの月待ち得たる夜長かな	夜長	時候
6220	明治39年	秋の部	そこばくの鶏頭吊す貧しくも	鶏頭	植物
6221	明治39年	秋の部	行秋の句屑紙屑賣りにけり	行秋	時候
6222	明治39年	秋の部	我と無我といづれ雀か蛤か	雀蛤となる	動物
6223	明治39年	秋の部	鱸割いて大河の景を誇りけり	鱸	動物
6224	明治39年	秋の部	慈恩寺の塔に人あり秋の雲	秋の雲	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6225	明治39年	秋の部	交りの此道棄てず新走	新酒	人事
6226	明治39年	秋の部	賣るものに椽餅もあり秋の風	秋の風	天文
6227	明治39年	秋の部	なも / \ と師やこわづくる野分の夜	野分	天文
6228	明治39年	秋の部	さらぼうて野分に立てり烽火守	野分	天文
6229	明治39年	秋の部	青樓の更に灯ともす野分哉	野分	天文
6230	明治39年	秋の部	野分やむで川明らかに渉りけり	野分	天文
6231	明治39年	秋の部	温泉烟の樹々に裂けゆく野分哉	野分	天文
6232	明治39年	秋の部	荻荇るや水明かに鳥もゐる	荻	植物
6233	明治39年	秋の部	風すさぶ短き荻に旅人かな	荻	植物
6234	明治39年	秋の部	荻鳴らす風や小舟が沖に出る	荻	植物
6235	明治39年	秋の部	出水して荻に風だも無かりけり	荻	植物
6236	明治39年	秋の部	晩風や錨を下ろす荻の窪	荻	植物
6238	明治39年	秋の部	木つゝきの啄き残して君は在り	啄木鳥	動物
6239	明治39年	秋の部	古酒誇る主の菊を盗みけり	菊	植物
6240	明治39年	秋の部	獣を見るべくなりぬ秋の霜	秋の霜	天文
6241	明治39年	秋の部	富みて且つ貴く銀杏落葉哉	銀杏散る	植物
6242	明治39年	秋の部	肌寒は通夜かな人の花作る	肌寒	時候
6243	明治39年	秋の部	鮓きびし名残の月に菊膾	菊膾	人事
6244	明治39年	秋の部	末枯れて惜まるゝ艸もなかりけり	末枯	植物
6245	明治39年	秋の部	末枯るゝ艸や芭蕉は与からず	末枯	植物
6246	明治39年	秋の部	末枯に蹊つくるは獸かな	末枯	植物
6247	明治39年	秋の部	末枯れて築に親しむべくなりぬ	末枯	植物
6248	明治39年	秋の部	早く已に戦さの跡の末枯るゝ	末枯	植物
6249	明治39年	秋の部	唐からし兎を憎む辞あり	唐辛子	植物
6250	明治39年	秋の部	選衣や小さき赤き唐からし	唐辛子	植物
6251	明治39年	秋の部	冷かさ心に知りぬ唐からし	唐辛子	植物
6252	明治39年	秋の部	紫の一本故に唐からし	唐辛子	植物
6253	明治39年	秋の部	太閤は海を渡らず唐からし	唐辛子	植物
6254	明治39年	秋の部	稻妻や芦をかすめて疾き舟	稻妻	天文
6255	明治39年	秋の部	朝兒をまばらに見たり初あらし	朝顔	植物
6256	明治39年	秋の部	草の宿朝兒の主人起きてあり	朝顔	植物
6257	明治39年	秋の部	鷹遠し白露の天の霽の色	白露	時候
6258	明治39年	秋の部	秋涼し夕山越の讀書人	新涼	時候
6259	明治39年	秋の部	新涼の草にうもれぬ聴蛙亭	新涼	時候
6260	明治39年	秋の部	秋の気をつんざいて山尖りけり	秋気	時候
6261	明治39年	秋の部	秋涼し白衣の人の徘徊す	新涼	時候
6262	明治39年	秋の部	馬引の馬いましめつ初あらし	初嵐	天文
6263	明治39年	秋の部	高々と鳴子すさまし月明り	鳴子	人事
6264	明治39年	秋の部	鳴子引け穂に出る草の花盛	草花	植物
6265	明治39年	秋の部	草の宿障子白きに夜半の虫	蟲	動物
6266	明治39年	秋の部	曉嵐に杖を揮へり露の空	露	天文
6267	明治39年	秋の部	つき鳴らす金剛杖や草の花	草花	植物
6268	明治39年	秋の部	初秋の星や柳に遠ざかる	初秋	時候
6269	明治39年	秋の部	主藏れ賓行く庭の芭蕉哉	芭蕉	植物
6270	明治39年	秋の部	庭深く数株の芭蕉長じけり	芭蕉	植物
6271	明治39年	秋の部	昔容の髣髴として芭蕉哉	芭蕉	植物
6272	明治39年	秋の部	鳩吹の悠容として吹居たり	鳩吹く	人事
6273	明治39年	秋の部	潮近くひたす并木や星月夜	星月夜	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6274	明治39年	秋の部	旧跡に家して芒ばかり哉	芒	植物
6275	明治39年	秋の部	盆の月娘をもたぬ家もなし	盆の月	天文
6276	明治39年	秋の部	要害の地を諳じて薬掘	薬掘	人事
6277	明治39年	秋の部	踊子の色白うして昼居たり	踊	人事
6278	明治39年	秋の部	庭の隅暗きに紫菀ぬきんでし	紫菀	植物
6279	明治39年	秋の部	臨邛の其夜を悔うる砧かな	砧	人事
6280	明治39年	秋の部	初嵐葛の薺かげ小提灯	初嵐	天文
6281	明治39年	秋の部	馬引の提灯小さし初あらし	初嵐	天文
6282	明治39年	秋の部	見る所古き牧場や星月夜	星月夜	天文
6283	明治39年	秋の部	病中に秋海棠を写しけり	秋海棠	植物
6284	明治39年	秋の部	鶏頭の赤きにたぐふ角力哉	角力	人事
6285	明治39年	秋の部	間引菜の落散る畑や兒斜	間引菜	植物
6286	明治39年	秋の部	雨の月何に興じて主客哉	雨の月	天文
6287	明治39年	秋の部	五升程負債かへしぬ今年米	新米	人事
6288	明治39年	秋の部	七草に一草足らず鶉かな	鶉	動物
6289	明治39年	秋の部	片鶉誰ぞや竹枝を口吟む	鶉	動物
6290	明治39年	秋の部	新豆腐賣の家草の錦哉	雑	雑
6291	明治39年	秋の部	茸狩の人々の茸異りぬ	茸狩	人事
6292	明治39年	秋の部	がさこそと烏瓜引く僧都あり	烏瓜	植物
6293	明治39年	秋の部	落ち / \ て月夜となりぬ落シ水	落し水	地理
6294	明治39年	秋の部	菊作る家に賢き童かな	菊	植物
6295	明治39年	秋の部	駒迎閑の清水を尋ねけり	駒迎	人事
6296	明治39年	秋の部	靱すりの菊見る違なかりけり	靱摺	人事
6297	明治39年	秋の部	柿の木に上る子はいを打たぬなり	柿	植物
6298	明治39年	秋の部	金氣衝く五更に起きて讀詩哉	秋気	時候
6299	明治39年	秋の部	蓼干す家の後に尿かな	蓼干	人事
6300	明治39年	秋の部	天徳を糸瓜に生せり長き哉	糸瓜	植物
6301	明治39年	秋の部	八十の祖父と見てゐる糸瓜哉	糸瓜	植物
6302	明治39年	秋の部	二三子が糸瓜の長けを測りけり	糸瓜	植物
6303	明治39年	秋の部	赤菊のむら / \ と咲くつよさ哉	菊	植物
6304	明治39年	秋の部	尊しや八十にして菊作り	菊	植物
6305	明治39年	秋の部	花そばに人悪なく帰村かな	蕎麥花	植物
6306	明治39年	秋の部	懐ろにすべくもあらぬゆみそかな	柚味噌	人事
6307	明治39年	秋の部	唐辛子青き赤きを論じけり	唐辛子	植物
6308	明治39年	秋の部	此山の名所も知らず松露掘	松露	植物
6310	明治39年	秋の部	五台山を下れば野草花開く	草花	植物
6582	明治40年	秋の部	初秋や穂になる草の紅一点	初秋	時候
6583	明治40年	秋の部	庭に灌ぐ水の剩りや秋の立つ	立秋	時候
6584	明治40年	秋の部	初秋の尚宵々を出ありきぬ	初秋	時候
6585	明治40年	秋の部	初秋の飯喰うて人と別れけり	初秋	時候
6586	明治40年	秋の部	初秋に採るべき薬名を記す	初秋	時候
6587	明治40年	秋の部	明星や舷にちるあしの露	露	天文
6588	明治40年	秋の部	材木の間を行くや露しめり	露	天文
6589	明治40年	秋の部	露けしやよべの砧のありどころ	露	天文
6590	明治40年	秋の部	灯の色に夜露くだるを悟りけり	露	天文
6591	明治40年	秋の部	朝露のおくまもあらず秋浅し	秋浅し	時候
6592	明治40年	秋の部	露早く乾く葉檜や日の表	露	天文
6593	明治40年	秋の部	草の葉廣草の葉細や露の玉	露	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6594	明治40年	秋の部	白露の結ぶと見ればこぼれけり	露	天文
6595	明治40年	秋の部	花揉みて爪を染るも露の中	露	天文
6596	明治40年	秋の部	葉葡萄に酒成る秋を契りけり	葡萄酒醸す	人事
6597	明治40年	秋の部	古道の君待坂や女郎花	女郎花	植物
6598	明治40年	秋の部	七座の一座に咲や女郎花	女郎花	植物
6599	明治40年	秋の部	女郎花水ありさうな処かな	女郎花	植物
6600	明治40年	秋の部	夕立の雲を危み女郎花	女郎花	植物
6601	明治40年	秋の部	禿山の見るものにすや女郎花	女郎花	植物
6602	明治40年	秋の部	魚の眼の岩に危し秋の水	秋の水	地理
6603	明治40年	秋の部	新涼の耳穿つ也山の峽	新涼	時候
6604	明治40年	秋の部	軒近く穂に出る草や星まつり	七夕	人事
6605	明治40年	秋の部	星の戀魚は深きに潜みけり	星合い	人事
6606	明治40年	秋の部	山里は稗田に家す星まつり	七夕	人事
6607	明治40年	秋の部	何願ふ子等かさゝやく星の事	七夕	人事
6608	明治40年	秋の部	思出の梶の葉屑を袂かな	梶の葉	人事
6609	明治40年	秋の部	文机に両の袂や星まつり	七夕	人事
6610	明治40年	秋の部	湖の上に笛吹き止みぬ天の川	天の川	天文
6611	明治40年	秋の部	大沢に声何人ぞ天の川	天の川	天文
6612	明治40年	秋の部	昼越えし山の高きや天の川	天の川	天文
6613	明治40年	秋の部	野にあまる千種の花や天の川	天の川	天文
6614	明治40年	秋の部	桔梗咲く終日庭の日かげかな	桔梗	植物
6615	明治40年	秋の部	萩桔梗句合の序をあやどりぬ	雑	雑
6616	明治40年	秋の部	桔梗はすゝきにまじるべくもなし	桔梗	植物
6617	明治40年	秋の部	古銅器にさす草はあれと白桔梗	桔梗	植物
6618	明治40年	秋の部	家の集に妻が桔梗の一句かな	桔梗	植物
6619	明治40年	秋の部	店先の小桶に花や新豆腐	新豆腐	人事
6620	明治40年	秋の部	沙魚釣らぬ不興もをかし新豆フ	新豆腐	人事
6621	明治40年	秋の部	鶏頭に帘新豆フあり	新豆腐	人事
6622	明治40年	秋の部	清水に誰ぞこもる祇園は新豆腐	新豆腐	人事
6623	明治40年	秋の部	新豆腐に赤飯も焚いて旅祝ふ	新豆腐	人事
6624	明治40年	秋の部	十ヶ寺を詣で果さず新豆フ	新豆腐	人事
6625	明治40年	秋の部	新豆フに朝餉すましぬかしま立ち	新豆腐	人事
6626	明治40年	秋の部	厨にも萩のこぼれや新豆フ	新豆腐	人事
6627	明治40年	秋の部	肺腸の秋を浴くす新豆腐	新豆腐	人事
6628	明治40年	秋の部	くさびらを以て酬ひん新豆腐	新豆腐	人事
6629	明治40年	秋の部	一陣の風過るなり毛見の笠	毛見	人事
6630	明治40年	秋の部	毛見の衆に彗星の事申しけり	毛見	人事
6631	明治40年	秋の部	毛見ありと夙に起きたり三家村	毛見	人事
6632	明治40年	秋の部	鏝鏝として毛見の衆を驚かす	毛見	人事
6633	明治40年	秋の部	親と子と普請もすなり毛見の路	毛見	人事
6634	明治40年	秋の部	毛見の衆に郷先生の憤り	毛見	人事
6635	明治40年	秋の部	毛見の衆も鎮守の神に詣でけり	毛見	人事
6636	明治40年	秋の部	毛見の衆と見ゆ榛の木の雨宿り	毛見	人事
6637	明治40年	秋の部	毛見なれば山畑の粟の穂もつかむ	毛見	人事
6638	明治40年	秋の部	どや / \ と毛見来る宿や鶏の鳴く	毛見	人事
6639	明治40年	秋の部	雲霧の山路の菊の大ききよ	菊	植物
6640	明治40年	秋の部	掛稻のよく乾く日や菊の花	菊	植物
6641	明治40年	秋の部	縄きれに束ねあまりし黄菊哉	菊	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6642	明治40年	秋の部	高く積む書冊に菊の尚高し	菊	植物
6643	明治40年	秋の部	菊つむで喪中の厨ぬれにけり	菊	植物
6644	明治40年	秋の部	東宮の菊に四皓の遊かな	菊	植物
6645	明治40年	秋の部	一村の長して菊をつくりけり	菊	植物
6646	明治40年	秋の部	菊折らんと出づれば風や襟を吹く	菊	植物
6647	明治40年	秋の部	階前に菊の光や三槐堂	菊	植物
6648	明治40年	秋の部	里人の安息日や菊盛	菊	植物
6649	明治40年	秋の部	小高みな先人の碑や稲の中	稲	植物
6650	明治40年	秋の部	これ蘭これ菊群賢一堂	雑	雑
6651	明治40年	秋の部	白石磊々として高きに登りけり	登高	人事
6652	明治40年	秋の部	明日植ゑる苗圃の杉や秋の蝶	秋の蝶	動物
6653	明治40年	秋の部	よき程に聳ゆる山や木子狩	茸狩	人事
6654	明治40年	秋の部	日あるうちに藪を刈りけり秋の晴	秋晴	天文
6655	明治40年	秋の部	舌上に會して首肯づく柚味噌哉	柚味噌	人事
6656	明治40年	秋の部	登高の我に随ふ客もなし	登高	人事
6657	明治40年	秋の部	須臾にして暑移りぬ百舌の贅	鴝の贅	動物
6658	明治40年	秋の部	店に鮭あり炭焼の娘来る	鮭	動物
6659	明治40年	秋の部	大杉に照る日や杉の実を干しぬ	杉の實	植物
6660	明治40年	秋の部	菊に早く来つ筆墨の小商人	菊	植物
6661	明治40年	秋の部	門柱徒に大きく柳ちる	柳散る	植物
6662	明治40年	秋の部	杉の実を採る聾あり百舌の鳴	杉の實	植物
6663	明治40年	秋の部	杉植ん下草紅葉焼にけり	草錦	植物
6664	明治40年	秋の部	秋の日を避けてか栗鼠の枝移り	秋の日	天文
6665	明治40年	秋の部	木の実落つ中にちゝめくましら哉	木の實	植物
6666	明治40年	秋の部	山囲み方なる原や末枯るゝ	末枯	植物
6667	明治40年	秋の部	鑛山の香に耐へすとや女郎花	女郎花	植物
6668	明治40年	秋の部	相逢うて相語る林檎紅に	林檎	植物
6919	明治41年	秋の部	餅もなき垢離場の店や初嵐	初嵐	天文
6920	明治41年	秋の部	月影や突兀として芋の山	芋	植物
6921	明治41年	秋の部	川缺の淵となりゆく花野哉	花野	地理
6922	明治41年	秋の部	餘白ある一日記事や虫の声	蟲	動物
6923	明治41年	秋の部	登嶽を果さぬ悔や扇置く	秋扇	人事
6924	明治41年	秋の部	大銀杏の後の銀杏や放生会	放生会	人事
6926	明治41年	秋の部	米女鬼山の草花咲けば忌日なり	草花	植物
6927	明治41年	秋の部	展墓記事新そばの句を夾みけり	新蕎麥	人事
6928	明治41年	秋の部	俳席の掟柿食ふ法もあり	柿	植物
6929	明治41年	秋の部	方円の筆法風の芭蕉かな	芭蕉	植物
6930	明治41年	秋の部	御本陣の跡料理屋の芭蕉かな	芭蕉	植物
6931	明治41年	秋の部	神去るが如く芭蕉裂けつくす	芭蕉	植物
6932	明治41年	秋の部	釣るはぜの小さきよりす郷思かな	鯊釣	人事
6933	明治41年	秋の部	一川を領しはぜ釣るものは誰ぞ	鯊釣	人事
6934	明治41年	秋の部	吾に勝るものなしとはぜつり返る	鯊釣	人事
6935	明治41年	秋の部	誰々の祖父ども出会ふ墓参	墓参	人事
6936	明治41年	秋の部	人知らぬ鬢の二毛や墓参	墓参	人事
6937	明治41年	秋の部	地つゞきの山買ひ得たり墓参	墓参	人事
6938	明治41年	秋の部	登山者の下りつきし宿や灯籠吊る	燈籠	人事
6939	明治41年	秋の部	双棲の白き頭や軒灯籠	燈籠	人事
6940	明治41年	秋の部	草分の家すたれゆく灯籠哉	燈籠	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6941	明治41年	秋の部	家構骨太にして釣灯籠	燈籠	人事
6942	明治41年	秋の部	川上に橋ありと見ゆ灯籠哉	燈籠	人事
6943	明治41年	秋の部	奠都の議此地を相す稲の花	稲の花	植物
6944	明治41年	秋の部	木工頭に出羽の案内や稲の花	稲の花	植物
6945	明治41年	秋の部	碑の事に里をこぞりぬ稲の花	稲の花	植物
6946	明治41年	秋の部	一竿の沙魚には早し稲の花	稲の花	植物
6947	明治41年	秋の部	郷倉の礎置くや稲の花	稲の花	植物
6949	明治41年	秋の部	川下す木々相撃つやむら芒	芒	植物
6950	明治41年	秋の部	峰渡り笠に雲飛ぶ秋涼し	新涼	時候
6952	明治41年	秋の部	湖成りし神話も果てゝ天の川	天の川	天文
6953	明治41年	秋の部	魚の眼に秋知るか石に來去る	秋	時候
6954	明治41年	秋の部	秋と云へば波打越しぬ御座の石	秋	時候
6955	明治41年	秋の部	初嵐湖の浮木の浮沈	初嵐	天文
6957	明治41年	秋の部	湖の魚と我山の雲と君共に秋	秋	時候
6959	明治41年	秋の部	女人許す垢離場詣や初嵐	初嵐	天文
6960	明治41年	秋の部	三分缺けし月の出でけり扇置く	秋扇	人事
6961	明治41年	秋の部	水郷と云へど山聳ゆ秋扇	秋扇	人事
6962	明治41年	秋の部	親骨に刻める山や秋扇	秋扇	人事
6963	明治41年	秋の部	葉廣草裂けし夜荒れや扇おく	秋扇	人事
6964	明治41年	秋の部	思ふことしのぶの乱れ秋扇	秋扇	人事
6965	明治41年	秋の部	留むれど遂に去る西瓜白かりし	西瓜	植物
6966	明治41年	秋の部	硯洗へば恰も西瓜到來す	西瓜	植物
6967	明治41年	秋の部	灯に嵐しづまりて割く西瓜哉	西瓜	植物
6968	明治41年	秋の部	水中の■食西瓜の出來あしき	西瓜	植物
6969	明治41年	秋の部	秋声の賦の一佳句や西瓜割く	西瓜	植物
6970	明治41年	秋の部	鳴子引讀尽す天下無用の書	鳴子	人事
6971	明治41年	秋の部	有用の書一部藏す夜学哉	夜学	人事
6972	明治41年	秋の部	帰急ぐ燕や草の穂長なる	秋燕	動物
6973	明治41年	秋の部	高光る日の皇子なれや菊荅む	菊	植物
6974	明治41年	秋の部	售らざる文自ら序す雁の声	雁	動物
6975	明治41年	秋の部	古墳発く博士一行や雁渡る	雁	動物
6976	明治41年	秋の部	同文の国漫遊や雁をきく	雁	動物
6977	明治41年	秋の部	建碑式の人散りたゞ雁渡る	雁	動物
6978	明治41年	秋の部	門額を始めて掲ぐ雁の声	雁	動物
6979	明治41年	秋の部	底ずれの舟洲につくや渡鳥	渡鳥	動物
6980	明治41年	秋の部	刈棄の莖細の蕎麦や鳥渡る	渡鳥	動物
6981	明治41年	秋の部	朝顔の手柴引く日や渡鳥	渡鳥	動物
6982	明治41年	秋の部	山を出づる帆柱の材や渡鳥	渡鳥	動物
6983	明治41年	秋の部	築に網底見ゆる川や鳥渡る	渡鳥	動物
7136	明治42年	秋の部	林相の図をたゞみけり天の川	天の川	天文
7137	明治42年	秋の部	案内宿も草分にして天の川	天の川	天文
7138	明治42年	秋の部	聾の博士泊めけり天の川	天の川	天文
7139	明治42年	秋の部	晒菅野を白うせり天の川	天の川	天文
7140	明治42年	秋の部	今を猶魚住まぬ湖や天の川	天の川	天文
7141	明治42年	秋の部	魂棚に魂來ますらん庭の月	魂祭	人事
7142	明治42年	秋の部	魂祭る親は八十九十かな	魂祭	人事
7143	明治42年	秋の部	魂棚もかざりて親子二人かな	魂祭	人事
7144	明治42年	秋の部	魂まつり女同胞住めりけり	魂祭	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7145	明治42年	秋の部	一睡の不覚を思ふ天の川	天の川	天文
7146	明治42年	秋の部	牧を出て驛逋の駿や天の川	天の川	天文
7147	明治42年	秋の部	先づ関に入るもの覇たり天の川	天の川	天文
7148	明治42年	秋の部	豪溪に居て豪溪を囚す天の川	天の川	天文
7149	明治42年	秋の部	陣法の古今に通ず天の川	天の川	天文
7150	明治42年	秋の部	天の川笠ぬふ菅を白うせり	天の川	天文
7151	明治42年	秋の部	咸陽の火のほ流れて天の川	天の川	天文
7152	明治42年	秋の部	談笑平日の如く柿の事	柿	植物
7153	明治42年	秋の部	去来忌や紙魚猶はしる後の雛	去来忌	人事
7154	明治42年	秋の部	一時遊ぶ大竹原や落柿舎忌	去来忌	人事
7155	明治42年	秋の部	角力鑑増補の僭も夜半の秋	秋の夜	時候
7156	明治42年	秋の部	茶焙ジは文具かあらず夜話の秋	秋の夜	時候
7157	明治42年	秋の部	墓荒れし昨日を憶ふ夜寒か南	夜寒	時候
7158	明治42年	秋の部	自然林の説に一致す夜寒かな	夜寒	時候
7159	明治42年	秋の部	芋掘れとそゝのかされて掘りに行く	芋	植物
7160	明治42年	秋の部	諄々と貯蓄すゝめも芋煮の間	芋	植物
7161	明治42年	秋の部	代受くること肯はず芋の主	芋	植物
7162	明治42年	秋の部	千両の馬を隣に芋の秋	芋	植物
7163	明治42年	秋の部	芋の饗再び句論強ひらるゝ	芋	植物
7164	明治42年	秋の部	毒茸と決めて寝ねたる夜寒哉	夜寒	時候
7165	明治42年	秋の部	栗飯を山と盛らるゝ夜寒かな	夜寒	時候
7166	明治42年	秋の部	祭衣裳箆箆に納む夜寒哉	夜寒	時候
7167	明治42年	秋の部	頭々顱々耳聳つる秋の風	秋の風	天文
7259	明治43年	秋の部	一穗の水を抽んず解夏旦	解夏	人事
7260	明治43年	秋の部	漫々地夜雨に漲る解夏の河	解夏	人事
7262	明治43年	秋の部	裏のあたり鶏頭見れば芋見れば	雑	雑
7264	明治43年	秋の部	新洪の句集の點者うべなひぬ	新洪	人事
7265	明治43年	秋の部	鶏頭を大きく作るこのあるじ	鶏頭	植物
7266	明治43年	秋の部	手を分つ辞艶なり露寒に	露寒	天文
7267	明治43年	秋の部	館下に尚住む十戸露しぐれ	露しぐれ	天文
7268	明治43年	秋の部	獲物活きて築人かへる露空に	露	天文
7269	明治43年	秋の部	朝露や石を神にす素蠟燭	露	天文
7270	明治43年	秋の部	山を離れて山の威容や露をふむ	露	天文
7271	明治43年	秋の部	古戦場の講話一樹の露時雨	露しぐれ	天文
7272	明治43年	秋の部	然諾は露に馬蹄を軽くせり	露	天文
7274	明治43年	秋の部	柿貰ふ帰路を約せり朝晴に	柿	植物
7275	明治43年	秋の部	色白に汗して里婦や晴るゝ秋	秋晴	天文
7276	明治43年	秋の部	館といふ名に知るや鳥渡る音	渡鳥	動物
7277	明治43年	秋の部	治水策いかにあるべき雁の聲	雁	動物
7278	明治43年	秋の部	知る人に逢はずなりゆく野菊哉	野菊	植物
7279	明治43年	秋の部	船路取りし人を懐ふや花野晴	花野	地理
7280	明治43年	秋の部	語音鈍き老幼に柿饒かなり	柿	植物
7281	明治43年	秋の部	死ぬべかりしを又日の晴や栗黄む	栗	植物
7283	明治43年	秋の部	人に逢へば稔らぬ話野菊見て	野菊	植物
7284	明治43年	秋の部	近道を教へて訥や野菊あり	野菊	植物
7285	明治43年	秋の部	耳にせし巨木なし野菊咲つゞく	野菊	植物
7286	明治43年	秋の部	高山を右に行く / \ 野菊晴	野菊	植物
7287	明治43年	秋の部	湧く水を徒に見てすぐ野菊哉	野菊	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7353	明治44年	秋の部	物そのとほころを得たり萩桔梗	雑	雑
7355	明治44年	秋の部	真人の柵の獨木に虫静まりぬ	蟲	動物
7356	明治44年	秋の部	刀は傳家の話柄に更けつ虫の声	蟲	動物
7357	明治44年	秋の部	虫鳴くや硯洗ひて幾夜なる	蟲	動物
7358	明治44年	秋の部	寺にあれば文字も異様に虫の声	蟲	動物
7359	明治44年	秋の部	樹々古きに住まへバ虫の遠音なる	蟲	動物
7361	明治44年	秋の部	秋晴やさる扇屋を陋巷に	秋晴	天文
7362	明治44年	秋の部	君を訪へばげに琅玕居秋晴に	秋晴	天文
7363	明治44年	秋の部	削り荒らの柱歴々と晴るゝ秋	秋晴	天文
7364	明治44年	秋の部	庭石の奇特秋晴の水を吸ふ	秋晴	天文
7365	明治44年	秋の部	刀を見て意を得し一事秋晴に	秋晴	天文
7367	明治44年	秋の部	音訓の双耳穿つや秋の風	秋の風	天文
7369	明治44年	秋の部	真人山の霧を吞吐す誰々ぞ	霧	天文
7371	明治44年	秋の部	邊愁を写す字屑や草苺	草苺	植物
7373	明治44年	秋の部	縁起めく俚謠を耳に草紅葉	草錦	植物
7375	明治44年	秋の部	地図による水の源月に語りけり	月	天文
7376	明治44年	秋の部	月に知る釣針に秘訣あることを	月	天文
7377	明治44年	秋の部	鉄をきたえて獲る所あり月を見る	月	天文
7379	明治44年	秋の部	月に歩して菊の柳に意を致す	月	天文
7380	明治44年	秋の部	紫苑高し千たび鍛えし鉄匂ふ	紫苑	植物
7382	明治44年	秋の部	菊の花に生残る小蜂吾に飛ぶ	菊	植物
7383	明治44年	秋の部	菊に貧し雨姿風態の夙に起き	菊	植物
7384	明治44年	秋の部	菊の家柳の家の子等賢愚なし	菊	植物
7385	明治44年	秋の部	菊に開く柴門芭蕉に暗所あり	菊	植物
7386	明治44年	秋の部	旧友の衣裳美なり菊明らか	菊	植物
7481	明治45年	秋の部	山の月野の月賤が袖の露	露	天文
7483	明治45年	秋の部	愁ふれば一夜の老や案山子見る	案山子	人事
7485	明治45年	秋の部	鯊つりに意動けど雑書讀みあかぬ	鯊釣	人事
7486	明治45年	秋の部	鯊焼くは故人の子也草の宿	鯊	動物
7487	明治45年	秋の部	白雲一片鯊釣を見ぬ里もなし	鯊釣	人事
7488	明治45年	秋の部	鯊つりに説くに鱸の巨口哉	鯊釣	人事
7489	明治45年	秋の部	鯊つりの竿かあらぬか蘆の花	鯊釣	人事
7490	明治45年	秋の部	鯊焼いて残る燕の飛ぶと見し	鯊	動物
7491	明治45年	秋の部	野分江を過ぎて幾日か鯊肥えし	鯊	動物
7493	明治45年	秋の部	既にして例の松野路の秋晴るゝ	秋晴	天文
7494	明治45年	秋の部	弓の事は知らず秋晴の矢遠き	秋晴	天文
7495	明治45年	秋の部	明日の事君しか云へど晴るゝ秋	秋晴	天文
7496	明治45年	秋の部	漁者に就いて聞けるふし / \ 秋晴るゝ	秋晴	天文
7497	明治45年	秋の部	秋霞は晴の兆ぞ例の杉	秋霞	天文
7498	明治45年	秋の部	画題巨人の跡とあり晴るゝ秋の會	秋晴	天文
7500	明治45年	秋の部	みそなはせ我渋柿の生るは / \	柿	植物
7502	明治45年	秋の部	故人誰々因に柿の句をつくる	柿	植物
7503	明治45年	秋の部	柿青き久し釣來ては鯊をやく	柿	植物
7504	明治45年	秋の部	飽喫し去てその後柿に便りなし	柿	植物
7505	明治45年	秋の部	北国の柿渋く議論上下せり	柿	植物
7506	明治45年	秋の部	之子生れてまづ逢へり柿の秋晴に	柿	植物
7508	明治45年	秋の部	雁を射る眉目を誰にたくらべむ	雁	動物
7510	明治45年	秋の部	柿の句を作り了すこの風雨あり	柿	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7511	明治45年	秋の部	雷雨秋也乾坤を朗かにせり	秋	時候
7512	明治45年	秋の部	灯秋也尚断簡の文字を解せず	秋	時候
7514	明治45年	秋の部	一隻眼睛秋海棠も咲く	秋海棠	植物
7515	明治45年	秋の部	野菊にもとりノ名あり何とやら	野菊	植物
7516	明治45年	秋の部	着せ綿をふくと云ふ菊の蒼あり	菊	植物
7518	明治45年	秋の部	達磨忌の頭の中や江渺々	達磨忌	人事
7520	明治45年	秋の部	秋晴れの山下るるも獨也	秋晴	天文
7522	明治45年	秋の部	湯治帰り景に溢美や新酒酌む	新酒	人事
7523	明治45年	秋の部	茱萸つみのなどで新酒の馬追はぬ	新酒	人事
7633	大正2年	秋の部	水に降る露かあらぬか夜の音	露	天文
7635	大正2年	秋の部	瀑布の句百合の句酒の句となりぬ	雑	雑
7636	大正2年	秋の部	筆把れば書かざるまい踊るもの	踊	人事
7637	大正2年	秋の部	一語君に寄す秋涼しかるノ	新涼	時候
7639	大正2年	秋の部	巖怒り水激す秋をはしる雲	秋	時候
7640	大正2年	秋の部	筆下虹あり秋の水飛ぶ五十尺	秋の水	地理
7642	大正2年	秋の部	この道のこの記事涼し潮の香	涼し	時候
7644	大正2年	秋の部	あらまほしきもの水引の花さへも	水引花	植物
7645	大正2年	秋の部	つぶて雲白し朝露啼きあり	露	天文
7647	大正2年	秋の部	芭蕉我を覆ふあり月の食を見る	芭蕉	植物
7648	大正2年	秋の部	稲黄ばめり日に漂へる雲一片	稲	植物
7650	大正2年	秋の部	野菊晴れて文庫の本を借來る	野菊	植物
7651	大正2年	秋の部	薪割りし筋の痛ミや秋の暮	秋の暮	時候
7652	大正2年	秋の部	物思ひ夜の芭蕉に手を觸るゝ	芭蕉	植物
7653	大正2年	秋の部	薪干して子等を使役す秋の風	秋の風	天文
7654	大正2年	秋の部	遠足帰り貝殻に又灯す秋	秋の灯	人事
7655	大正2年	秋の部	遠足の貝殻も夜寒山どころ	夜寒	時候
7657	大正2年	秋の部	驛樹晴れて友の話端を飛ぶ蜻蛉	蜻蛉	動物
7658	大正2年	秋の部	驛の樹を緒に情話飛ぶとんぼ	蜻蛉	動物
7659	大正2年	秋の部	秋出水丘の狐の憎まるゝ	秋出水	地理
7660	大正2年	秋の部	菊の竹に小鳥來つ風に又去りつ	小鳥	動物
7661	大正2年	秋の部	新酒甕に盈てり家訓壁にあり	新酒	人事
7662	大正2年	秋の部	師弟黙す栗のいが道墓辺道	栗	植物
7663	大正2年	秋の部	端近の新米後の月夜なる	新米	人事
7665	大正2年	秋の部	菊の戸明し家訓長へに在り	菊	植物
7667	大正2年	秋の部	菊の林酒の泉をためしとて	菊	植物
7740	大正3年	秋の部	天子赫怒秋風吹て雲飛揚	秋の風	天文
7741	大正3年	秋の部	豊年の蓼も野菊も盛哉	豊年	人事
7742	大正3年	秋の部	只芭蕉葉の聲をきく星月夜	星月夜	天文
7743	大正3年	秋の部	高灯籠の下を流るゝ水の音	燈籠	人事
7744	大正3年	秋の部	秋風やあからさまなる薬艸	秋の風	天文
7745	大正3年	秋の部	日々好日と杉の實干してあり	杉の實	植物
7746	大正3年	秋の部	一別以來消息もなし蚊帳名残	秋の蚊帳	人事
7747	大正3年	秋の部	白と明け黄と暮るゝ菊に無事の家	菊	植物
7748	大正3年	秋の部	菊日和稲埃人馬驚かず	菊	植物
7749	大正3年	秋の部	菊風雨戦場こゝを去る遠し	菊	植物
7750	大正3年	秋の部	巻を掩へば庭前芭蕉裂くる音	破れ芭蕉	植物
7798	大正4年	秋の部	秋暑く栖む野の禽や羽虫見て	残暑	時候
7799	大正4年	秋の部	戸口掩ふ芭蕉の野分獨在り	野分	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7801	大正4年	秋の部	峯を離れし雲の行方や秋の水	秋の水	地理
7802	大正4年	秋の部	天子長壽を嘉し給へり菊の花	菊	植物
7803	大正4年	秋の部	菊の香や天杯下る賤が宿	菊	植物
7804	大正4年	秋の部	民もろ / \ 国中の菊の花に酔ふ	菊	植物
7805	大正4年	秋の部	菊の露をくすりと今日の壽詞哉	菊	植物
7806	大正4年	秋の部	老も病も吉日足日と菊に起つ	菊	植物
7807	大正4年	秋の部	菊尊黒酒白酒に耀けり	菊	植物
7808	大正4年	秋の部	舟はてゝ名月の帆をたゝみけり	名月	天文
7809	大正4年	秋の部	朝戸出の馬の肥へたり露しぐれ	露しぐれ	天文
7810	大正4年	秋の部	海山の幸に菊照る國中哉	菊	植物
7811	大正4年	秋の部	民もろ / \ 菊といふ菊に酔にけり	菊	植物
7812	大正4年	秋の部	漁者樵者一輪の菊を仰ぎけり	菊	植物
7813	大正4年	秋の部	山量りの果の光拜みぬ	木の實	植物
7814	大正4年	秋の部	高光る日を浴びて新藁の山	新藁	人事
7816	大正4年	秋の部	酒は古く鯨を老とや來山忌	鯨	動物
7817	大正4年	秋の部	天津日の力を樹植う露しぐれ	露しぐれ	天文
7824	大正4年	秋の部	庭落葉渦いてやがて音もなし	落葉	植物
7825	大正4年	秋の部	報賽の又仰ぐ鐘やかへり花	歸り花	植物
7990	大正5年	秋の部	脛に草露や晨の鶏の聲	露	天文
7991	大正5年	秋の部	提灯に稻葉の露よ家に入る	露	天文
7992	大正5年	秋の部	魂棚の蓮も供物も干からびぬ	魂祭	人事
7993	大正5年	秋の部	喫茶帰路につく霧の月白し	霧	天文
7994	大正5年	秋の部	相撲見の早発ゆゝし霧の中	霧	天文
7996	大正5年	秋の部	比枝を左に老鶯や晝の月	老鶯	動物
7998	大正5年	秋の部	秋風に鞭うたれたる藜かな	秋の風	天文
8000	大正5年	秋の部	秋風にふるゝもの皆傷む哉	秋の風	天文
8002	大正5年	秋の部	秋風や父なる人の懷に	秋の風	天文
8004	大正5年	秋の部	山寺や木兎に石打つ秋の風	秋の風	天文
8005	大正5年	秋の部	秋風に偃す草起す獨哉	秋の風	天文
8006	大正5年	秋の部	白木槿言葉短く別れけり	木槿	植物
8007	大正5年	秋の部	野菊咲いて税吏至らぬ里もなし	野菊	植物
8008	大正5年	秋の部	鶏頻りに鳴いて朝露乾きけり	露	天文
8009	大正5年	秋の部	このあたりの草花折來糸瓜佛	草花	植物
8010	大正5年	秋の部	鯨釣の後に高さ穂蓼哉	鯨釣	人事
8011	大正5年	秋の部	釣竿の長き短き飛蜻蛉	蜻蛉	動物
8012	大正5年	秋の部	名月に小園の花ありやなし	名月	天文
8013	大正5年	秋の部	燕行く頃鬼灯の色づきぬ	鬼灯	植物
8014	大正5年	秋の部	蝸の別レ山上海を望みし今日	秋の蚊帳	人事
8015	大正5年	秋の部	客已に海越えつらむ扇置く	秋扇	人事
8016	大正5年	秋の部	路傍の紫蘇の香高く秋の風	秋の風	天文
8017	大正5年	秋の部	草花の残り少や雨に飽く	草花	植物
8018	大正5年	秋の部	掛稻に白雲高し山郭	掛稻	人事
8019	大正5年	秋の部	菊高く開かむとする山郭	菊	植物
8020	大正5年	秋の部	菊畑に立てバ風吹く衣かな	菊	植物
8021	大正5年	秋の部	菊の花高さを眉と齊うす	菊	植物
8022	大正5年	秋の部	風に吹かれ行く / \ 落穂拾ふ哉	落穂	植物
8023	大正5年	秋の部	谿水の里川となりぬ戸々の菊	菊	植物
8024	大正5年	秋の部	菊を見て安息日の講話哉	菊	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8025	大正5年	秋の部	草の実の各がじしゑむ徑かな	草の實	植物
8026	大正5年	秋の部	尾花くゞる小禽の行方曇りけり	芒	植物
8027	大正5年	秋の部	兒の群に吾兒の見えつ柿紅葉	柿紅葉	植物
8028	大正5年	秋の部	掲示板に夜學の事や柿紅葉	柿紅葉	植物
8029	大正5年	秋の部	串柿と粟の穂と日当る方の軒	雑	雑
8138	大正6年	秋の部	君が歌のさまに花咲く草の丈	草花	植物
8139	大正6年	秋の部	魂まつる花になりゆくや一穂草	魂祭	人事
8140	大正6年	秋の部	虫鳴けバしばらく虫の世界かな	蟲	動物
8141	大正6年	秋の部	初秋の空はしり雲斜なり	初秋	時候
8142	大正6年	秋の部	唐黍の葉に露上る夕餐かな	唐黍	植物
8144	大正6年	秋の部	新涼に夙起の煙藪をもる	新涼	時候
8145	大正6年	秋の部	新涼の小石や夜雨に露はれし	新涼	時候
8146	大正6年	秋の部	高山に神鳴りて角力盛也	角力	人事
8147	大正6年	秋の部	角力觀に山の奥より至りけり	角力	人事
8148	大正6年	秋の部	吾家の子が泣く聲や天の川	天の川	天文
8149	大正6年	秋の部	藪に家す人の起居や天の川	天の川	天文
8150	大正6年	秋の部	虫鳴くに熟睡しにけり帰省の子	蟲	動物
8151	大正6年	秋の部	晝の虫鳴いて香煙ますぐ也	蟲	動物
8152	大正6年	秋の部	鯉の子に翡翠飛び稲の花	稲の花	植物
8153	大正6年	秋の部	材木を引くやとゞろと稲の花	稲の花	植物
8154	大正6年	秋の部	南瓜の花大きく咲いて霧あがる	霧	天文
8156	大正6年	秋の部	遠忌夜話露下る雨の如し	露	天文
8157	大正6年	秋の部	秋雨に撲たるゝ草の項かな	秋の雨	天文
8158	大正6年	秋の部	新涼に生れかはりし目鼻哉	新涼	時候
8159	大正6年	秋の部	あれ見よや汝に飛來る赤蜻蛉	赤蜻蛉	動物
8160	大正6年	秋の部	秋風や農事講話の人少な	秋の風	天文
8161	大正6年	秋の部	桐の葉越し黒雲すぐる夜半の秋	秋の夜	時候
8162	大正6年	秋の部	鱒賣見つゝや稗田刈急ぐ	稗	植物
8164	大正6年	秋の部	故人をまのあたり「野草花開」の語	草花	植物
8165	大正6年	秋の部	憎むべき毛虫はたきつ秋の風	秋の風	天文
8166	大正6年	秋の部	草花の種採り採らず秋しぐれ	秋時雨	天文
8167	大正6年	秋の部	風蕭颯たり南瓜棚ほぐす	南瓜	植物
8171	大正6年	秋の部	淋しき草悲しき草も咲きにけり	草花	植物
8172	大正6年	秋の部	秋風の吹いて紫蘇の實扱きこぼす	秋の風	天文
8174	大正6年	秋の部	穂芒も少なに雨の月の前	雨の月	天文
8175	大正6年	秋の部	樹枝飛んで野分の人顔傷む	野分	天文
8176	大正6年	秋の部	野分吹けども動かざる雲高し	野分	天文
8177	大正6年	秋の部	飄々と野分の花をくゞりけり	野分	天文
8179	大正6年	秋の部	靡く尾花を劍とも見む晴あり	芒	植物
8181	大正6年	秋の部	通草藪へ我よりも先に小禽かな	通草	植物
8182	大正6年	秋の部	秋風に馳下りけり暮るゝ山	秋の風	天文
8183	大正6年	秋の部	草臥れし裳の草の實に家の灯よ	草の實	植物
8185	大正6年	秋の部	吾大君にさゝぐべき菊開きけり	菊	植物
8186	大正6年	秋の部	山に對して歌無からめや菊佳節	明治節	人事
8187	大正6年	秋の部	佳節ほぐ子等也柿の小路より	明治節	人事
8188	大正6年	秋の部	穀物の地に墜つ悲し暮るゝ秋	暮の秋	時候
10511	大正6年	秋の部	吹く風の音さへ竹の秋ごゝる	秋	時候
10659	大正6年	秋の部	吹く風の音さへ竹の秋ごころ	秋ごころ	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8327	大正7年	秋の部	石の秘の三千年や葛の花	葛の花	植物
8328	大正7年	秋の部	秋浅し藪伐れバ栗の青毬も	秋浅し	時候
8329	大正7年	秋の部	實をもちて秋草となりぬ深山はや	秋の草	植物
8330	大正7年	秋の部	山道に憩へば秋の雲の影	秋の雲	天文
8331	大正7年	秋の部	花葛に身を没しけり道しるべ	葛の花	植物
8332	大正7年	秋の部	一竿を収めて霧のあがる見る	霧	天文
8333	大正7年	秋の部	鶏頭や今し釣来て小鯊焼く	鶏頭	植物
8335	大正7年	秋の部	秋風や一時にかゞむ草の骨	秋の風	天文
8337	大正7年	秋の部	新涼や骨軽々と鶴の如	新涼	時候
8338	大正7年	秋の部	露けしや折りたく柴の乏しきに	露	天文
8339	大正7年	秋の部	満ちこぼるゝ一朝の露に目を張りぬ	露	天文
8340	大正7年	秋の部	祖父と孫としとゝ露けき草履哉	露	天文
8341	大正7年	秋の部	月一川鯊釣何ぞ歸らざる	鯊釣	人事
8342	大正7年	秋の部	月逾々蕎麦畑白し山廓	蕎麦花	植物
8343	大正7年	秋の部	東山の月に應對す讀書樓	月	天文
8344	大正7年	秋の部	來ぬ友の遠し無月の灯を挑ぐ	無月	天文
8345	大正7年	秋の部	すさまじや露ふる樹下の破床几	露	天文
8346	大正7年	秋の部	夕草の咲き活きて月の出を望む	月	天文
8347	大正7年	秋の部	庭の月に見入れバ櫻落葉かな	月	天文
8348	大正7年	秋の部	夜半風起り無月の雲を掃ふ	無月	天文
8349	大正7年	秋の部	雨戸引けバ燈火無月の供物哉	無月	天文
8350	大正7年	秋の部	村のためこぞる青年や月の秋	月	天文
8351	大正7年	秋の部	一樹の影河心に届る月の前	月	天文
8352	大正7年	秋の部	月光に堪へて桐の葉の音もなし	月	天文
8353	大正7年	秋の部	夜長語る遠足の子の寝入りたり	夜長	時候
8354	大正7年	秋の部	星高し夜長の露の降りまさる	夜長	時候
8355	大正7年	秋の部	鱸獲し父を待ち得たり夜長の灯	夜長	時候
8356	大正7年	秋の部	フト覺むれば尚靱磨の夜長なる	夜長	時候
8357	大正7年	秋の部	晝見し海を眼に夜長の室に在り	夜長	時候
8358	大正7年	秋の部	雨風や怖るともなく夜長守る	夜長	時候
8359	大正7年	秋の部	山の果の朱に紫に夜長の灯	夜長	時候
8360	大正7年	秋の部	夜長知らでうまゐしにけり子等が國	夜長	時候
8361	大正7年	秋の部	夜長なる櫛の葉風の止まぬ哉	夜長	時候
8362	大正7年	秋の部	夜長歸る我に門樹のだまり立つ	夜長	時候
8363	大正7年	秋の部	夜長うして登高の苞披かれし	夜長	時候
8364	大正7年	秋の部	後の月も雨に夜長の獨哉	夜長	時候
8365	大正7年	秋の部	著るく飲けゆく月に夜々長き	夜長	時候
8366	大正7年	秋の部	紅葉ます / \ 濃く水いよ / \ 澄む	紅葉	植物
8367	大正7年	秋の部	白雲の浮べるまゝや草錦	草錦	植物
8368	大正7年	秋の部	家まばら石高道に柳散る	柳散る	植物
8370	大正7年	秋の部	幸にして菊尚枯れずあり	菊	植物
8371	大正7年	秋の部	落穂食む一鳥我に驚かず	落穂	植物
8514	大正8年	秋の部	花火消えて家路を思ふ三十里	花火	人事
8516	大正8年	秋の部	皆飛ぶに我もまじりぬ稻雀	稻雀	動物
8517	大正8年	秋の部	職人が早起きて居り露の中	露	天文
8518	大正8年	秋の部	鉄負ひしかぬちと逢ひぬ女郎花	女郎花	植物
8519	大正8年	秋の部	蟬鳴て驛道近し峠道	蟬	動物
8520	大正8年	秋の部	新涼に堪へて云ひつぐ神話哉	新涼	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8521	大正8年	秋の部	新涼や艶に消えたる揚花火	新涼	時候
8522	大正8年	秋の部	新涼やまばらに青き栗のいが	新涼	時候
8523	大正8年	秋の部	新涼に下草もなき社木哉	新涼	時候
8524	大正8年	秋の部	新涼や尚灯を慕ふ虫の数	新涼	時候
8525	大正8年	秋の部	新涼の郷思を載せて車哉	新涼	時候
8526	大正8年	秋の部	客のために石器運ぶや花葵	葵	植物
8527	大正8年	秋の部	蟬涼し神威に息を調ふる	蟬	動物
8528	大正8年	秋の部	新涼に高知る千木や雲見ゆる	新涼	時候
8529	大正8年	秋の部	水草の根は定まりぬ飛蜻蛉	蜻蛉	動物
8530	大正8年	秋の部	水澄むや菱の葉強に秋の蝶	秋の蝶	動物
8531	大正8年	秋の部	蝨紛々物も思はぬ小百姓	蝨	動物
8532	大正8年	秋の部	暮るゝ戸や誰につき来て蝨ゐる	蝨	動物
8533	大正8年	秋の部	露はしりて當るべからず芋畑	芋	植物
8534	大正8年	秋の部	芒野に顧るおのれ獨かな	芒	植物
8535	大正8年	秋の部	野菊咲きつらなるに客と歡べり	野菊	植物
8536	大正8年	秋の部	落つる日を後ろになして山田刈る	稲刈	人事
8537	大正8年	秋の部	身にしむや稲妻老いし山の雲	稲妻	天文
8538	大正8年	秋の部	秋風に靡くなびかぬ千草哉	秋の風	天文
8539	大正8年	秋の部	秋風に堪へて物いはず渡守	秋の風	天文
8540	大正8年	秋の部	秋風に干竿の鳴る夜となりぬ	秋の風	天文
8541	大正8年	秋の部	秋風に顔うつむけて晩歸哉	秋の風	天文
8542	大正8年	秋の部	秋風や手にしかと持つ茱萸の枝	秋の風	天文
8543	大正8年	秋の部	月の雲はしり去り虫高く鳴く	蟲	動物
8544	大正8年	秋の部	秋の雨暮れなんと虹見ゆる	秋の雨	天文
8545	大正8年	秋の部	霧を見る晴定めつ柿梢	霧	天文
8546	大正8年	秋の部	霧漫々戸に偏りて秋海棠	秋海棠	植物
8547	大正8年	秋の部	夜栗量る隣を耳に讀書哉	栗	植物
8548	大正8年	秋の部	行く人皆掛稲にかくれけり	掛稲	人事
8549	大正8年	秋の部	夫婦して新藁高く積上げつ	新藁	人事
8550	大正8年	秋の部	渋柿に稲扱器械ひゞく也	柿	植物
8551	大正8年	秋の部	風北に変わり豆引働きぬ	豆引	人事
8552	大正8年	秋の部	さらぼうて穂蓼まじりぬ草錦	草錦	植物
8553	大正8年	秋の部	菊の露を冒し蝨食む小虫哉	菊	植物
8554	大正8年	秋の部	菊畑の天の一方山崇き	菊	植物
8555	大正8年	秋の部	花々葉々相倚りて菊光る哉	菊	植物
8556	大正8年	秋の部	杉の実干す人に分たむ契哉	杉の實	植物
8557	大正8年	秋の部	大方の紅葉が中の菊光る	菊	植物
8558	大正8年	秋の部	背戸の菊に徑してゆく杉林	菊	植物
8559	大正8年	秋の部	ゆく秋の小禽と道に別れけり	行秋	時候
8560	大正8年	秋の部	尾花ちるに非ずや後の月夜頃	芒散る	植物
8561	大正8年	秋の部	童子去れば小鳥が遊ぶ散银杏	银杏散る	植物
8563	大正8年	秋の部	秋の海矢聲沈みて八百年	秋の海	地理
8564	大正8年	秋の部	燕既に歸りつくしぬ晝砧	砧	人事
8565	大正8年	秋の部	女より高き穂蓼や晝砧	砧	人事
8566	大正8年	秋の部	砧きく古き夢路や奈良の月	砧	人事
8567	大正8年	秋の部	山鳴りの絶えし安堵の砧かな	砧	人事
8568	大正8年	秋の部	砧措きて灯にこぞりけり京便	砧	人事
8569	大正8年	秋の部	砧うちて大学に入る子勵ましつ	砧	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8570	大正8年	秋の部	砧うつや母の年忌の近づくに	砧	人事
8571	大正8年	秋の部	ひとり砧うち行ひすましけり	砧	人事
8572	大正8年	秋の部	世の中は砧もうたず月に笛	砧	人事
8573	大正8年	秋の部	山里や砧に馴れて狸など	砧	人事
8574	大正8年	秋の部	月に怨じ風に啣ちてぞ砧うつ	砧	人事
8575	大正8年	秋の部	嫗一人砧うつ狐狸のすみか哉	砧	人事
8696	大正9年	秋の部	分野秋涼し筆星硯星	新涼	時候
8697	大正9年	秋の部	初嵐人谿川を渉りゆく	初嵐	天文
8698	大正9年	秋の部	風簷を鳴らして天の川老いし	天の川	天文
8699	大正9年	秋の部	地にありて早怖れつ天の川	天の川	天文
8700	大正9年	秋の部	詩人何に獨起きたり天の川	天の川	天文
8702	大正9年	秋の部	ころ／＼と我に虫鳴く門出哉	蟲	動物
8703	大正9年	秋の部	野路の虫鳴止まず我旅行くに	蟲	動物
8704	大正9年	秋の部	此清水護る神います杉嵐	秋の嵐	天文
8705	大正9年	秋の部	踊子の兒白々と稗田ゆく	踊	人事
8706	大正9年	秋の部	君にして踊らば誰か踊らざらん	踊	人事
8707	大正9年	秋の部	終夜一樹を繞る踊かな	踊	人事
8708	大正9年	秋の部	暁の霧踊の場を封じけり	踊	人事
8709	大正9年	秋の部	山一ツ越えて踊に通ひけり	踊	人事
8710	大正9年	秋の部	山陰の踊見せうぞ急げ馬	踊	人事
8711	大正9年	秋の部	灯も置かで踊の留守居したりけり	踊	人事
8712	大正9年	秋の部	踊果てつ牽牛織女あか／＼と	踊	人事
8713	大正9年	秋の部	姉妹の踊を戻る先後かな	踊	人事
8714	大正9年	秋の部	おば子十七踊は今ぞ笛もよし	踊	人事
8716	大正9年	秋の部	皆共に月を悲しきものと見む	月	天文
8718	大正9年	秋の部	此月に鬚眉耀かす人あらむ	月	天文
8721	大正9年	秋の部	一日無事なれば菊の主たり	菊	植物
8722	大正9年	秋の部	菊の蒼大きくなりぬ霧の中	菊	植物
8723	大正9年	秋の部	朝戸出に菊恙なし禽も飛ぶ	菊	植物
8724	大正9年	秋の部	年々や籬落の菊に往返り	菊	植物
8725	大正9年	秋の部	菊畑に物の落葉の乾きけり	菊	植物
8726	大正9年	秋の部	後の月を市に泊りし山の人	後の月	天文
8727	大正9年	秋の部	朝寒に衣の塵を掃ひけり	朝寒	時候
8728	大正9年	秋の部	温かき飯振まひぬ菊の宿	菊	植物
8729	大正9年	秋の部	風菊を撼かして主客黙しけり	菊	植物
8731	大正9年	秋の部	君が菊星ともならで蒼む哉	菊	植物
8732	大正9年	秋の部	菊に喚べば杳かに鷹ふ孤ツ松	菊	植物
8733	大正9年	秋の部	物の葉を掃きてすてけり後の月	後の月	天文
8734	大正9年	秋の部	霧の海に鳴子の縄のゆくへ哉	鳴子	人事
8735	大正9年	秋の部	蓼赤し野川にたるむ鳴子縄	鳴子	人事
8736	大正9年	秋の部	鳴子鳴つてのそりと立ちぬ山の僧	鳴子	人事
8737	大正9年	秋の部	社鼓鑿々鳴子の縄のくも手哉	鳴子	人事
8738	大正9年	秋の部	いさゝかの粟田に鳴子物々し	鳴子	人事
8739	大正9年	秋の部	遠き案山子近き鳴子の構哉	雑	雑
8740	大正9年	秋の部	逢はぬ恋夜の鳴子を鳴らしけり	鳴子	人事
8741	大正9年	秋の部	かりそめの纏れの解けて鳴子かな	鳴子	人事
8742	大正9年	秋の部	引板鳴って鴻高く渡りけり	鳴子	人事
8743	大正9年	秋の部	稻妻に鳴子静まる小村哉	鳴子	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8744	大正9年	秋の部	山郭や落穂拾ひに日一ツ時	落穂	植物
8745	大正9年	秋の部	老の身を屈めて落穂あさる哉	落穂	植物
8746	大正9年	秋の部	畔草の錦の中の落穂哉	落穂	植物
8747	大正9年	秋の部	落穂拾ふ子に北國の雲低れつ	落穂	植物
8748	大正9年	秋の部	落穂拾うてゆく / \ 霰至りけり	落穂	植物
8851	大正10年	秋の部	朝寒の中に遠山鎮まりぬ	朝寒	時候
8852	大正10年	秋の部	骨を去らぬ登山疲レや初嵐	初嵐	天文
8853	大正10年	秋の部	子一人のため機織るや初嵐	初嵐	天文
8854	大正10年	秋の部	帳中の詩人の燈や初嵐	初嵐	天文
8855	大正10年	秋の部	初嵐のなごり小庭の穂草哉	初嵐	天文
8856	大正10年	秋の部	初嵐秋海棠に及びけり	初嵐	天文
8857	大正10年	秋の部	家々の葉生姜茂り初嵐	初嵐	天文
8858	大正10年	秋の部	馬どころ馬皆美也初嵐	初嵐	天文
8859	大正10年	秋の部	客を送って潮をきゝつ初嵐	初嵐	天文
8860	大正10年	秋の部	物かげの秋海棠や初嵐	初嵐	天文
8861	大正10年	秋の部	女郎花の類ひ靡かす初嵐	初嵐	天文
8862	大正10年	秋の部	峠越す相撲の衆や初嵐	初嵐	天文
8864	大正10年	秋の部	白骨の白さ漾ふ露の中	露	天文
8865	大正10年	秋の部	朝寒や起きて文かく喪中人	朝寒	時候
8866	大正10年	秋の部	朝寒に花肥ゆるなり朝な / \	朝寒	時候
8867	大正10年	秋の部	朝寒を尚りん / \ と虫の声	朝寒	時候
8868	大正10年	秋の部	朝寒や早起に慣れて花を剪る	朝寒	時候
8869	大正10年	秋の部	虫更けてはや朝寒を催しぬ	朝寒	時候
8870	大正10年	秋の部	朝寒にから / \ と笑ふ家の兒等	朝寒	時候
8871	大正10年	秋の部	朝寒に狩得て悲し鮎の腹	朝寒	時候
8872	大正10年	秋の部	朝寒を提け來る鱸らし	朝寒	時候
8873	大正10年	秋の部	朝寒の横雲割れて日を顔に	朝寒	時候
8876	大正10年	秋の部	ほくよみがやがらにすなる案山子哉	案山子	人事
8878	大正10年	秋の部	此水に鮎みずなりぬ花すゝき	芒	植物
8879	大正10年	秋の部	雲垂れて芒に道を得たりけり	芒	植物
8880	大正10年	秋の部	家を去る一里芒の旅心	芒	植物
8881	大正10年	秋の部	花芒案山子祭の客をまつ	芒	植物
8882	大正10年	秋の部	蟹寺に問答もなし花芒	芒	植物
8884	大正10年	秋の部	雨の如くつゆふる頃の事なりし	露	天文
8886	大正10年	秋の部	柿の味さめてゆく / \ 野菊見る	野菊	植物
8887	大正10年	秋の部	野菊さいて雀など飛ぶ古人の碑	野菊	植物
8888	大正10年	秋の部	祀られぬ案山子や野菊咲残る	野菊	植物
8889	大正10年	秋の部	日は山へ野菊に遊ぶ鳥もなし	野菊	植物
8890	大正10年	秋の部	我馬にむしり食はるゝ野菊哉	野菊	植物
8891	大正10年	秋の部	鐘の銘も野菊も古き世なりけり	野菊	植物
8892	大正10年	秋の部	野菊白く月東山に現はれし	野菊	植物
8893	大正10年	秋の部	掛稲にかくれて野菊盛哉	野菊	植物
8894	大正10年	秋の部	酒さめて野菊に家を顧る	野菊	植物
8895	大正10年	秋の部	旅行けバ野菊に愁ふ曇哉	野菊	植物
8897	大正10年	秋の部	ある時は菊圃に立ちて風をきく	菊	植物
8898	大正10年	秋の部	日嗣の皇子國見せさすや稲の秋	稲	植物
8900	大正10年	秋の部	掛稲やけふの足日に飛ぶ蠡	掛稲	人事
8901	大正10年	秋の部	掛稲も野菊もぬれつ通り雨	雑	雑

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8902	大正10年	秋の部	稲人の安息日や菊膾	稲刈	人事
8903	大正10年	秋の部	稲積むや啄み足りて鶏歌ふ	稲刈	人事
8904	大正10年	秋の部	雲如錦神嘗の稲の秋	稲	植物
8905	大正10年	秋の部	門せまし稲扱機械柿落葉	稲こき	人事
8906	大正10年	秋の部	雁渡るかな掛稲の一郭	掛稲	人事
8907	大正10年	秋の部	稲の國粟の國八十神の國	雑	雑
8908	大正10年	秋の部	小提灯消さじと稲の露の中	稲	植物
9043	大正11年	秋の部	山霧の君が机を冒しけむ	霧	天文
9044	大正11年	秋の部	これより行け細道ながら露の中	露	天文
9046	大正11年	秋の部	つゆの音きゝつ一時の叢に	露	天文
9048	大正11年	秋の部	玫瑰に草鞋の埃浴せけり	玫瑰	植物
9050	大正11年	秋の部	麻どころの麻引くを見て帰る也	麻刈	人事
9051	大正11年	秋の部	北上の流騒がしや銀河	天の川	天文
9052	大正11年	秋の部	著るく洪水引きぬ天川	天の川	天文
9053	大正11年	秋の部	燕の歸らで淋し古戦場	秋燕	動物
9054	大正11年	秋の部	經堂を出て目を張りぬ百日紅	百日紅	植物
9055	大正11年	秋の部	白露や扉を開く金色堂	露	天文
9056	大正11年	秋の部	関守の子等とも見えず麻を引く	麻刈	人事
9057	大正11年	秋の部	六郡を稲妻す也草枕	稲妻	天文
9058	大正11年	秋の部	新涼や北上に飛ぶ杉嵐	新涼	時候
9059	大正11年	秋の部	如是月夜と知りて鳴く虫か	蟲	動物
9060	大正11年	秋の部	鳴く虫を脅かしたる一葉哉	蟲	動物
9062	大正11年	秋の部	道の辺の虫に響鳴らしゆく	蟲	動物
9063	大正11年	秋の部	經堂を出て階や晝の虫	蟲	動物
9064	大正11年	秋の部	虫の音を耳に墓辺の草むしる	蟲	動物
9065	大正11年	秋の部	曾良は知らず象潟の虫鳴初めし	蟲	動物
9066	大正11年	秋の部	押寄する狭霧に堪へて虫の鳴く	蟲	動物
9067	大正11年	秋の部	鳴く虫の鈴振立つる水際哉	蟲	動物
9068	大正11年	秋の部	虫鳴くや天にかゞやく星の華	蟲	動物
9069	大正11年	秋の部	虫鳴いて神の扉を護りけり	蟲	動物
9071	大正11年	秋の部	亭の長老子に乞ひぬ南瓜の賛	南瓜	植物
9072	大正11年	秋の部	秋風に孤峭の肩を吹かれけり	秋の風	天文
9073	大正11年	秋の部	抽ンでゝ大きく揺るゝ穂蓼哉	蓼の花	植物
9074	大正11年	秋の部	ひら / \ と風掠め去る芒かな	芒	植物
9075	大正11年	秋の部	物蔭に蒼める艸や秋しぐれ	秋時雨	天文
9076	大正11年	秋の部	月あまり明きに虫の声まばら	蟲	動物
9078	大正11年	秋の部	益良夫ハ秋の帝の賜ぞ	秋	時候
9080	大正11年	秋の部	薯掘に酒を強ひけり山遊	自然薯掘る	人事
9081	大正11年	秋の部	草の花摘まで且つ見る愁哉	草花	植物
9082	大正11年	秋の部	山に遊びて家の灯を見る秋の暮	秋の暮	時候
9086	大正11年	秋の部	白に黄に後の雛衣めをと衣	後の雛	人事
9088	大正11年	秋の部	秋風や恃むものなき物の蔓	秋の風	天文
9089	大正11年	秋の部	夕日ぬくし紅葉にや酔ふ手弱女ら	紅葉	植物
9090	大正11年	秋の部	巖山の終日湿ふむら紅葉	紅葉	植物
9091	大正11年	秋の部	歌御會還御の後や夕紅葉	紅葉	植物
9092	大正11年	秋の部	詩稿焚くに折りてくべたる紅葉哉	紅葉	植物
9093	大正11年	秋の部	紅葉せぬ庭木の下に獨在り	紅葉	植物
9094	大正11年	秋の部	時しもあれ紅葉の爛れ霰打つ	紅葉	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9095	大正11年	秋の部	梅紅葉籬の菊へ徑かな	紅葉	植物
9096	大正11年	秋の部	豆腐買ひに紅葉の谿を出て来る	紅葉	植物
9097	大正11年	秋の部	紅葉敷きて筆硯を置くや紅葉狩	紅葉狩	人事
9098	大正11年	秋の部	雨過ぐる紅葉の林鹿もぬれつ	紅葉	植物
9236	大正12年	秋の部	秋立つか雲の音聞け山の上	立秋	時候
9240	大正12年	秋の部	夜嵐や魂棚更けて灯孤ツ	魂祭	人事
9241	大正12年	秋の部	虫食ひの鬼灯悲し魂祭	魂祭	人事
9242	大正12年	秋の部	みそはぎをこぼして魂の去りけらし	魂祭	人事
9243	大正12年	秋の部	魂棚や夜の間にからぶ蓮の飯	魂祭	人事
9244	大正12年	秋の部	草花の数をつくして魂まつり	魂祭	人事
9245	大正12年	秋の部	つゆけしや人を送りて無言なる	露	天文
9246	大正12年	秋の部	一行の元氣朝つゆ乱れ散る	露	天文
9247	大正12年	秋の部	白露の中や朝鶏追ひ放す	露	天文
9248	大正12年	秋の部	白露や昨日終へたる庵曝書	露	天文
9250	大正12年	秋の部	新涼に苔を掃へり頌徳碑	新涼	時候
9251	大正12年	秋の部	新涼にものゝ二葉の生れけり	新涼	時候
9253	大正12年	秋の部	美人前にあり稲妻頻り也	稲妻	天文
9254	大正12年	秋の部	登山より歸る水村秋めきて	秋めく	時候
9255	大正12年	秋の部	貴人の登山遠雷畏けれ	登山	人事
9256	大正12年	秋の部	登山案内己が稗田に徑して	登山	人事
9257	大正12年	秋の部	素顔吹く霧や登山の女馬士	登山	人事
9258	大正12年	秋の部	登山宿の軒の草偃す嵐哉	登山	人事
9259	大正12年	秋の部	扇白く登山の客の逗留す	登山	人事
9260	大正12年	秋の部	登山元氣朝つゆ降らず潤葉樹	登山	人事
9261	大正12年	秋の部	登山戻れば灯籠ほのか草の宿	登山	人事
9262	大正12年	秋の部	七星斜なり登山のかしま立	登山	人事
9263	大正12年	秋の部	合歡花登山の便りに到りけり	合歡の花	植物
9265	大正12年	秋の部	秋風にふれてこぼれぬ露もなし	秋の風	天文
9266	大正12年	秋の部	秋風の吹くがまゝ也草も木も	秋の風	天文
9267	大正12年	秋の部	筆を輟めて栗ひく嵐聞きすます	栗	植物
9269	大正12年	秋の部	桐落葉踏んで大地を鳴らし去る	桐一葉	植物
9271	大正12年	秋の部	この程の忌日子規庵無事なりき	子規忌	人事
9273	大正12年	秋の部	柿くひし佛を偲ぶ物の本	柿	植物
9274	大正12年	秋の部	枝柿到來婆婆と疊の上に置く	柿	植物
9275	大正12年	秋の部	山盛りの柿くひつくす天高し	柿	植物
9276	大正12年	秋の部	柿くうて家を辞すれば風の吹く	柿	植物
9277	大正12年	秋の部	消息に酬いて柿の句を贈る	柿	植物
9278	大正12年	秋の部	秋晴の光の中の羽虫哉	秋晴	天文
9279	大正12年	秋の部	秋晴に羽たゝいて洲の鳥のゐる	秋晴	天文
9280	大正12年	秋の部	秋晴や松の鱗の片照りも	秋晴	天文
9281	大正12年	秋の部	秋晴に芒ともしく光りけり	秋晴	天文
9282	大正12年	秋の部	秋晴の夕となりし翠微哉	秋晴	天文
9284	大正12年	秋の部	網し得て夜寒に鯉の大ききよ	夜寒	時候
9285	大正12年	秋の部	旅路の事語りつゞけて夜寒哉	夜寒	時候
9286	大正12年	秋の部	萬巻の書に埋もれけり夜寒の灯	夜寒	時候
9287	大正12年	秋の部	夜寒の座を占め得たり庵の大硯	夜寒	時候
9288	大正12年	秋の部	二三人夜寒の灯かげ句を作る	夜寒	時候
9413	大正13年	秋の部	新涼や水を愛して水草も	新涼	時候

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9414	大正13年	秋の部	新涼や色濃かに深山艸	新涼	時候
9415	大正13年	秋の部	新涼やしばらく潜む魚の子ら	新涼	時候
9416	大正13年	秋の部	千生の未生の秋も涼しげに	新涼	時候
9417	大正13年	秋の部	新涼の流れて星の疎なる	新涼	時候
9419	大正13年	秋の部	白扇や瀑布見にまかる木下道	扇	人事
9421	大正13年	秋の部	巖踏んで宿にかへり來百合花	百合	植物
9422	大正13年	秋の部	似タリ貝露と尾花のいさかひも	雑	雑
9423	大正13年	秋の部	鮑採の嘯岩に振ふかな	鮑	動物
9424	大正13年	秋の部	岩館の岩より起る秋の風	秋の風	天文
9425	大正13年	秋の部	旅今宵潮虫も鳴け宿の庭	蟲	動物
9426	大正13年	秋の部	四五人の踊に磯の香のたちぬ	踊	人事
9430	大正13年	秋の部	今朝の秋又青山と一搦す	今朝の秋	時候
9432	大正13年	秋の部	秋の草の千くさの中の穂長艸	秋の草	植物
9434	大正13年	秋の部	星まつる一むら萩をよるべ哉	七夕	人事
9435	大正13年	秋の部	秋風の山おろし來つ古簾	秋の風	天文
9437	大正13年	秋の部	磯の宿に名残の幟や濤の音	秋の蚊帳	人事
9438	大正13年	秋の部	月の瀾われて碎けて千々の秋	秋	時候
9439	大正13年	秋の部	秋風に吹かれて輕し漁り舟	秋の風	天文
9440	大正13年	秋の部	秋晴の海に入りけり山の裾	秋晴	天文
9442	大正13年	秋の部	道の友南北よりす秋の風	秋の風	天文
9443	大正13年	秋の部	秋風の中に一人や松に倚る	秋の風	天文
9444	大正13年	秋の部	高館に遊びて久し置扇	秋扇	人事
9445	大正13年	秋の部	置扇子が草花をむしり來る	秋扇	人事
9446	大正13年	秋の部	嵐吹いて尚棚に在る南瓜哉	南瓜	植物
9447	大正13年	秋の部	秋風や水急にして帆掛舟	秋の風	天文
9448	大正13年	秋の部	閑話柄主人が座右の南瓜哉	南瓜	植物
9449	大正13年	秋の部	事もなげに隣家南瓜を贈來る	南瓜	植物
9450	大正13年	秋の部	贈られし南瓜に何を酬いんか	南瓜	植物
9451	大正13年	秋の部	扇置くや壞古の作の未定稿	秋扇	人事
9453	大正13年	秋の部	供物くさゞ主人が足しぬ秋海棠	秋海棠	植物
9454	大正13年	秋の部	畑に出て月待ち得たる薄衣哉	月	天文
9455	大正13年	秋の部	月今し客の面を照しけり	月	天文
9456	大正13年	秋の部	書卷積みし方の小暗き月夜哉	月	天文
9457	大正13年	秋の部	穂芒の灯影無月の記を艸す	無月	天文
9458	大正13年	秋の部	頑に句を罵りぬ鶏頭花	鶏頭	植物
9460	大正13年	秋の部	人遠き思ひ夜寒に朝寒に	雑	雑
9462	大正13年	秋の部	皆人の顔色動く秋の風	秋の風	天文
9464	大正13年	秋の部	耳にとき樹間の聲や秋の風	秋の風	天文
9467	大正13年	秋の部	四五人を北へ送りぬ草紅葉	草錦	植物
9468	大正13年	秋の部	幾日ちる柳ぞ曇つゞく日ぞ	柳散る	植物
9591	大正14年	秋の部	白き花折持ちて蝸の谿	蝸	動物
9593	大正14年	秋の部	北を指せば東に聳ゆ雲の峰	雲の峰	天文
9594	大正14年	秋の部	霧蒼し北門こゝに開けたり	霧	天文
9596	大正14年	秋の部	石露はれて河骨の細々と	河骨	植物
9597	大正14年	秋の部	青葡萄熊に非ずバ何通ふ	青葡萄	植物
9598	大正14年	秋の部	露けしや昔の蝦夷の足跡も	露	天文
9599	大正14年	秋の部	羊蹄山端山裾山霧の降る	霧	天文
9600	大正14年	秋の部	夏霧に喬木の葡萄滴りぬ	夏霧	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9601	大正14年	秋の部	明日立たん旅の宿天の川淡し	天の川	天文
9602	大正14年	秋の部	北を限る國の旅寝や天の川	天の川	天文
9603	大正14年	秋の部	蝦夷人の笹の軒端や天の川	天の川	天文
9605	大正14年	秋の部	定山の魂も祭らず鴉啼く	魂祭	人事
9607	大正14年	秋の部	言葉を残し去る唐葵の花の中	立葵	植物
9608	大正14年	秋の部	秋立つと目に白樺の白さ哉	立秋	時候
9609	大正14年	秋の部	今朝秋や耳にあやしき駅路の名	今朝の秋	時候
9610	大正14年	秋の部	峰の木々秋立つ容つくり哉	立秋	時候
9613	大正14年	秋の部	奥蝦夷や樹海の果の女郎花	女郎花	植物
9617	大正14年	秋の部	花豆や砂に相撲へる蝦夷の子ら	角力	人事
9618	大正14年	秋の部	山にハ山の草花折りぬほつ / \と	草花	植物
9619	大正14年	秋の部	足に灌げ山の眞清水薬なる	清水	地理
9620	大正14年	秋の部	海山や知らぬ國なる女郎花	女郎花	植物
9621	大正14年	秋の部	蝦夷近し海風に偃す女郎花	女郎花	植物
9623	大正14年	秋の部	虫聲々筆の穂艸の細かに	蟲	動物
9625	大正14年	秋の部	膝を撃ちて蚊火の烟の中にあり	蚊遣	人事
9626	大正14年	秋の部	東北へ斜に南瓜棚作る	南瓜	植物
9627	大正14年	秋の部	庭草をくゞる嵐や茗荷の子	茗荷の子	植物
9628	大正14年	秋の部	秋風や壁にはためく書一軸	秋の風	天文
9630	大正14年	秋の部	はぎすゝきそも山男山女	雑	雑
9632	大正14年	秋の部	夜嵐や無月の欄の花すゝき	無月	天文
9633	大正14年	秋の部	果落す栗鼠を憎みて吟哦哉	木の實	植物
9635	大正14年	秋の部	天さかる鄙少女野菊たてまつれ	野菊	植物
9636	大正14年	秋の部	杉の里の夜寒畏し御火焚ら	夜寒	時候
9638	大正14年	秋の部	果敢なさは無月の詩筆措きもあへず	無月	天文
9640	大正14年	秋の部	雨を避くる物かげもなし草錦	草錦	植物
9641	大正14年	秋の部	松の里芙蓉の家や雨宿り	芙蓉	植物
9643	大正14年	秋の部	日中暖に眞垣の菊に倚り	菊	植物
9645	大正14年	秋の部	菊長短南山常の如くにて	菊	植物
9799	大正15年	秋の部	など斯くは蝸早き今年ぞも	蝸	動物
9801	大正15年	秋の部	燈火親し草の葉ずれを耳の底	燈火親し	人事
9802	大正15年	秋の部	燈火親し大空の覆ふ夜にして	燈火親し	人事
9803	大正15年	秋の部	庭の虫燈火親しと鳴出けむ	燈火親し	人事
9804	大正15年	秋の部	燈に親み山奥の湯に居残りぬ	燈火親し	人事
9805	大正15年	秋の部	秋の燈や端居になれて草の色	秋の灯	人事
9807	大正15年	秋の部	濱草の秋咲く花に暑さ哉	草花	植物
9808	大正15年	秋の部	合歡咲いて象潟近し旅心	合歡の花	植物
9809	大正15年	秋の部	三郡の水平かに稲の花	稲の花	植物
9810	大正15年	秋の部	秋の雲海の碧に影落す	秋の雲	天文
9811	大正15年	秋の部	白砂ふむ墓辺の道や合歡花	合歡の花	植物
9812	大正15年	秋の部	君が星臣が星宵々の秋	秋の宵	時候
9813	大正15年	秋の部	浦波に足ぬらし來つ胡麻の花	胡麻の花	植物
9814	大正15年	秋の部	白銀の翅も秋や浪千鳥	秋	時候
9815	大正15年	秋の部	三昧より起ちてか蚤を振りひけむ	蚤	動物
9816	大正15年	秋の部	樹の奥の鳩啼止め露の音	露	天文
9817	大正15年	秋の部	妙音朗々大竹原をもるも秋	秋	時候
9818	大正15年	秋の部	海明けぬいづこきのふの天の川	天の川	天文
9819	大正15年	秋の部	岩清水帰路一掬の名残哉	清水	地理

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9821	大正15年	秋の部	魂棚にみそなはすらむ旅衣	魂祭	人事
9822	大正15年	秋の部	魂棚の灯に参り會ふ旅路哉	魂祭	人事
9823	大正15年	秋の部	魂まつる越路の穂草見てすぎぬ	魂祭	人事
9824	大正15年	秋の部	魂祭宵月に立つ人の影	魂祭	人事
9825	大正15年	秋の部	魂棚の灯をつぎ足しぬ獨居て	魂祭	人事
9826	大正15年	秋の部	樹石皆神あるにつく / \ 法師	つくつく法師	動物
9827	大正15年	秋の部	幾秋の泉を旅の鏡哉	秋	時候
9828	大正15年	秋の部	遺墨かず / \ 西瓜の記事ハなかりけり	西瓜	植物
9829	大正15年	秋の部	朝兒のつゆに別を急ぎけり	朝顔	植物
9831	大正15年	秋の部	西東と釣りぬ大きな蠣ニツ	蚊帳	人事
9832	大正15年	秋の部	あはたゞしくかたみにくゞる蠣の裾	蚊帳	人事
9833	大正15年	秋の部	杯を置けバ鳩啼く別哉	鳩	動物
9835	大正15年	秋の部	鄙めきて百日紅咲く畏けれ	百日紅	植物
9836	大正15年	秋の部	蝸に何まどふべき物もなし	蝸	動物
9837	大正15年	秋の部	うき我にくれし林檎の小粒なる	林檎	植物
9838	大正15年	秋の部	黄金掘る山瘡せにけり花芒	芒	植物
9839	大正15年	秋の部	昔人ひたすがりけむ葛の花	葛の花	植物
9840	大正15年	秋の部	岩清水誰が俳腸をしぼりけむ	清水	地理
9842	大正15年	秋の部	岩根冷し鱒雲を呼ばふらん	鱒	動物
9843	大正15年	秋の部	盆休磯ハ磯草の花盛	盆休	人事
9845	大正15年	秋の部	青山やかさねて嗽ぐ水の秋	秋の水	地理
9846	大正15年	秋の部	みるかつぐ蟹少女夜踊るなり	踊	人事
9847	大正15年	秋の部	禅院の流れ水蝸の鳴く	蝸	動物
9848	大正15年	秋の部	木々開山が手栽らし蜻蛉とぶ	蜻蛉	動物
9849	大正15年	秋の部	滝道の喬木とんぼ飛び断えし	蜻蛉	動物
9850	大正15年	秋の部	磯馴松蜻蛉ハ町へ吹かれけり	蜻蛉	動物
9851	大正15年	秋の部	昼もうつ踊の太鼓とんぼ飛ぶ	蜻蛉	動物
9852	大正15年	秋の部	山際に蜻蛉とぶ見ゆ海平ラ	蜻蛉	動物
9854	大正15年	秋の部	これを喰ふ両三顆天爽かに	爽か	時候
9856	大正15年	秋の部	呱呱の聲あり千里さはやかに	爽か	時候
9858	大正15年	秋の部	女郎花よりか萩より芒へか	雑	雑
9860	大正15年	秋の部	萩の花咲の盛りや小酒盛	萩	植物
9862	大正15年	秋の部	稻妻や聳ゆるまゝに一の山	稻妻	天文
9864	大正15年	秋の部	秋風にくちゆくものゝ哀しさよ	秋の風	天文
9865	大正15年	秋の部	馬肥ゆる楽しさ萩の二番刈	馬肥ゆる	動物
9866	大正15年	秋の部	馬肥えて牧の秋風日たゞ吹く	馬肥ゆる	動物
9867	大正15年	秋の部	一峽の葛喰ひつくし馬肥ゆる	馬肥ゆる	動物
9868	大正15年	秋の部	ほと / \ と葉つゆ穂つゆや馬肥えし	馬肥ゆる	動物
9869	大正15年	秋の部	秋風や牽く駒肥えし不破の関	馬肥ゆる	動物
9871	大正15年	秋の部	黍は稈に立ついづこ魂遊ぶ	唐黍	植物
9873	大正15年	秋の部	萩に行かむ芒に來よと忙しさ	雑	雑
9875	大正15年	秋の部	つゆしぐれ鶉の床をみだしけむ	露しぐれ	天文
9876	大正15年	秋の部	翁さびて唐辛子干す日ありけり	唐辛子	植物
9877	大正15年	秋の部	礪确の土悲しさよ唐辛子	唐辛子	植物
9878	大正15年	秋の部	鎌倉や畑一ところ唐辛子	唐辛子	植物
9879	大正15年	秋の部	棒喝の唐辛子煮る邊哉	唐辛子	植物
9880	大正15年	秋の部	山畑や引残されし唐辛子	唐辛子	植物
9882	大正15年	秋の部	草花の種採りに出つ風の中	草花の種	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9883	大正15年	秋の部	草花の種こぼれたり草の老	草花の種	植物
9884	大正15年	秋の部	草花の種ぞ穂末に残りける	草花の種	植物
9885	大正15年	秋の部	草花の種小粒なり日の秋に	草花の種	植物
9886	大正15年	秋の部	草花の種の光や秋の風	草花の種	植物
9887	大正15年	秋の部	草花の種が飛ぶなり風の中	草花の種	植物
9889	大正15年	秋の部	秋の海深く行きけむ鱈廣に	秋の海	地理
9890	大正15年	秋の部	ホキと折れて手柴引かれぬ秋の風	手柴引	人事
9891	大正15年	秋の部	手柴引けバ蔓も断たれて秋の風	手柴引	人事
9892	大正15年	秋の部	手柴引けバ瓜の末生絡まりぬ	手柴引	人事
9893	大正15年	秋の部	手柴引く蔓の下草つゆけさよ	手柴引	人事
9894	大正15年	秋の部	手柴引く因みに仆す黍の稗	手柴引	人事
9896	大正15年	秋の部	むかし男今もこそ居れ鳩吹いて	鳩吹く	人事
9898	大正15年	秋の部	菊の花耀くばかり酒微醺	菊	植物
9900	大正15年	秋の部	酒壺のあたり紅葉の二三片	紅葉	植物
9901	大正15年	秋の部	したみつくす瓢の酒や紅葉寒	紅葉	植物
9902	大正15年	秋の部	荒がねの毒と流るゝ紅葉哉	紅葉	植物
9903	大正15年	秋の部	紅葉折りて心晩帰を急ぎけり	紅葉	植物
10109	昭和2年	秋の部	はらからの迎火に袖翻へす	迎火	人事
10110	昭和2年	秋の部	送火のかたばかり紵がら白々と	送火	人事
10111	昭和2年	秋の部	迎火や灯笼已にとりあはる	迎火	人事
10112	昭和2年	秋の部	送火や門辺の塵の露じめり	送火	人事
10113	昭和2年	秋の部	送火や潮の八百路の磯の宿	送火	人事
10114	昭和2年	秋の部	迎火や尚ひぐらしの一しきり	迎火	人事
10115	昭和2年	秋の部	樹藪蒼送火の烟消えにつゝ	送火	人事
10117	昭和2年	秋の部	客あり跋渉し來る今朝の秋	今朝の秋	時候
10118	昭和2年	秋の部	夜の蟬しば / \ 鳴くも寂しからむ	蟬	動物
10119	昭和2年	秋の部	君ありとなどか知るべき虫の聲	蟲	動物
10120	昭和2年	秋の部	只是の如し夕餐と蝸と	蝸	動物
10121	昭和2年	秋の部	夕を咲く花に行く / \ 里清水	清水	地理
10122	昭和2年	秋の部	遠き母に文かく野分吹やまず	野分	天文
10123	昭和2年	秋の部	朝兒の咲きあへず野分吹つる	野分	天文
10124	昭和2年	秋の部	野分吹て瀧道とざす草の丈	野分	天文
10125	昭和2年	秋の部	尚鳴くよ野分の底の虫一ツ	蟲	動物
10126	昭和2年	秋の部	関守に片われ月や野分ふく	野分	天文
10127	昭和2年	秋の部	雲折々山の瘤掃く野分哉	野分	天文
10128	昭和2年	秋の部	山畑や野分にたへて小百姓	野分	天文
10129	昭和2年	秋の部	母に文す野分の灯明らけく	野分	天文
10130	昭和2年	秋の部	名月の雲の黒さよ明るさよ	名月	天文
10131	昭和2年	秋の部	月今宵雲の深さを欄に倚る	月	天文
10132	昭和2年	秋の部	獨居を荒野の思月の雲	月	天文
10134	昭和2年	秋の部	紙魚はたきつくさず已に癩祭忌	子規忌	人事
10135	昭和2年	秋の部	秋といふたましひ木の実草の花	雑	雑
10136	昭和2年	秋の部	日に三たび絲瓜の老を省る	糸瓜	植物
10137	昭和2年	秋の部	山寺ハ蓮の青さに書を曝す	蟲干	人事
10138	昭和2年	秋の部	鯊釣の子等を停めて事問ひぬ	鯊釣	人事
10139	昭和2年	秋の部	鯊釣の子等にまじりて徑ゆく	鯊釣	人事
10141	昭和2年	秋の部	大木とならん相やつゆしぐれ	露しぐれ	天文
10143	昭和2年	秋の部	廬淺く秋風吹かぬ隈もなし	秋の風	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10144	昭和2年	秋の部	草の花木の實秋てふ魂か	雑	雑
10146	昭和2年	秋の部	一峰を前に後へに木子狩	茸狩	人事
10147	昭和2年	秋の部	籃の中木子乏しみ蜻蛉とぶ	茸	植物
10148	昭和2年	秋の部	遠く來つる海辺の人よ木子狩	茸狩	人事
10149	昭和2年	秋の部	雑茸の群がり起る端山哉	茸	植物
10150	昭和2年	秋の部	茸狩やさ霧に起きて朝餉	茸狩	人事
10151	昭和2年	秋の部	茸もなき芒の岡に上りけり	茸	植物
10152	昭和2年	秋の部	白魚を膾に花野遊哉	花野	地理
10153	昭和2年	秋の部	大海の魚を膾や花野酒	花野	地理
10154	昭和2年	秋の部	家につとに秋野の花や晴三里	花野	地理
10155	昭和2年	秋の部	水澄めるあたり菌老にけり	茸	植物
10156	昭和2年	秋の部	茸狩に疲れし夢や松青き	茸狩	人事
10157	昭和2年	秋の部	茸狩の頭挙ぐれば雲赤し	茸狩	人事
10158	昭和2年	秋の部	山果幾たび落つる夜長哉	夜長	時候
10159	昭和2年	秋の部	山寺や夜長に起きて栗鼠を追ふ	夜長	時候
10160	昭和2年	秋の部	長き夜のつもりて鬢の白さ哉	夜長	時候
10161	昭和2年	秋の部	古柳長々し夜を垂にけり	夜長	時候
10162	昭和2年	秋の部	反故ちるに夜長の膝を容にけり	夜長	時候
10473	昭和3年	秋の部	蓮咲くや松ハ懶き朝まだき	蓮	植物
10475	昭和3年	秋の部	背水の勢に在る案山子哉	案山子	人事
10477	昭和3年	秋の部	誰が晝より拔出でし萩食み足らず	萩	植物
10479	昭和3年	秋の部	鮎川の石に馬蹄を轟かす	鮎	動物
10480	昭和3年	秋の部	鮎狩のかたらひすなり石の上	鮎釣	人事
10481	昭和3年	秋の部	鮎の知る水のまさりや峽一雨	鮎	動物
10482	昭和3年	秋の部	鮎を釣る故人の面や上つ瀬に	鮎釣	人事
10483	昭和3年	秋の部	君を訪へば年魚の瀬音の高まさる	鮎	動物
10484	昭和3年	秋の部	串削る年魚の七瀬の主ぶり	鮎	動物
10485	昭和3年	秋の部	魚肥えぬ萩の下つゆ繁きより	萩	植物
10486	昭和3年	秋の部	きり岸の芒の影や魚走る	芒	植物
10488	昭和3年	秋の部	吾馬の墓辺秋草食まんとす	秋の草	植物
10490	昭和3年	秋の部	墨の痕と泉の聲と今朝の秋	今朝の秋	時候
10492	昭和3年	秋の部	月日知らぬ岩に青蔦からみけり	青蔦	植物
10493	昭和3年	秋の部	天の川注がむ岩門開けたり	天の川	天文
10495	昭和3年	秋の部	芒原に道片寄りし花野哉	花野	地理
10496	昭和3年	秋の部	思ひあがり雀も飛べる花野哉	花野	地理
10497	昭和3年	秋の部	尚白し花野に曬す馬の骨	花野	地理
10498	昭和3年	秋の部	花野行く耳にきのふの峽の聲	花野	地理
10499	昭和3年	秋の部	ぬか星の幾つこぼれし花野哉	花野	地理
10501	昭和3年	秋の部	胸打さはぎ葛吹く風止まず	葛	植物
10503	昭和3年	秋の部	聞説伽藍の内外秋の風	秋の風	天文
10505	昭和3年	秋の部	虫の音を文にもつゞれ旅せめて	蟲	動物
10506	昭和3年	秋の部	むし各常の夜の如鳴にけり	蟲	動物
10507	昭和3年	秋の部	鳴く虫を愛ずるに蛙こわ高な	蟲	動物
10508	昭和3年	秋の部	天と高く地と低しや蟲の聲	蟲	動物
10596	不詳	秋の部	山中の秋意や故人勘破の言	秋意	人事
10598	不詳	秋の部	先たゝず遅れじとすや茸取り	茸	植物
10599	不詳	秋の部	蟲鳴けば蟲聞く人に蛙かな	蟲	動物
10600	不詳	秋の部	雲の峯消えて蟲鳴く野となりぬ	蟲	動物

全年代

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10601	不詳	秋の部	雲間月あり蟲鳴きやまず	蟲	動物
10607	不詳	秋の部	よそほひや萩を見に出る女づれ	萩	植物